

静岡県立美術館年報

令和 2 年度

ANNUAL REPORT OF

SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2020

静岡県立美術館年報

令和 2 年度

ANNUAL REPORT OF

SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2020

目 次

使命・重点目標・評価指標……………	5
令和2年度 美術館の評価活動……………	6
【基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	
【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	
展覧会活動 展覧会一覧……………	9
観覧者数一覧……………	10
(企画展)	
開校100年 きたれ、バウハウス 一造形教育の基礎—……………	11
東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 美の競演—静岡県美名品展……………	13
みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ—線の魔術……………	14
富野由悠季の世界……………	16
パラレル・ヒストリーズ 現代アートの諸潮流……………	18
ムーミン展	
THE ART AND THE STORY ……………	19
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	
(調査研究活動)	
紀要の発行……………	20
研究活動……………	21
研究会……………	22
各種資料整理……………	25
博物館実習……………	26
【重点目標3】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	
収蔵品展……………	28
移動美術展……………	29
新収蔵品……………	30
収蔵品点数一覧……………	33
図書資料の収集・整理……………	35
館蔵品等の貸し出し……………	36
美術作品の補修……………	37
保存活動……………	38
【基本方針B】地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	
【重点目標1】質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	
(一般向け)	
ギャラリーツアー……………	40
実技・鑑賞講座……………	41
(子ども向け)	
実技・体験……………	43
学校連携普及事業（美術館教室）……………	45
【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	
講演会……………	49
美術講座……………	50
対外活動……………	52
【重点目標3】地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します	
美術館ボランティア・広報サポーター……………	54
友の会活動……………	56
めぐりアート静岡2020……………	62
【基本方針C】さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	
【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます	
広報活動（ホームページを含む）……………	65
美術館ニュース「アマリリス」……………	67
【重点目標2】観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	
新たな広報チャンネルの開拓……………	69
【重点目標3】ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	
ロダン館展示・イベント……………	70
【基本方針D】常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます	
【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます	
施設利用状況（年度別）……………	72
県民ギャラリー利用状況……………	73
【重点目標2】周辺環境やアクセスの利便を向上させます	
来館者のアクセス満足度……………	74
■付帯資料	
令和2年度主要記事……………	75
(展覧会 出品目録)	
開校100年 きたれ、バウハウス 一造形教育の基礎—……………	77
東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 美の競演—静岡県美名品展……………	89
みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ—線の魔術……………	93
パラレル・ヒストリーズ 現代アートの諸潮流……………	101
収蔵品展……………	104
移動美術展……………	108
(管理運営)	
関係法規……………	110
組織・名簿……………	119
歳入・歳出決算……………	120

建築・設備概要.....	121
利用案内	127
奥付	

自己評価システムの体系

使 命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

基本方針

A	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
B	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
C	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます
D	常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

重点目標

1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します
2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します
3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します
2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します
3	地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します
1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます
2	観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます
3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします
1	館内施設を充実させ、満足度を高めます
2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます

評価指標

1	展覧会の来館者数
2	自主企画・企画参加型の展覧会の回数
3	作品やテーマに興味を持った人の割合
4	展覧会における新規来館者の割合
5	展覧会に対する外部評価【定性】
6	調査研究の発表回数
7	内部セミナー・研究会・研修の回数
8	他の美術館や大学と連携した取組件数
9	調査研究に関する外部評価【定性】
10	収蔵品展の観覧者数
11	収蔵品の公開件数
12	作品購入件数・価格
13	作品寄贈件数・価格
14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
15	学校教育と連携した取組数
16	鑑賞系プログラム数
17	コレクションを活用したプログラム数
18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
19	講演会等の開催件数
20	学芸員のフロアレクチャー等の数
21	地域住民等と連携した取組数
22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
23	地域機関、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】
24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
25	ホームページのアクセス件数
26	ホームページの満足度
27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】
29	ロダン館の入館者数
30	美術館利用者数
31	鑑賞環境に対する満足度
32	レストラン・カフェに対する満足度
33	ミュージアムショップに対する満足度
34	来館者のアクセス満足度

令和2年度 美術館の評価活動

■ 総括

A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

【成果】

- ・「展覧会の来館者数」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もある中で、目標を達成することができた。
- ・自主企画・企画参加型展覧会は2本（富野由悠季の世界展、ムーミン展）だったが、「来たれ、パウハウス」展、「みんなのミュシャ」展においても当館学芸員が図録に寄稿し、内容の充実に貢献した。
- ・「収蔵品展の観覧者数」は、目標を僅かに下回った。
- ・「展覧会における新規来館者の割合」は、「富野由悠季の世界」展に県外からの来館者が増えたこともあり、大幅に増加した。「みんなのミュシャ」展でも、新規来館者が多く来館した。また、新規来館者の中には、若年層が多く含まれていた。
- ・学芸員の調査・研究の成果により、企画内容が充実し、結果として「作品やテーマに興味を持った人の割合」は、昨年度よりも増加し、目標を達成した。
- ・購入・寄贈は、コレクション・ポリシーにもとづいた充実した内容の作品を収集することができた。

【課題】

- ・講演会、学芸員のフロアレクチャー等、展覧会関連イベントが、新型コロナウイルス感染拡大、首都圏への緊急事態宣言発出により、相次いで中止となった。ウィズ・コロナの時代の美術館経営について、検討することが継続して必要である。
- ・収蔵品展及び収集活動の充実のため、予算の確保を含む学芸員の調査研究体制を確保することが引き続き重要である。

B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

【成果】

- ・学校教育との連携において、感染リスクの高い体験型プログラムが中止を余儀なくされた一方、教材貸出プログラムについては継続的な利用が見られた。これまでの連携の蓄積が生かされ、コロナ禍における学校の美術教育の充実に貢献することができた。
- ・講義系・実技系いずれにおいても、オンラインによるリモート講座やYouTube配信といった新たな手法によるイベント実施を試みた。
- ・8年間参画してきた「めぐりアート静岡」の最終年となった。地域の多様な機関が連携して開催する現代アートプロジェクトにおいて、当館が重要な役

割を担い、近隣施設との連携を強化できたことは、大きな成果といえる。今を生きる公立館としての課題や可能性を探るうえでも有益な機会であった。

【課題】

- ・コロナ禍で地域や学校教育との連携の機会は大幅に減少したが、これまで築いてきた関係を維持し、発展させていくために、現今の情勢下で可能な連携のあり方を検討し、実施していく。
- ・「アーツカウンシルしずおか」との連携を進める。本年1月に静岡県文化財団に新たに設置されたこの組織は、県民の芸術文化活動支援を目的としており、地域住民やNPOの活動に関する情報に通じる。複数の専門スタッフを抱えるアーツカウンシルしずおかの連携や情報交換は、重点目標B-3で目標とする地域住民およびNPO等との連携に資すると思われる。

C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

【成果】

- ・「美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合」は、HPやSNS等を積極的に活用して広報を行うことにより、目標を達成することができた。
- ・「ホームページのアクセス件数」は、前年度（1,085,837件）に比して大幅に増えた。入場者数の多い展覧会が続いたことに加え、新型コロナウイルス感染拡大により、開館状況などの最新情報へのニーズが高まったことが背景にあると考えられる。
- ・「ホームページの満足度」は目標を若干下回った。
- ・コロナ禍の中でも「ロダンウィーク」を開催し、感染リスクを押さえる工夫をしてイベントを実現できたことは成果といえる。

【課題】

- ・HPやSNSに加えて、公式YouTubeチャンネルを開設し動画配信を開始するなどしたが、これ以外ではウェブサイトを通じた新規事業を打ち出せておらず、オンラインコンテンツの拡充が課題である。
- ・ロダンウィークでは4日間で1,666人の来館者を得たが、通常時のロダン館への誘客は継続的な課題である。
- ・「観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数」は、コロナ禍において実施が困難となり、減少したが、ウィズ・コロナ、アフター・コロナを見据えて、観光業界及びマスコミ等との連携により、美術館の発信力を高めることが課題である。

D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めています

【成果】

- ・「レストラン・カフェの満足度」は、メニューの工夫等により、目標を達成することができた。
- ・「ミュージアムショップに対する満足度」は、目標値を大きく上回った。企画展に合わせた商品のレイアウトを工夫したことが主な要因である。
- ・「鑑賞環境に対する満足度」は目標に及ばなかったが、施設の老朽化が進む中、スタッフをはじめとする関係者の細かな工夫により、一定の水準を保っている。

【課題】

- ・「美術館利用者数」は、令和元年度に引き続き目標を達成することができなかった。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大による入館者数減少が大きく影響していると考えられる。ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて感染対策をし、利用者数の増加を目指す。
- ・開館から35年が経過したことで、経年劣化による建物及び各設備の修繕が必要となっている。
- ・「来館者のアクセス満足度」は、目標を下回った。公共交通機関については、バスの運行本数の問題があり、自家用車については、駐車可能台数と利便性の問題がある。

■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークスの改定作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取組を行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

■令和2年度の活動

本年度も引き続き、ミュージアム・ナビによる自己点検評価とともに、外部委員による研究評価を受けた。それぞれに概要は以下の通りである。

（1）ミュージアム・ナビによる自己点検評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し自己点検を行うことで業務改善に取り組む。

それによって、Plan－Do－Check－Action（計画－実行－監視－改善）のサイクルを確立する。

自己点検の拠り所となるのは、来館者に対するアンケート調査である。統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を加え、意味のあるデータを取り出せるよう心がけている。令和元年度は、以下の活動を行った。

1 アンケート調査結果の集計と分析

A. 展覧会観覧者アンケート（3本）

B. 付帯施設（レストラン、ミュージアム・ショップ）

C. 美術館ホームページによるアンケート

（2）研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会及び学芸員の調査研究に関わる定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼する。

■静岡県立美術館研究活動評価委員

（【 】内は専門分野）

坂本 満【西洋絵画・日本洋画】／お茶の水女子大学
名誉教授、金沢美術工芸大学客員教授

潮江 宏三【西洋絵画・現代美術】／京都市立大学名誉教
授

山梨絵美子【日本洋画】／東京文化財研究所副所長

榊原 悟【日本画】／岡崎市美術博物館長・おかざき
世界子ども美術館館長

金原 宏行【教育普及・日本画】／豊橋市美術博物館名
誉館長

■開催記録

令和2年8月31日（月）＊書面審議

- ・平成31年度 研究活動評価について
- ・令和2年度 研究活動評価について
- ・今後の研究活動についての意見聴取

令和2年5月31日（日）

- ・「開校100年 きたれ、バウハウス」展図録評価・提
言

令和2年12月15日（火）、22日（火）

- ・「パラレル・ヒストリーズ」展視察及び評価・提言

■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業。
 - (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物。
 - (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項。
- (組織)

第3条 委員は5名以内とする。

- 2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

(委嘱)

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

- 2 委員は再任することができる。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

■評価基準

1) 展覧会

- 1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、多様な資料（写真や二次資料等）の積極的な活用、館蔵品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究（記録・整理を含む）等。
- 2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
- 3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。
- 4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。
- 5. その他…特に評価に値する事柄。

2) 展覧会カタログ／学芸員のエッセイ

- 1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
- 2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
- 3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、資料的な価値等。
- 4. その他…特に評価に値する事柄。

3) 研究紀要／館蔵品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

- 1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
- 2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
- 3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への

影響。

- 4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。

- 5. その他…特に評価に値する事柄。

4) 教育・普及プログラム

- 1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
- 2. その他…特に評価に値する事柄。

展覧会活動 展覧会一覧

企 画 展							収蔵品展
1	2	3	4	5	6		7
4 APRIL	4 / 11 (土) ~ 5 / 31 (日)						4 / 7 (火) ~ 5 / 31 (日)
5 MAY	開校 100 年 きたれ、バウハウス —造形教育の基礎— ※新型コロナウイルス感染症の防止に向けた「緊急事態宣言」を受け、 4 / 18 (土) から 5 / 11 (月) は全館臨時休館						新収蔵品展 ※新型コロナウイルス感染症の防止に向けた「緊急事態宣言」を受け、4 / 18 (土) から 5 / 11 (月) は全館臨時休館
6 JUNE	6 / 13 (土) ~ 6 / 28 (日) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催記念 美の競演—静岡県美名品展						
7 JULY	7 / 11 (土) ~ 9 / 6 (日)						6 / 30 (火) ~ 7 / 12 (日) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催記念 きらめく日本画
8 AUGUST	みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ—線の魔術						7 / 14 (火) ~ 8 / 16 (日) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催記念 富士山をめぐる
9 SEPTEMBER	9 / 19 (土) ~ 11 / 8 (日)						8 / 18 (火) ~ 9 / 13 (日) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催記念 激突！東西の狩野派
10 OCTOBER	富野由悠季の世界						9 / 15 (火) ~ 11 / 15 (日) 曾宮一念とその時代
11 NOVEMBER	11 / 21 (土) ~ 1 / 11 (月・祝)						11 / 17 (火) ~ 1 / 24 (日)
12 DECEMBER	パラレル・ヒストリーズ 現代アートの諸潮流						耳をすませて —音と楽器のある風景
1 JANUARY	1 / 23 (土) ~ 3 / 14 (日)						1 / 26 (火) ~ 4 / 4 (日)
2 FEBRUARY	ムーミン展 THE ART AND THE STORY						日本戦後美術の挑戦
3 MARCH							
4 APRIL							

観覧者数一覧

展 覧 会		会 期		観 覧 者 見込数	観 覧 者 数							
		期 間	日数		一般	高校・大学	小・中学	70歳以上	未就学児	招待・減免	実績数	対見込
企 画 展	きたれ、バウハウス	4/11～5/31	24	人 13,000	人 5,148	人 647	人 415	人 310	人 138	人 1,795	人 8,453	% 65.0
	みんなのミュシャ	7/11～9/6	51	35,000	27,042	3,182	2,705	1,957	685	6,142	41,713	119.2
	富野由悠季の世界	9/19～11/8	45	20,000	21,271	1,715	3,093	378	565	4,470	31,492	157.5
	パラレル・ヒストリーズ	11/21～1/11	41	7,000	1,844	615	253	180	64	1,296	4,252	60.7
	ムーミン展	1/23～3/14	44	33,000	25,815	2,830	2,909	1,516	1,501	6,352	40,923	124.0
	小 計		205	108,000	81,120	8,989	9,375	4,341	2,953	20,055	126,833	526.4
収蔵品展		4/7～3/31	276	12,000	5,217	(注1) 1,654	-	1,607	-	1,965	10,443	87.0
合 計			276	120,000	86,337	10,643	9,375	5,948	2,953	22,020	137,276	114.4
移動美術展	沼津市	10/22～11/3	13	10,000	-	-	-	-	-		2,705	46.2
	焼津市	11/10～11/25	14		-	-	-	-	-	-	1,912	

(注1)「未就学児・小・中学生」の観覧者数を含む。

■年度別観覧者数

(単位：人)

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成16年度	146,706
昭和62年度	174,031	平成17年度	129,768
昭和63年度	214,156	平成18年度	222,608
平成元年度	229,258	平成19年度	184,535
平成2年度	233,904	平成20年度	190,669
平成3年度	190,361	平成21年度	101,792
平成4年度	173,665	平成22年度	264,207
平成5年度	218,921	平成23年度	126,626
平成6年度	410,182	平成24年度	163,533
平成7年度	245,028	平成25年度	139,428
平成8年度	178,701	平成26年度	94,664
平成9年度	127,299	平成27年度	110,310
平成10年度	153,099	平成28年度	146,498
平成11年度	107,977	平成29年度	157,323
平成12年度	146,833	平成30年度	73,452
平成13年度	207,340	令和元年度	113,362
平成14年度	170,390	令和2年度	137,276
平成15年度	184,095	累 計	6,213,743

開校100年 きたれ、バウハウス—造形教育の基礎—

主 催：静岡県立美術館、テレビ静岡、バウハウス100周年委員会

後 援：ドイツ連邦共和国大使館、スイス大使館、ハンガリー大使館、一般社団法人 日本建築学会

特別協力：ミサワホーム株式会社、東京国立近代美術館

協 力：専門学校 桑沢デザイン研究所、大阪芸術大学、株式会社 アトリエ ニキティキ

協 賛：アウディ ジャパン株式会社、株式会社インターオフィス

企画協力：株式会社アートインプレッション、株式会社ミサワホーム総合研究所

会 期：令和2年4月11日（土）～5月31日（日）
※新型コロナウイルス感染症の防止に向けた「緊急事態宣言」を受け、4/18（土）から5/11（月）は全館臨時休館

■概要

本展は、開校100年という節目の年を機会に、造形教育に革新をもたらした美術史に大きな足跡を残したバウハウスの活動を、学校としての視点からとらえなおし、教育を通して実現した創造の可能性と、今日的な意義を考え、その成果を現代の鑑賞者と共有することを目的とした。展覧会では、学校としてのバウハウスに焦点をあて、基礎教育で各教師が行ったユニークな授業内容をパネルと作品で紹介し、その一端を体験するコーナーを設けるとともに、基礎教育を終了したのちに進む様々な工房での教育の成果や資料などを展示した。併せて、当時、実際にバウハウスに入学した日本人留学生、水谷武彦、山脇巖、山脇道子、大野玉枝の4人の作品・資料を紹介し、バウハウスと日本のつながりを紹介した。出品作品・資料は、ミサワバウハウスコレクションを中心に国内所蔵作品による。4月11日に展覧会が開幕した後、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って発令された緊急事態宣言により、会期途中の4月18日～5月11日までの期間に休館を余儀なくされた。休館明けの、会期終了間際の週末には、1,000人近い来館者があったが、大幅な入場制限をすることなく、始終放送でソーシャルディスタンスを呼びかけ対応した。最終的な入館者数は8,500人となった。

■関連事業

以下のイベントの実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべて中止

・講演会「試験に出ないバウハウス」

日時：4月12日（日）14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：柚田佳穂氏（ミサワバウハウスコレクション学芸員、本展覧会監修者）

・講演会「バウハウスのモホイ＝ナジ：構成主義の視覚芸術」

日時：4月29日（水・祝）14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：井口壽乃氏（埼玉大学人文社会科学部研究科・教授）

・講演会「^{ドライビング} ^{バウハウス} DRIVING BAUHAUS」

日時：5月10日（日）14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：深川雅文氏（キュレーター/ クリティック、本展覧会監修者）

・館長美術講座「バウハウスが建築の世界にもたらしたもの」

日時：5月24日（日）14：00～15：30

場所：当館講座室

講師：木下直之（当館館長）

・フロアレクチャー

日時：4月19日（日）14：00～（40分程度）

場所：企画展展示室

・小学生のための展覧会ツアー

日時：5月3日（日）11：00～、14：00～（各回40分程度）

対象：小学生

場所：企画展展示室

・子どもとファミリーのための展覧会ツアー

日時：5月5日（火・祝）10：30～、14：00～（各回40分程度）

対象：3歳～就学前のお子さんと保護者。

場所：企画展展示室

・わくわくアトリエ

小学生から大人までを対象に展覧会に関連したワークショップを開催。

■図録

編集：深川雅文（監修）、杣田佳穂（監修）、下村朝香、成相肇、市川飛砂、株式会社アートインプレッション

発行：株式会社アートインプレッション

執筆：長田謙一、杣田佳穂、宮島久雄、利光功、貞包博幸、柏木博、富田英夫、木村理恵子、深川雅文、長谷川新、下村朝香、梅宮弘光、常見美紀子、川谷承子、高橋麻帆、橘美貴、星野立子、牧野裕二

制作・印刷：印象社

仕様：H22.0×22.0×2.2 cm 264頁

内容：バウハウスとは何か？

バウハウスと近代の「総合」—bauenの諸理念をたどって 長田謙一

バウハウス教育 変遷の中に見えるもの 杣田佳穂

カタログ

- I 学校としてのバウハウス
- II バウハウスの教育
- III 工房教育と成果
- IV 「総合」の位相
- V バウハウスの日本人学生

論集

翻訳集

資料編

■出品目録

pp. 77-88を参照



▲チラシ



▲チラシ

東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 美の競演—静岡県美名品展

主催：静岡県立美術館

会期：令和2年6月13日（土）～6月28日（日）

■概要

延期となった東京2020オリンピック・パラリンピックの実現を願い、国内外の入場者に当館コレクションの魅力をアピールすることを目的とした、14日間限定で開催した企画展。1986年の開館以来、「東西の風景画」「静岡県ゆかりの作家・作品」「現代の美術」「富士山の絵画」をテーマに据えた当館所蔵品とご寄託いただいている作品の中から精選した珠玉の名品約100点によって、日本洋画、西洋、現代、日本画のジャンル別に6つの展示室を構成した。

また、本展に引き続き、収蔵品展（第7展示室）においても、東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念の特集展示を行い、選りすぐりの日本画コレクションを、個性的なテーマに沿って、3期（6月30日から9月13日）にわたって開催した。

重要文化財を始め、海外美術館への貸出実績もある作品等、当館の収集の歴史と成果を改めて見直すとともに、期間は短いものの広く周知する機会となった。

■関連事業

- 当館館長による美術講座「江戸にゾウを見に行こう」

日時：6月21日（日）14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：木下直之（当館館長）

- 当館学芸員によるフロアレクチャー

6月13日（土）、14日（日）、27日（土）、28日（日）

*いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

- ボランティアによるギャラリートツアー

6月21日（日）、27日（土）、28日（日）

*いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

■出品目録

pp. 89—92を参照

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる、次へ
2020
東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念

東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念
美の競演—
静岡県美名品展

2020
6/13 土 6/28 日

白鷺一羽（墨島）1965（昭和40）年 キンブラム、油彩

和歌山（富士）1918（大正7）年 キンブラム、油彩

休館日：毎週月曜日（祝日・祭日の場合は閉館し、翌日休館）
開館時間：10:00～17:30（観覧客の入館は17:00まで）
観覧料：一般 300円（団体200円）、70歳以上・大学生以下無料
*（ ）内は20名以上の団体料金。
* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料。
* 本展覧会、チラシ配布等にて謝礼金は受け付けません。

公認プログラム

主催：静岡県立美術館

▲チラシ

みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ 一線の魔術

主 催：静岡県立美術館、ミュシャ財団、Daiichi-TV

後 援：チェコ共和国大使館、チェコセンター、チェコ政府観光局

協 賛：大成建設、光村印刷、損保ジャパン

静岡展特別協賛：セキスイハイム東海

協 力：日本航空、日本通運

企画協力：NTVヨーロッパ

監 修：佐藤智子（ミュシャ財団キュレーター）

会 期：令和2年7月11日（土）～9月6日（日）

夜間開館日：8月8日（土）、15日（土）、22日（土）、29日（土）は午後7時まで開館

■概要

「線の魔術」の生み出す繊細で華麗な作品でアール・ヌーヴォーの時代を彩った芸術家、アルフォンス・ミュシャ。そのスタイルは「ミュシャ様式」と呼ばれ、後世のアーティストに今なお影響を与え続けている。ミュシャ財団監修により企画された本展は、ポスター等ミュシャの華やかなグラフィック作品はもとより、財団秘蔵の幼少期の作品、最初期のデザインやイラスト、収集していた書籍や工芸品等を通じ、この芸術家が生涯を通じて放った多彩な魅力に迫った。さらにミュシャ作品から影響を受けた明治の文芸誌挿絵、1960～70年代のイギリス、アメリカで隆盛をみたグラフィックアート作品、日本のマンガ家やイラストレーターの作品なども加え、およそ250点により今日まで受け継がれるミュシャ様式の流れをご紹介します。

■関連事業

・スペシャル対談「ふたりのミュシャ—1900年と1972年—」

日時：7月18日（土）14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：山田五郎氏（編集者・評論家／本展オフィシャルサポーター）

木下直之（当館館長）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

・記念対談『『みんなのミュシャ』ができるまで』

日時：8月22日（土）14：00～15：30

場所：当館講堂

講師：佐藤智子氏（ミュシャ財団キュレーター／本展監修）

三谷理華（当館学芸課長）

・館長美術講座「ミュシャの飛来—明治のふたつの戦争の間へ—」

日時：8月16日（日）14：00～15：30

場所：当館講座室

講師：木下直之（当館館長）

・フロアレクチャー

日時：7月23日（木・祝）、8月8日（土）14：00～

8月15日（土）、8月29日（土）17：30～（30分程度）

場所：企画展展示室

・わくわくアトリエ「花や草木のフレーム模様を切り絵でデザインしよう」

日時：7月26日（日）10：00～12：30、13：30～16：00

講師：福井利佐氏（切り絵作家）

対象：小学生から大人まで

・実技講座「リトグラフdeミュシャを模写」

日時：8月29日（土）、30日（日）10：00～16：30

講師：柳本一英氏（銅版画家）

対象：中学生以上の個人

・ちょこっと体験講座「ちょこっとぬり絵」

日時：8月7日（金）～10日（月・祝）10：00～12：00、13：00～15：30

場所：エントランス

対象：どなたでも

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

■図録

B5判変形 247頁

本文

ミュシャからマンガへ：ミュシャ様式とふたつのアール・ヌーヴォー 佐藤智子

第1章 序—ミュシャ様式へのインスピレーション
ミュシャの装飾文様と日本の七宝について
畑智子

第2章 ミュシャの手法とコミュニケーションの美学

第3章 ミュシャ様式の「言語」
1900年代初頭のミュシャとクリムト 中村暁子

第4章 よみがえるアール・ヌーヴォーとカウンターカルチャー

ミュシャからマンガへ—線の魔術 ジョー・

ケサダ

ミュシャと私（英米編）

第5章 マンガの新たな流れと美の探求

日本ミュシャ事始め—白馬会周辺から 三谷里華

明治期のミュシャ様式文芸誌群と言文一致

大塚英志

ミュシャと私（日本編）

作品解説

関連年表

Sections

Welcome to Mucha to Manga : The Magic of Line. Joe Quesada

作品リスト

ミュシャ国内文献一覧

Select Bibliography Mucha Foundation

■出品目録

pp.93-100を参照



▲チラシ

富野由悠季の世界

主催：静岡県立美術館・静岡新聞社・静岡放送

企画協力：神戸新聞社

協力：サンライズ、東北新社、手塚プロダクション、
日本アニメーション、オフィス アイ

特別協賛：清水銀行

会期：令和2年9月19日（土）～11月8日（日）

■概要

『機動戦士ガンダム』（1979年）、『ガンダム Gのレコンギスタ』（2014年）などの「ガンダム」シリーズの他、『伝説巨神イデオン』（1980年）、『聖戦士ダンバイン』（1983年）といった数多くのオリジナルアニメーションの総監督を務め、国内外のアニメーションに多大な影響を与えてきた富野由悠季（1941年生まれ）。その仕事を検証する、初の大回顧展である。

展覧会では、「虫プロダクション」に入社して『鉄腕アトム』制作に関わった駆け出しのころから現在に至るまで、55年間に渡る富野の仕事を通覧、彼がこれまで監督してきた各作品の映像的特質を、富野直筆の絵コンテや、富野と仕事を共にしたクリエイターたちのデザイン画、原画、撮影に使われたセル画などの原資料を元に検証した。また、自らの作品世界を掘り下げた小説、主題歌等の作詞、様々な分野の人々との対話など、富野のマルチな活動と才能にも着目、時代や人々に与えてきた影響と、彼が訴え続けたメッセージとは何かを紐解いた。

本展は「美術館におけるアニメーション展示の結節点となる展覧会」として評価され、「高畑勲展」とともに「日本アニメーション学会賞2020 特別賞」を受賞した。

■関連事業

・清水銀行Presents 記念トークイベント「富野由悠季×藤津亮太 静岡に語る」

講師：富野由悠季監督

聴き手：藤津亮太氏（アニメ評論家）

＊サンライズ本社にて映像収録ののち、Youtube静岡県立美術館チャンネルにて期間限定公開（10/30～11/8）。

・わくわくアトリエ「動く！くるくるアニメーションをつくろう」

日時：9月21日（月）10：00～12：00、13：30～15：30

場所：当館実技室

講師：しながわあやか氏（絵描き・当館実技室インストラクター）

・実技講座「木材工作：ロボットをつくろう」

日時：10月24日（土）、25日（日）10：00～12：15、
13：30～15：45

場所：当館実技室

講師：常木保宏氏

・館長美術講座「ロボットの話」

日時：10月25日（日） 14：00～15：30

場所：当館講座室

講師：木下直之（当館館長）

・学芸員によるフロアレクチャー

日時：10月11日（日）、18日（日）14：00～14：40

場所：当館講座室

■図録

編集：天本伸一郎

発行：キネマ旬報社

執筆：山口洋三（福岡市美術館）、小林公（兵庫県立美術館）、岡本弘毅（同）、川西由里（島根県立石見美術館）、工藤健志（青森県立美術館）、若松基（富山県水墨美術館）、村上敬（静岡県立美術館）、藤津亮太

デザイン：植松久典

印刷・製本：シナノ印刷株式会社

仕様：B5判（25.7cm×18.2cm） 416頁

内容：

・第1部 宇宙にあこがれて

第1章 富野由悠季をかたちづかったもの

幼少期から大学生までの作品

虫プロダクションの時代

フリー絵コンテマンの時代

第2章 それでも生きていかねばならない——初期

作品のドラマ展開

『海のトリトン』『勇者ライディーン』『無敵超人ザンボット3』

・第2部 人は変わってゆくのか

第1章 君は生き延びることができるか？

『機動戦士ガンダム』

第2章 コスモスに君と

『伝説巨神イデオン』

・第3部 空と大地の間で遅しく

第1章 命をかけて生きてます——活劇とエンターテインメント

- 『無敵鋼人ダイターン3』『戦闘メカ ザブングル』『OVERMANキングゲイナー』
- 第2章 歴史もの、名作もの、時代もの——人間ドラマはジャンルを超えて
- 『ラ・セーヌの星』『闇夜の時代劇 正体を見る』『しあわせの王子』
- ・第4部 魂の安息の地は何処に？
- 第1章 ファンタジー——バイストン・ウェルストーリー
- 『聖戦士ダンバイン』『ガーゼィの翼』『リーンの翼』
- 第2章 スペースオペラ——ペンタゴナワールド
- 『重戦機エルガイム』
- ・第5部 刻の涙、流れゆくその先へ
- 第1章 シャアの逆襲は成ったか？——『ガンダム』のシリーズ化と"ニュータイプ"の結末
- 『機動戦士Zガンダム』『機動戦士ガンダムZZ』『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』
- 第2章 家族と戦争
- 『機動戦士ガンダムF91』『機動戦士Vガンダム』『ブレンパワード』
- ・第6部 大地への帰還
- 第1章 刻は未来に進むのか？
- 『∀ガンダム』
- 第2章 君の目で確かめろ!!
- 『ガンダム Gのレコンギスタ』
- ・その他
- 「トミノロジー」(各学芸員による論考)、小説家としての富野由悠季、著書／作詞一覧、富野由悠季ロングインタビュー

■出品目録

- * 本展では企画書、ラフスケッチ、キャラクターおよびメカニカルデザイン画、セル画、絵コンテ、場面写真、出版物イラスト原画、模型、作品抜粋映像等を大量に(総数およそ3,000点)出品した。これらについては美術作品のように個別の資料名を定めて掲載することが難しく、またボリュームがあまりに膨大になるため目録は割愛する。展示資料の具体例については上記図録を参照されたい。



▲チラシ

パラレル・ヒストリーズ 現代アートの諸潮流

主催：静岡県立美術館
会期：令和2年11月21日（土）～令和3年1月11日（月・祝）

■概要

本展は、「収蔵品企画展」として当館の収蔵品を中心に現代アートを紹介するものである。これまで当館では、収蔵品展や企画展において現代アートの収蔵品を展覧してきたが、今回のように現代アートのコレクションのみを企画展示室において一堂に紹介する機会はなかった。当館の目玉と言える作品や、限られた展示機会のため良作でありながら近年公開されていなかった作品を展示し、また新旧のコレクションを合わせることで、当館の現代アートのコレクションを概観する機会となった。

本展では、現代アートを複数の潮流が合わさったものとして捉え、また多種多様な表現を理解する助けとなるよう、下記の6つのテーマを設けた。すなわち「絵画という難問」、「空間とのかかわり」、「地面と重力」、「アートの断捨離」、「見ることの不思議」、「テクノロジー」である。また、静岡ゆかりの作家による作品も随所に展示し、それらの作品も上記の潮流に位置づけることを試みた。

図録の制作はなかったが、解説やキーワードなどを掲載した冊子を作成し、無料で配布した。

■関連事業

- 対談「静岡のアートシーンについて」
日時：12月6日（日）14：00～15：30
場所：当館講堂
講師：白井嘉尚氏（美術家）、丹羽勝次氏（美術家）
- 館長美術講座「現代アートの古代と中世への旅」
日時：12月20日（日）14：00～15：30
場所：当館講堂
講師：木下直之（当館館長）
- 学芸員によるフロアレクチャー
日時：12月12日（土）、1月2日（土） 各日14：00～14：30
場所：当館講座室

■冊子

執筆・編集：植松篤（静岡県立美術館）
発行：静岡県立美術館
デザイン：望月一弘（Jicca design）

印刷：日本レーベル印刷株式会社
仕様：A4判変型 12頁
内容：

ごあいさつ

出品リスト

- 1 絵画という難問
- 2 空間とのかかわり
- 3 地面と重力
- 4 アートの断捨離
- 5 見ることの不思議
- 6 テクノロジー

略年表

キーワード

■出品目録

pp.101～103を参照



▲チラシ

ムーミン展 THE ART AND THE STORY

主催：静岡県立美術館、静岡朝日テレビ、朝日新聞社

後援：フィンランド大使館

協賛：NISSHA

協力：ライツ・アンド・ブランズ、S2、フィンエアー、フィンエアーカーゴ

会期：令和3年1月23日（土）～令和3年3月14日（日）

夜間開館：令和3年3月13日（土）、14日（日）は午後7時まで開館

■概要

フィンランドを代表する芸術家、トーベ・ヤンソン（1914年～2001年）が生みだし、長年にわたって親しまれている「ムーミン」の世界を通覧。フィンランド・タンペレ市にあるムーミン美術館の所蔵品など約500点の作品・資料が出品された。その半数を占めたのは、小説の挿絵の原画やスケッチであり、会場前半に時代順に展示した。そしてムーミン以前の作品やトーベのアトリエに関連する資料類により、創作の軌跡をたどった。会場後半では絵本、ポスター、玩具などの商品、演劇など、小説以外の様々なメディアに展開したムーミンの世界を紹介。最後にトーベと日本の関係をテーマに、来日時の資料や、浮世絵（複製など）とトーベ作品との比較展示が行われた。

新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言が発出される中での開催となり、入場制限の導入をはじめとして様々な対策を講じた。

■関連事業

※緊急事態宣言発令に伴い、延期または中止となった。

・館長美術講座「ムーミンとトーベ・ヤンソンと夏の家」（延期）

日時：（変更前）2月7日（日）14：00～

（変更後）2月27日（土）14：00～

場所：（変更前）当館講座室

（変更後）当館講堂

講師：木下直之（当館館長）

・学芸員によるスライドトーク（中止）

日時：1月31日（日）14：00～

場所：当館講座室

■図録

編集：横川浩子、内山さつき、朝日新聞社

執筆：横川浩子、内山さつき、富原眞弓（聖心女子大学教授）

校閲：田中宣保

ブックデザイン：大島依提亜、大倉真一郎、松岡里美

印刷：NISSHA

発行：朝日新聞社

■出品目録

展示した作品、資料の合計数が500点を越えるため、出品目録は割愛する。詳細は図録を参照されたい。



▲チラシ

紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の昭和58年に紀要を創刊し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。従って研究対象は主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に基づき、広く美術及び美術館を取り巻く諸問題を取り扱う。

成果品は例年の如く、全国の研究機関及び研究者に配布した。

第36号

■判 型 29.7×21.0cm (A4)

■頁 数 36頁

■発行日 令和3年3月31日

■内 容

☐ カラー ☐ 絵 2頁

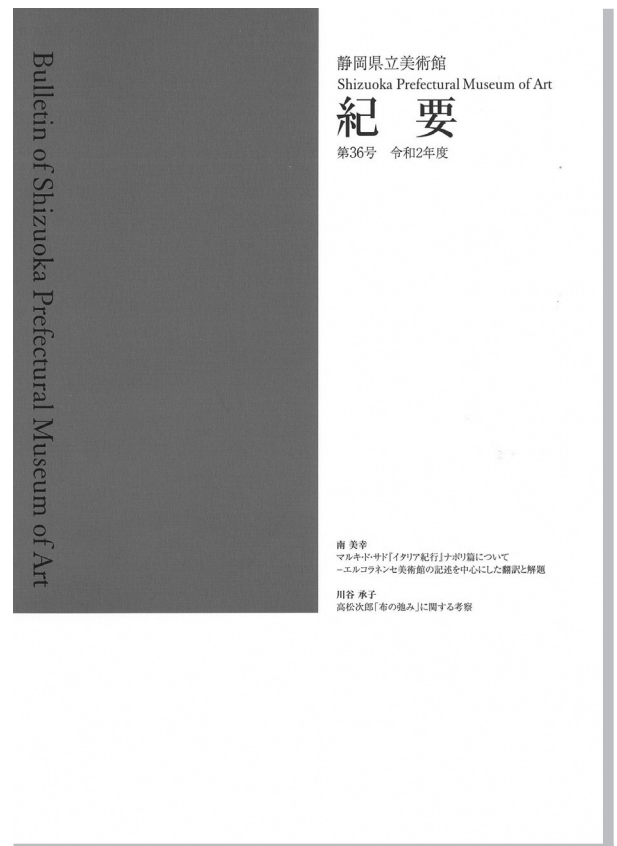
☐ 論文

(1) 南美幸

「マルキ・ド・サド『イタリア紀行』ナポリ篇
について—エルコラネセ美術館の記述を中心
にした翻訳と解題」

(2) 川谷承子

「高松次郎「布の弛み」に関する考察」



(表紙)

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・書籍執筆・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌・ニューズレターなどへの寄稿や、一般向け講演、館内研究会、図録の作品解説などは除いている。

■南美幸

- ・論文「マルキ・ド・サド『イタリア紀行』ナポリ篇について—エルコラネンセ美術館の記述を中心にした翻訳と解題」（『静岡県立美術館紀要』第36号、令和3年3月）

■村上敬

- ・口頭発表「元号と都市のユートピア——『サクラ大戦』の「太正」帝都」（大正イマジュリィ学会第18回全国大会シンポジウム「マンガの中の大正」、令和3年3月14日）

■川谷承子

- ・論文「レンズ（眼鏡）としてのペットボトル」（『記録集 めぐるりアート静岡 2020』、令和3年3月）
- ・論文「草間彌生《無題（No. White A.Z.）》の軌跡」（『ストーリーズ』展図録、令和3年3月）
- ・論文「高松次郎「布の弛み」に関する考察」（『静岡県立美術館紀要』第36号、令和3年3月）

■泰井良

- ・口頭発表「和田英作《松林（下絵）》と岩崎彌之助高輪邸について」（明治美術学会第2回例会、令和2年9月5日）

■石上充代

- ・論文「伊藤若冲《樹花鳥獸図屏風》の軌跡」（『ストーリーズ』展図録、令和3年3月）

■野田麻美

- ・論文「江戸狩野派による倣古図の基礎的研究—データベースの構築と分析手法の確立に向けて」（『鹿島美術財団年報別冊』37号、令和2年11月）
- ・論文「模写と倣古—江戸狩野派の場合」（『日本美術のつくられ方 佐藤康宏先生の退職によせて』羽鳥書店、令和2年12月）

研究会

5月

温泉と画家—江戸画壇と熱海本陣の交流を中心に—
浦澤倫太郎

本発表では熱海の風景を描いた江戸時代の絵画、およびその作者たちと熱海本陣との交流の歴史を論じた。

初めに熱海が温泉ばかりでなく風光にも恵まれ、多くの人々を魅了した理想郷であったことを紹介した。特に日金山は富士山や駿河湾を一望できることから熱海における定番の名所であった。

従来、日金山からの眺望を描いた絵画は、中山高陽や司馬江漢、広瀬台山らによるものが知られていたが、その中には熱海滞在を契機として描かれたものもあることを確認した。併せて各作品の風景表現について、実際の風景と比較しながら分析した。

続いて熱海を訪れた画家たちと、本陣である今井半太夫家との交流を取り上げた。同家は粋を尽くした建築と類稀な眺望を誇る熱海屈指の宿泊施設であった。18世紀後半を中心に同家当主を務めた今井箋斎は、雁皮紙製造を開始したことでも知られる。今回の発表では箋斎が江漢や台山らと長年にわたって親交を温め、更に彼らから贈られた作品を含む、様々な書画を収集していたことも文献資料などから明らかにした。

このように江戸をはじめとした各地の画家たちと交流を持ち、書画を収集した今井箋斎は、熱海ひいては静岡県 の文化史に大きな足跡を残した人物の一人に数えられよう。

6月

木村武山「羽衣」における天女の図像について
石上充代

当館所蔵の標題作品を取り上げ、左隻に描かれる天女の図像の典拠を明らかにしたうえで、武山の作画姿勢について考察した。大正期以降、羽衣天女を表すには仏教的な飛天の姿を用いることが一般的になったが、昭和初期の本作においては、飛天ではなく吉祥天や弁財天といった女性形の天部像の服制が採用されている。また、人体の型としては、古来名品として知られた法界寺阿弥陀堂の飛天図からの転用が確認できる。本飛天図の流麗で軽やかな造形は、幾分重々しい装いの天女を空に飛翔させるのに有益であり、かつ近代絵画に古典名画に通じる格を持たせられる点においても、恰好の素材であったと考えられる。薬師寺の吉祥天図からも一部のモチーフを取り入れており、仏画の名品に学び、その形を組み合わせることで、優美かつ格調高く空を舞う天女を形作ったものといえる。

古画の図像を転用して組み合わせ、独自の近代的な色彩感覚で画面を作っていく手法は、武山の典型的な創作姿勢であり、本作においても、奇を衒わず堅実な構想と技量をもとに新しい羽衣天女を作り出した点に、木村武山の特色を見ることができる。

7月

高松次郎の《布の弛み》 資料から読み解く
川谷承子

本発表では、高松次郎の「布の弛み」シリーズについて、資料をもとに考察を行った。はじめに作品の基本データを確認し、他館収蔵作品も含めて、シリーズとしての「布の弛み」について整理した。加えて当館所蔵作の出品歴について作品表面の書き込みが第6回パリ青年ビエンナーレへの出品を裏付ける資料となることを指摘した。次に、作家の指導に基づく展示方法が美術館内で引き継がれていることに触れ、作家が指示書は作成せずに口頭で展示指示を行っていたこと、布のしわや弛みを偶然性にゆだねていたことを確認した。次に、本シリーズが、物質性、三次元性に着目した作品であることに触れ、それ以前の高松作品との違いについて指摘するとともに、「もの派」がグループとして形作られるよりも前に制作されたこと、第6回パリ青年ビエンナーレに、のちに「もの派」の主要メンバーとなる、関根伸夫、成田克彦とともに「4ボソット」という名のグループとして出品されていたことを確認した。最後に、本作品が美術批評においてどのように論じられているかについて、石子順造、李禹煥、沢山遼の評論を紹介した。

10月

静岡県立美術館 観覧者数日計推移の規則性について
新田建史

当館企画展での、会期中の観覧者数推移を分析したところ、来館されるお客様の動向には、各展覧会に共通する、ある程度の規則性のあることが分かった。分析には、「あなたの愛する風景展」(2010(H22)年度)、「トリノ・エジプト展」(2010(H22)年度)、「百花繚乱展」(2011(H23)年度)、「インカ帝国展」(2012(H24)年度)、「カラーリミックス展」(2012(H24)年度)、また2016(H28)年度以降の企画展のデータを用いた。この、共通する規則性は数式によって表し得ると考えられるため、精度を向上させれば、シミュレーターに近いものを構築し得ると予想される。さらに、現状である程度妥当と思われる数式と、実際の観覧者数推移とを比較してみたところ、会期中に開催される講座等のイベントは、観覧者

数増減に対して、ほとんど影響を与えていないと考えられることが判った。このことは、展覧会におけるイベントの位置付けを改めて考えさせるものであり、観覧者数増を目論んでの対症療法的行為は、ほとんど無意味であることを証するものだと考えられる。

11月

熊谷守一《ほたるぶくろ》について

泰井良

「熊谷守一 いのちを見つめて」展（令和元年度）を開催したことで、当館所蔵作品《ほたるぶくろ》や熊谷守一の絵画思想及び作風について、いくつかの発見があった。本発表では、熊谷守一の赤もしくは黒い描線の源泉、作画のプロセス、絵画に込められた思想などについて考察した。

熊谷独自の輪郭線については、《最上川上流》（1936年）に、すでにその萌芽がみられる。そこで、発表者は、その源泉について、東京美術学校の師である黒田清輝《大磯鳴立庵》に見られる赤い輪郭線からの着想について指摘した。またこの赤い輪郭線は、熊谷の盟友・青木繁《海の幸》などにもみられる。この点については、さらに実証的検証が必要である。また画面構成については、まず部分のデッサンから始まり、それらを再構成し全体図とする独自のプロセスが見られることが残された素描類から窺える。《ほたるぶくろ》は、5点が確認されており、そのうち3点が熊蜂との組み合わせである。当館所蔵作は、熊谷が初めて制作した熊蜂との組み合わせによる《ほたるぶくろ》である。

熊谷守一の作画活動と死生観は、不可分に結びついており、単なる画面作りを考察するのみでは、彼の絵画思想にたどり着くことは難しい。今後も、技法と理念を一体のものと考えて、熊谷守一の世界の考察を続けていきたい。

12月

江戸狩野派表絵師様式の成立と展開について

野田麻美

本発表では、2021年5月22日より開催予定の「忘れられた江戸絵画史の本流」展で紹介する江戸狩野派の画家80名に関して調査した結果を報告し、そのなかで、表絵師の代表作や出陳作品の特徴について分析した。

まず、江戸狩野派の奥絵師、表絵師の概要を確認し、先行研究と課題を整理した。現在、江戸狩野派研究における表絵師の扱いは限定的で、狩野了承、章信など、実力ある個性的な画家が3～4名注目され、紹介されてい

るに過ぎない。それ以外の殆どの画家は1点も詳細な作品紹介がなされておらず、江戸狩野派の表絵師については不明点が多い。表絵師様式の成立と展開を捉える前提として、江戸時代を通じて活躍した表絵師12家の代表的な当主について述べ、全世界に散在する表絵師作品を集約したデータベースの情報を基に、誰の、どのような作品があるのか、実際の画像とともに紹介した。駿河台家、山下家、深川水場家、下谷御徒士町家、麻布一本松家、神田松永町家、芝愛宕下家、浅草猿屋町代地家、浅草猿屋町代地分家、築地小田原家、芝金杉片町家、根岸御行松家の順に、それぞれの家の当主による代表作や出陳作の画風を分析することで、それぞれの家の様式展開について考察し、表絵師の多様な展開の一端を明らかにすることを試みた。

2月

令和2年度 実技室実績報告

西島幸代

今年度実技室にて実施した講座について報告。コロナ禍で実施できなかった講座もあったが、感染予防対策をし、展覧会関連として実施した講座を報告。新しく試みたオンラインで講師と実技室とを結び講座を実施した。成果として、個別に講師の指導を受けれるようにしたことと参加者の満足度が高かった。一方、通常の講座より講師とスタッフ、講師と参加者との意思疎通に時間がかかり、今後オンラインで実施する場合、通常より余裕のある時間設定が必要であることがわかった。

コロナ禍で美術館教室が中止となる中で、スタッフと「コロナ禍でも実技室が出来ることは何か」を考え実行したことを報告。まず、来館できない児童・生徒のために動画制作を行った。今までの実技室の素材を使って作り上げることを目指し、「カレーの市民紙芝居動画」「ねんど制作過程動画」等制作した。また、美術館教室の流れや指導重点、注意事項をインストラクター・助手と確認し研修を行い、再開に向け準備を行ったことを報告した。新しい生活様式の中、今後連携事業をどう広げ、継続していけるか検討していく必要がある。

2月

構図論をめぐって

村上敬

近代日本洋画壇において「構図」という用語・概念がいかに論じられてきたか、その起源を探った。

「日国」に拠ればこの語の初出は明治も末になってからの永井荷風の小説「冷笑」（1909-10）に求められる。

西洋美術教育導入時にはまだ「構図」という日本語が用いられていなかったのである。

一方、木村莊八の証言では、1915年ころの画学生たちはある主題を描くために人物や物を配置するような絵画を「構図もの」と称していたという。また、青木繁の1913年発表の遺稿「構図の一分時」は彼の佐賀時代（1909）の体験をもとにしたエッセイだが、ここでもコンポジションを「つくる」ことすなわち具象絵画を描く上でのモチーフ操作として構図ということばが捉えられている。

こういった構図観に一石を投じたのが黒田重太郎の『構図の研究』（1925）であった。構図はたんなるモチーフ配置法ではなく、あらゆる絵画がもつ画面要素の動勢や対照といったものを指すことを黒田は主張した。これは、三次元モチーフの二次元への落とし込みという見方以外の観点から個々の絵画の平面的特性を評価する新たな視点の初出と評価できそうである。

3月

マルキ・ド・サド『イタリア紀行』ナポリ篇についてーエルコラネンセ美術館の記述を中心に

南美幸

本年度の当館研究紀要に発表した論文を抜粋した内容。紀要では、マルキ・ド・サドの著作『イタリア紀行』ナポリ篇から、エルコラネンセ美術館に関する記述の訳出を試み、その前に解題を付した。『イタリア紀行』は、イタリア諸都市の古代から当代までの社会、風俗、文化、芸術等、多様な事柄に関するサドの見聞をまとめた旅行記で、生前には未完のまま残され、20世紀に刊行された。本書のナポリ篇、中でも当時発見されたポンペイ等の古代遺跡からの発掘品を展示したエルコラネンセ美術館に関する記録は、1758年の開館以来拡張を続けた同美術館史、ひいては上記遺跡の発掘史において、それらを擁するナポリ王国の厳しい管理体制下でなされた、1770年代中頃の収集・展示の情報を提供する貴重な報告の一つと思われるが、日本ではこれまでほとんど未紹介であった。

本発表では、初めに本書の内容・特質について概略を紹介し、次にナポリ王国による遺跡や発掘品管理と出版事業およびフランスにおける南イタリア古代遺跡関連の出版物について言及した後、サドのエルコラネンセ美術館展示品に関する記述のいくつかを、フランチェスコ・ピラネージの同館図面と比較対照しつつ、紹介した。

3月

白髪一雄《屋島》について

植松篤

当館所蔵品の白髪一雄（1924-2008）による《屋島》について発表した。白髪は、足を使って描いたダイナミックな絵画で知られているが、1960年代半ば頃より1970年代後半まで、道具を使って描くことも行っていた。《屋島》は道具を用いて描かれた絵画の中では比較的早い時期の作品である。画面左には扇状の形が見られるが、ヘラをワイパーのように動かして描いたことから、こうした方法による作品群を、白髪は「ワイパー」と呼んでいた。また、本作の題名は事後的に命名されたものだが、以降、歴史上の合戦の名前が付けられた作品群が「合戦絵シリーズ」としてまとめられており、本作はこのシリーズの起点と考えられる。

道具を使った制作では、足だけを使った制作よりも、作者の画面に対する意識的なコントロールの度合いがより強かったであろう。もっとも、《屋島》の制作過程を画面から推測すると、試行錯誤の痕跡とみられる箇所があり、偶然性もある程度含まれていると考えられる。本作では、ヘラによる大ぶりの面の動きと従来の激しいストロークが両立している。こうした特徴は、「合戦絵シリーズ」の他の作品や、「密教シリーズ」にも引き継がれたものと言えるだろう。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル
- (2) 館蔵品資料
- (3) 出品作家資料
- (4) 館蔵品収集に関わる資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

(1) 館蔵品のフィルム

新収蔵品については、美術品写真の専門家による写真撮影を、年度内にまとめて行なっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジフィルムを写真原板として、受入番号順にフォルダに入れ、整理収納している。経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影を実施している。

(2) 館蔵品のデジタル画像

ポジフィルムと並行してデジタル画像も撮影している。データは課内で共有され、研究、各種刊行物・広報物の作成、講演会や研究会等に活用されている。

(3) その他

館蔵品の他、寄託品などについても、様々な形で撮影され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料（美術館宛の個展案内状など）については、ボランティアの資料整理グループが整理を行なっている。これらは作家ごとに分類・保存され学芸員の研究などに活用されている。

■展覧会資料の整理

企画展等の文書及び資料については、企画展毎に整理収納されている。

■コンピューターによる各種データ管理

館蔵品や図書などのデータベース作成には市販のデータベースソフト「桐」を使用している。

(1) 館蔵品

館蔵品データベースには、題名、材質、伝来など基本情報が入力されている。

(2) 図書

図書データはデジタル化され、来館者による検索も閲覧室に設置されたPC上で行なうことができる。新規図書は、図書担当職員によってデータベース登録が行なわれている。

博物館実習

当館は開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきたが、本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、来館による対面実習とオンラインによるリモート実習の両方での実施が可能なよう準備を進めることとした。作品取扱い実習をはじめとする対面でなければ実施できない内容については、リモート実習ではやむを得ず割愛し、不足する実習時間および内容については大学における補完を求めた。実習生の居住地域における感染状況をもとに、静岡県の実定基準に沿って受講方法を決定し、結果、受講者19名中8名がリモートによる受講となった。

実施期間は、8月10日（月・祝）～14日（金）の5日間、受入の要件は例年並みの（1）～（3）に（4）を加え、以下の通り定めた。

- （1）県内出身もしくは県内の大学に在籍していること。
- （2）美学・美術史学、または美術教育・制作、アートマネジメント等を専攻し、美術館で実習を行う合理的な理由があること。
- （3）大学の推薦を受けられること。
- （4）オンラインによるリモート実習となっても差し支えないこと、またその際の不足分については大学側で補完の用意があること

カリキュラムは、講義、見学、実習、演習からなり、それぞれ当館の学芸課および総務課職員が担当した。全体テーマは「社会における美術館の役割」として、美術館を取り巻く状況が大きく変化するなか、現在の、そしてこれからの美術館が担うべき社会的役割について考えてもらうことを目指した。テーマに沿って、事前レポートの提出と発表、事後レポートの提出を義務づけ、学習効果の意識化と定着を図った。

実習ノートおよび事後レポートから、博物館実習を通して、各学生が美術館活動について理解を進め、その役割について様々な考察の機会を得たことをうかがうことができ、博物館実習の意義が確認できた。

■カリキュラム

- | | |
|-------|-----------------|
| 1 時限目 | 9 : 30～10 : 25 |
| 2 時限目 | 10 : 30～11 : 25 |
| 3 時限目 | 11 : 30～12 : 25 |
| 4 時限目 | 13 : 30～14 : 25 |
| 5 時限目 | 14 : 30～15 : 25 |
| 6 時限目 | 15 : 30～16 : 25 |

8月10日（月・祝）

- | | |
|--------|---------------------------|
| 1～3 時限 | オリエンテーション
【演習】課題発表（石上） |
| 4 時限 | 【講義】静岡県立美術館の概要（泰井） |
| 5 時限 | 【講義】収蔵品展とコレクションの活用（石上） |
| 6 時限 | 課題制作・実習ノート整理 |

8月11日（火）

- | | |
|------|-----------------------------|
| 1 時限 | 【実習】施設見学（石上） |
| 2 時限 | 【講義】国際巡回展ができるまで（三谷） |
| 3 時限 | 【講義】自主企画展ができるまで（村上） |
| 4 時限 | 【講義】学校教育と美術館（西島） |
| 5 時限 | 【実習】教育普及事業〈ロダン館ななふしぎ体験〉（西島） |
| 6 時限 | 課題制作・実習ノート整理 |

8月12日（水）

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 1 時限 | 【講義】総務課の仕事（金原） |
| 2 時限 | 【講義】美術館におけるデジタルアーカイブと情報公開（浦澤） |
| 3 時限 | 【講義】保存、IPMの基礎（新田） |
| 4、5 時限 | 【実習】作品の取扱い実習 額（新田、南）／掛幅（野田、浦澤） |
| 6 時限 | 課題制作・実習ノート整理 |

8月13日（木）

- | | |
|------|---|
| 1 時限 | 【講義】めぐりアート静岡 近隣施設との連携の事例（植松） |
| 2 時限 | 【講義】静岡県立美術館のボランティア活動（浦澤） |
| 3 時限 | 【実習】収蔵庫見学（新田、石上） |
| 4 時限 | 【実習】来館者対応／ミュージズスタッフの仕事／自由見学（石上、ミュージズスタッフ） |
| 5 時限 | 【講義】美術館の災害対策（新田） |
| 6 時限 | 課題制作・実習ノート整理 |

8月14日（金）

- | | |
|------|---|
| 1 時限 | 【講義】ロダン館について（南） |
| 2 時限 | 【実習】来館者対応／ミュージズスタッフの仕事／自由見学（石上、ミュージズスタッフ） |
| 3 時限 | 【講義】美術館の広報について（川谷） |
| 4 時限 | 【実習】来館者対応／ミュージズスタッフの仕事／自由見学（石上、ミュージズスタッフ） |
| 5 時限 | 質疑応答（石上） |

6 時限 課題制作・実習ノート整理

※（ ）内は当館担当者名

※下線はリモート実習において割愛

収蔵品展

第7展示室において当館の所蔵品・寄託品による収蔵品展を開催し、下記7つのテーマ立てにより計197点の作品を展示した。

無料でご利用いただける本館1階エントランスの名品コーナーにおいても常時3点の作品を展示し、多くの方に鑑賞いただいた。

■収蔵品展スケジュール

4月7日（火）～5月31日（日）

新収蔵品展

6月30日（火）～7月12日（日）

東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念
きらめく日本画

7月14日（火）～8月16日（日）

東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念
富士山をめぐる

8月18日（火）～9月13日（日）

東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念
激突！東西の狩野派

9月15日（火）～11月15日（日）

曾宮一念とその時代

11月17日（火）～2021年1月24日（日）

耳をすませて一音と楽器のある風景

1月26日（火）～4月4日（日）

日本戦後美術の挑戦

■出品目録

pp.104－107参照

移動美術展

■概要

静岡県立美術館では開館以来、県内の遠方の施設で当館のコレクションを公開する機会として、移動美術展をほぼ毎年開催してきた。令和元年度は1会場での開催であったが、本年度は以前のように、東部方面1会場と西部方面1会場と計2会場での開催となった。

沼津会場では横山大観やオーギュスト・ロダンなど知名度の高い作家の作品に加え、内浦湾など沼津周辺の風景を描いた作品、更に山口源をはじめとした沼津や周辺地域にゆかりのある作家の作品を展示した。

続く焼津会場では沼津会場と共通する作品のほか、焼津市出身で世界的な注目を集める石田徹也を大きく取り上げた。更に同市と藤枝市の境にそびえる高草山を描いた北川民次の作品などを併せて展示した。

■沼津会場

静岡県立美術館 移動美術展 広重・大観・ロダンが沼津にやってくる

主 催 静岡県立美術館、(公財)沼津市振興公社
共 催 沼津市教育委員会
後 援 沼津市、静岡新聞社・静岡放送
会 場 沼津市民文化センター
会 期 令和2年10月22日(木)～11月3日(火・祝)
開館時間 10:00～17:00 会期中無休

■焼津会場

焼津市文化センター開館35周年事業

静岡県立美術館 移動美術展 石田徹也を中心に

主 催 静岡県立美術館、焼津市、公益財団法人 焼津市振興公社
会 場 焼津文化会館
会 期 令和2年11月10日(火)～11月25日(水)
開館時間 9:00～17:00
休 館 日 11月16日(月)、24日(火)

【会期中イベント】

- ・静岡県立美術館学芸員によるフロアレクチャー
日時：10月22日(水) 11:00～、14:00～
10月24日(土) 11:00～(小中学生向け)、
14:00～
・ちょこっと体験「ミニ考える人を作ろう」
日時：10月29日(水) 12:00～17:00(14:00～15:00は休止)
・静岡県立美術館館長 美術講座「栗原忠二と山口源、ふたりの生きた時代」
日時：10月31日(土) 14:00～(要事前申込)
講師：木下直之(当館館長)

■出品目録

沼津会場はp.108、焼津会場はp.109を参照



▲チラシ



▲チラシ

令和 2 年度 新収蔵品

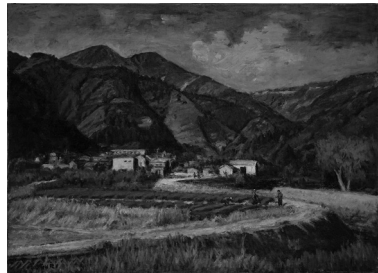
当館における作品収集の主要な方針は以下のとおりである。

- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画
- ②ロダンを中心とする国内外の近代以降の彫刻
- ③20世紀以降の美術動向を示す作品
- ④静岡県ゆかりの作家、作品
- ⑤富士山をモチーフとした作品

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	作品概要
1 狩野栄信・狩野養信	唐画流書手鑑	1819-1828 (文政2-11)	絹本着色/墨画、画帖装(28図)	各25.6×28.2	購入	19世紀に活躍した江戸狩野派の画家・狩野栄信と養信の合作による倣古図である。中国絵画の名品28図に倣って描かれているが、各図においては原本の図様や表現が忠実に写されており、倣古図の制作を通じて、栄信、養信が古典名画の表現や技法を体得したことがうかがい知れる。各図では、江戸狩野派の倣古図の規範であった狩野探幽「学古図帖」の図様が用いられておらず、栄信、養信が実見した作品や新しく得た情報に基づき図様が選択されている点が特筆される。本作は、栄信、養信が江戸狩野派の倣古図の新様式を確立したことを示す記念碑的な作品と言える。 
2 狩野養信	東方朔・山水図	1834-1846 (天保5-弘化3)	絹本着色、掛幅装（三幅対）	各 106.2 × 43.3	購入	東方朔図に山水図を取り合わせた三幅対形式の作品である。本作の左右幅の図様は、作者の狩野養信やその前後の世代の江戸狩野派にとって規範的な作品であった伝馬遠「山水人物図」（個人蔵）や伝夏珪「山水図」左幅（東京国立博物館）が典拠となっている点が注目され、モチーフの描写には、馬夏様式の学習成果がうかがわれる。モチーフを描く筆線は軽やか、彩色は鮮やかで、養信らしい表現が随所に用いられている。父・狩野栄信が確立した三幅対形式の作品における新様式を、養信が受け継ぎ、それを発展させたことがうかがい知れる作品である。 

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	作品概要
3 狩野周信	西湖図	17世紀後半-18世紀前半	絹本着色、掛幅装	120.2×191.0	購入	浙江省の杭州にある西湖を描いた作品である。「西湖図」は歴代の狩野派のリーダーが描いた画題で、本作は狩野周信の父・狩野常信の作品と孫の狩野典信作品の間に位置する時期の作例である。モチーフの形態はやや平板だが、メリハリのある筆墨、彩色表現によって描かれており、周信の作例中では完成度が高い。丸みの強い岩の形態や柳の枝ぶりなどの細部の描写には、周信の筆癖が表れている。掛幅として破格の大きさを誇り、モチーフの描写も丁寧で、周信の代表作と言える作品である。 
4 村松以弘	山水図	19世紀前半(江戸時代後期)	葛布着色、掛幅装	101.0×35.9	購入	掛川藩のお抱え絵師を務め、遠州画壇の礎を築いた村松以弘(1772～1839)による作品。鋭鋒を画面中央に配し、その手前には溪流を中心とした水景を描く。他の以弘作品にも例があるが、本作は葛布に描かれているため、部分的に顔料が掠れ、素朴な風合いとなっている。当館としては初めて収蔵する以弘作品となる。以弘の師である江戸の谷文晁、そして門下の見附宿出身の福田半香や榛原郡出身の平井顕斎の作品を当館は既に収蔵しており、本作がコレクションに加わることで、遠州画壇の系譜を辿ることが可能となった。 
5 カール・ドービニー	川岸の風景	1885	板、油彩	38.5×67.0	竹内康史氏寄贈	作家はバルビゾン派の画家シャルル＝フランソワ・ドービニーの長男で、幼少期より父から絵画の手ほどきを受けた。最晩年に制作された本作が描かれた場所は定かではないが、川辺の描写などから、恐らくオワーズ河畔と推測される。父が所有するアトリエ舟のボタン号でともによく訪れ、その制作風景を目の当たりにした場所の一つでもある。色彩の明暗(空や川/木立)、タッチの強弱(樹木/街並み)などの対比効果の特徴とし、19世紀後半に多様な展開を見せたフランス風景表現の優品の一つである。 

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	作品概要
6 小栗哲郎	龍爪山下の群落	1991 (平成3)	キャンヴァス、油彩	72.7×100.0	鍋田卓志氏寄贈	本作品の主題となっている竜爪山は、静岡市葵区にある身延山地の山で、古くから信仰の山として登山する人も多い。北側の薬師岳と南側の文殊岳からなる。画面奥から右側に蛇行して流れる川は、長尾川である。 深緑色の山々と畑の緑が鮮やかで、澄み切った青空と褐色の大地が対比されている。緑の畑とすでに収穫された積藁が描かれ、画面中央に、農作業に従事する3人の人々と、遠景には元気よく駆けっこする2人の子供の姿が見られる。 交友の深かった中川一政の色彩と筆致を想起させるところがある一方で、自然と真摯に向き合う平明な写実は、小栗哲郎の特徴である。
7 ダレン・アーモンド	LIKE LOVE WE SELDOM KEEP	2015	ブロンズ、塗料	20×165×3	太田正樹氏寄贈	本作品は、ダレン・アーモンドが活動の最初期から現在まで継続して制作、発表している「トレイン・プレート・シリーズ」の内の1点である。列車のネームプレートの形状をしており、刻まれたアルファベットは、実際にイギリスにおいて19世紀の蒸気機関車に使用されたタイポグラフィーとフォントが使用されている。鉄道、移動、旅行に対するアーティストの強い関心がうかがえる。ブロンズ製の板に刻まれた「ANOTHER TIME」という言葉は、1940年に出版されたW.H.オーデン（1907～1973）の詩集のタイトルからの引用で、本来の文脈から切り離され引用された言葉は、鑑賞者から多様な解釈を引き出す効果を生んでいる。



© Darren Almond

■収蔵品点数一覧 （令和２年度末現在）

購入作品点数

年度		日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計	
												点数	金額
	55						5					5	74
	56	14	14	4	7	58		3	1			101	287
	57	9	5	3		3	2					22	563
	58	10	6	2	1	60		1				80	483
	59	3	10			27		2				42	597
	60	7	10	2		5		11				35	669
	61	4	4	1		16		2				27	240
	62	3	6			85		2				96	242
	63	5	3			1		7				16	499
	元	5	2			3		3		33		46	392
	2	2	1		3	43		5		13		67	598
	3	1	8	2		268		9				288	675
	4	3	4			4		12				23	768
	5	5	3	2		68		13			3	94	557
	6	8	8	1		27		1			4	49	395
	7	4	8	1	1	152						166	397
	8	3	2	4							4	13	137
	9	5	4	1		2						12	146
	10	5	4	1		52						62	120
	11	4	3	2		37						46	88
	12	1	3	2							1	7	46
	13	2	1	1		9		1				14	39
	14	3	4	1		9						17	45
	15	7	2									9	52
	16	3	2			60		1				66	56
	17	2				22					7	31	41
	18			2				2				4	6
	19		1								1	2	30
	20	1	1			1						3	13
	21	1										1	20
	22	1	1			1						3	12
	23	1										1	5
	24		1			1						2	5
	25											0	0
	26	1										1	16
	27											0	0
	28					2						2	3
	29		1			1						2	1
	30	1	1			2						4	10
	元	1	2									3	10
	2	4										4	10
合計	点数	129	125	32	12	1,019	7	75	1	46	20	1,466	8,346
	金額	1,716	2,841	311	68	366	80	2,811	3	8	142		

寄贈作品数

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計
55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5											0
6					1						1
7											0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15						38	54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4				1	14	32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
23	1	10			22		2			1	36
24	3				13					1	17
25	2	10							2		14
26	4	8			24		3			2	41
27		1			2						3
28	6	4			23		1			4	38
29		1							5	1	7
30	3	1								3	7
元		1			10					5	16
2		2								1	3
計	221	129	19	93	340	340	14	8	18	71	1,253

図書資料の収集・整理

■収集

令和2年度の新たな受入により、当館蔵書は100,796冊となった。その累計内訳は、刊行図書44,617冊、美術雑誌23,825冊、美術館等刊行物32,354冊である（データのデジタル化による冊数表記の改訂については、平成18年度年報を参照されたい）。

■分類・整理

令和2年度に行った作業は、以下のとおりである。

①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、コンピューターに入力、配架した。

②定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、コンピューターに入力後、配架した。

■閲覧

当館には、来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を配架して自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。平成18年度より、閲覧室に2台のパソコンを設置し、デジタル図書データを用いた図書検索ができるようになった。利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧可能である。

館蔵品等の貸し出し

No. 作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会期	会場	貸出期間
1 鈴木松年	神武天皇・素戔鳴尊図屏風	京都市ほか	京都の美術 250年の夢	2020/4/18- 2020/6/14	京都市京セラ美術館	2020/4/8- 2020/6/24 (コロナのため中止、貸出のみ)
2 下村観山・横山大観	日・月蓬萊山図	兵庫県立美術館、神戸新聞社	超・名品	2020/6/2- 2020/6/7	兵庫県立美術館	2020/3/16- 2020/6/27 (コロナのため会期変更、展示無し)
3 竹内栖鳳	揚州城外	兵庫県立美術館、神戸新聞社	超・名品	2020/6/2- 2020/6/7	兵庫県立美術館	2020/3/16- 2020/6/27
4 入江波光	草園の朝	兵庫県立美術館、神戸新聞社	超・名品	2020/6/2- 2020/6/7	兵庫県立美術館	2020/3/16- 2020/6/27
5 クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2020/9/11- 2020/11/3	山梨県立美術館	2020/9/1- 2021/6/23
6 アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2020/9/11- 2020/11/3	山梨県立美術館	2020/9/1- 2021/6/23
7 アントワーヌ＝ルイ・バリ	ライオンと蛇	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2020/9/11- 2020/11/3	山梨県立美術館	2020/9/1- 2021/6/23
8 クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2020/12/19- 2021/2/21	ふくやま美術館	2020/9/1- 2021/6/23
9 アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2020/12/19- 2021/2/21	ふくやま美術館	2020/9/1- 2021/6/23
10 アントワーヌ＝ルイ・バリ	ライオンと蛇	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2020/12/19- 2021/2/21	ふくやま美術館	2020/9/1- 2021/6/23
11 クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2021/4/10- 2021/6/13	パナソニック汐留美術館	2020/9/1- 2021/6/23
12 アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2021/4/10- 2021/6/13	パナソニック汐留美術館	2020/9/1- 2021/6/23
13 アントワーヌ＝ルイ・バリ	ライオンと蛇	山梨県立美術館、ふくやま美術館、パナソニック汐留美術館	クールベと海	2021/4/10- 2021/6/13	パナソニック汐留美術館	2020/9/1- 2021/6/23
14 徳岡神泉	雨	京都市京セラ美術館開館記念展実行委員会	京都の美術250年の夢—江戸から現代へ—	2020/10/10- 2020/12/6	京都市京セラ美術館	2020/10/1- 2020/12/16
15 森田安次	風の又三郎	東京都美術館、東京都	読み、味わう昭和の書	2020/11/18- 2021/1/7	東京都美術館	2020/11/8- 2021/1/17
16 森田安次	水	東京都美術館、東京都	読み、味わう昭和の書	2020/11/18- 2021/1/7	東京都美術館	2020/11/8- 2021/1/17
17 渡辺省亭	十二ヶ月花鳥図	東京藝術大学大学、東京新聞、NHK、NHKプロモーション	渡辺省亭展 欧米を魅了した花鳥画	2021/3/27- 2021/5/23	東京藝術大学大学美術館	2021/3/17- 2021/7/21 (コロナのため会期中で臨時休館)
18 渡辺省亭	十二ヶ月花鳥図	岡崎市美術博物館、中日新聞ほか	渡辺省亭展 欧米を魅了した花鳥画	2021/5/29- 2021/7/11	岡崎市美術博物館	2021/3/17- 2021/7/21

美術作品の補修

令和2年度の修復作品

- ・『輞川図巻』解体、クリーニング、裏打ち
- ・ジョン・ロバート・カズンズ《ポルティチからヴェスヴィオ山を望む》マット修復
- ・小栗哲郎《龍爪山下の群落》画面洗浄、額装改善、裏板作成・取付
- ・丹羽勝次《NO HOOKS》固着、クリーニング、整形、補強、補填

保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる、作品の保全活動は、美術館の持つ重要な役割の一つである。しかしながら、老朽化による不具合が建物の各所に生じ、この機能への障害がしばしば生じている。防水、配管、電気等の基本的な設備が、思いがけない故障によって脅かされ、緊急の対応によって事なきを得ることが多くなった。

建物を取り巻く環境が、設計当初の想定とは異なっていることも看過出来ない。気象庁発表による平均気温は建設当初とは変わっており、ゲリラ豪雨の如き急激な気候変動は、空調設備への負荷を、著しいものになっている。電気やガス、水道料金の高騰が、対応の困難に拍車をかける。幸い当館には立地上当てはまらないが、内水氾濫のような災害は、かつては想定すらされていなかったものであろう。

作品を保存するために望ましい環境の基準も、変化している。例えば、かつては相対湿度 $60 \pm 5\%$ が作品保存の標準値とされていたが、今日、文化庁が国宝や重要文化財の公開環境の基準として挙げているのは、 $55 \pm 5\%$ である。当然のことながら、こういった基準値は建物の設計段階で参照された筈であり、建物の性能に反映している。

また、生物の生息環境の変化は、これまでに見られなかった虫菌害のリスクを高めている。マダニ、トコジラミ等は、文化財害虫ではないが、観覧環境を悪化することもある。ヒアリの個体は、これまでに清水港で発見されており、当館園地で繁殖してしまう可能性もある。

今年度は新型コロナの防疫が、大きな課題となった。

各展覧会での対策は、担当者が原案を立案、学芸総務両課の職員によるコロナ対策チームと、監視業務に当たるミューズスタッフ責任者とでこの案を検討し、さらに館内の意見を聴取した後、管理職等の承認を経て実施した。

入館時検温用サーモグラフィーの導入、入場制限時の人員整理、展覧会への日時指定制導入の検討等は、総務課が主導した。

ヤンバルトサカヤスデの個体数は、昨年同様、全体として少ないようだったが、越冬した個体が例年と比較して多い印象があり、建物内への侵入事例もあった。ヤスデ等が潜みやすい建物周りの植栽を抜き、防草砂で固める試みも実施した。

■展示室等殺虫

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のブンガノンによる殺虫処理は例年通り行なった。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つか

の措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫等への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ブンガノン炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

作品に虫菌害が発生した際、有害要因を物理的に排除するだけでなく、薬剤等による処理が必要となる場合がある。

菌害の場合、燻蒸用薬剤ならば、主成分が酸化エチレンの薬品（商品名エキヒュームS）が適当かと考えている。資料に適性があるなら、夏期の日照を利用した熱処理も試行しつつある。

環境や人体への影響が少ない殺虫処理方法である窒素置換法による低酸素濃度殺虫は、必要となる事態が無かったため、今年度の実績は無かった。

炭酸ガスによる殺虫処理は、仕様を検討し、当館所蔵資料に即したバッグの形態等を考案した。

収蔵庫等で虫菌害が発生した場合にも、当該箇所全域を大規模燻蒸することは、極力避ける方針である。特にエキヒュームを用いる場合、資料への吸着が強く、ガスの開放を入念に行なう必要があることから、この薬剤の使用を検討する場合には、必要と危険とが十分に勘案されなくてはならない。

ガス燻蒸は個別作品への小規模燻蒸に留め、清掃や環境の改善で対応することを、可能な限り目指したい。

■環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。

当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。今年度は4回の館内調査を行なった。また屋外の生物環境の調査を、昨年度に引き続き実施した。館内に侵入する恐れのある生物の生息状況や、リスクになり得る建物周囲の状況を確認した。

館内の作品収納環境は、必ずしも望ましい状態ではなくなりつつある。点数が増え、収納場所が無くなっていくことで、通気を確保し難くなり、取り扱いに必要な空間の確保も難しくなかねない。作品の収集は美術館本来の機能であり、これを維持していくためにも、収蔵庫機能の改善は、必須の課題である。昨年度に引き続き、高気密のキャビネットと調湿剤、ガス吸着剤との併用による作品収納スペースの拡張は、概ね順調に進んでおり、密封によって資料から放散する有害ガスも、基準値以下の管理を進めている。

壁面ガラスケースの照明器具更新は一昨年度に済んでいるが、額装作品等に使用されるスポットライトは、従来のハロゲンライトのままである。演色性、配光等、様々な点から、適切なLED器具への移行が望まれる。

■普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。館内職員に対しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けている。また博物館実習の中に「作品の保全について」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行なわれている。

■防災

今年度は、職員による大規模な防災訓練は実施出来なかった。

静岡県博物館協会事務局としては、会員各館で実施している新型コロナ対策を書き込むためのスレッドを引き続き活用、情報を共有した。なお、この掲示板には会員からの新型コロナに関する投稿も行われ、会員相互の連絡にも役立てられた。

■主な保存活動の経過

5月23日（土）～6月3日（水）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第1回目

6月5日（金）～7日（日）

ブンガノンによる展示室等殺虫業務

8月24日（月）～31日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第2回目

9月27日（日）

静岡県西部での地震に際し、西部地域で安否確認。

10月26日（月）～11月5日（木）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第3回目

2月1日（月）～5日（金）

エキヒュームSによる殺虫燻蒸実施。

2月8日（月）～2月15日（月）

外部業者による館内外生物環境及び空気環境調査第4回目

ギャラリーツアー

ギャラリーツアーは、ギャラリーツアーグループに所属する当館ボランティア1名がナビゲーター役を務めて、収蔵品展とロダン館の作品を、参加者とともに対話形式で約30分間鑑賞する活動である。

開館年から平成21年度まで行われてきた「ギャラリートーク」のスタイルを改変して、平成22年度より実施してきた。

平成30年度にボランティア再募集を行い、平成31年4月1日からは15名で活動を開始し、令和2年3月31日時点で13名が活動している。前期から継続しているメンバーもいる一方で、新たに参加したメンバーが約半数を占める。

ツアーを行うほかにも、前期までと同様2カ月に一度、活動日に合わせて定例会と勉強会を開催し、意見を交換しながら、ナビゲーションの技術を一層の向上を目指している。

残念ながら令和2年度はコロナウイルス感染症対策のため、昨年度2月の定例会で実施することが決定していた、4月から9月前半のツアーはすべて取りやめとなった。9月後半から3月にかけても、その後の協議により実施しないことに決まった。定例会と勉強会は6月、8月、10月、3月に行われた。

(1)「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えるとともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさを分かち合う。

(2) ギャラリーツアー班の役割

収蔵品展、ロダン館のギャラリーツアーのガイドを行う。一方向的に作品を解説する従来のギャラリートークのスタイルから、双方向的に対話しながら鑑賞するスタイルへ変更。作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

(3) ギャラリーツアー登録ボランティア

13名(令和3年3月31日現在)

(4) 実施日および研修日

実施日

毎月第1土曜日(13:30～、14:30～)

毎月第3土曜日(13:30～、14:30～)

※休館期間は除く。館内の別のイベントと重なる際は休止となる場合がある。

研修日

原則、企画展開幕後の最初の休館日に、ミュージズスタッフらと合同で収蔵品展について研修を行っている。今年度はコロナウイルス感染症対策のため、ボランティア内覧会のみに参加した。ギャラリーツアー班個別では、2カ月に一度、活動日にあわせ定例会と勉強会を実施している。定例会では日々の活動や今後の活動計画について話し合い、司会や書記は各メンバーによる輪番制である。勉強会も輪番制で1年に1度、各自担当し、ツアーの模擬練習などを行っている。

(5) ギャラリーツアー本番までの流れ

- ①ツアーで取り上げる作品について、文献等で各自自主学習を行う。
- ②学芸員による研修会に参加。また実作品を前に、ボランティア同士でディスカッションや予行演習を行う(勉強会)。
- ③本番ツアー。ナビゲーター役1名の他、補助に1名つき、参加者の誘導などを行う。終了後は、活動日誌に記入。

(6) 令和2年度 ギャラリーツアー実施実績

コロナウイルス感染症対策のため、実施せず。

※ただし、10月31日(土)、11月1日(日)、2日(月)、3日(火)に実施した「ロダンウィーク クイズラリー」では、7名のボランティアが受付スタッフとして活動した。

実技・鑑賞講座

■ちょこっと体験

平成22年度から実施。どんな方でも気軽に参加できるように、入ってすぐのエントランスで申し込み不要・参加費無料・短時間の簡単創作体験を行っている。

令和2年度も水曜日から日曜日までの5日間を基本として、展覧会とからめた内容・技法での実施を目指した。県立美術館の収蔵作品や企画展に展示中の作品などをモチーフとすることで、展示作品への興味関心を促した。ちょこっと体験目当てのリピーターも増えていて、PR活動としての効果は高い。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止を余儀なくされた。そこで、「みんなのミュシャ」展開催中に実施予定であった「ミュシャのぬり絵体験」は中止となってしまったが、来館者にぬり絵を配布し、自宅で楽しんでもらうようにした。出来上がったぬり絵をツイッターまたはInstagramに投稿してもらうようにした。



実施日	内 容	人数
8月7日～10日	ぬり絵	中止
10月29日～11月3日	ミニ考える人づくり お湯で溶けるプラスチックでの造形	476
2月23日～28日	シルクスクリーン ガーゼハンカチへの 印刷体験	900
年間12日		1,376

■実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う、②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることを目指し、展覧会に関連づけて実施している。

「みんなのミュシャ」展開連では、版画家の柳本一英氏に講座をお願いした。担当学芸員と対談形式でリトグ

ラフの制作過程や当時の工房について聞いた後、展示室で鑑賞し、作品の一部を模写する制作を通して、ミュシャの線の細やかさ構図の巧みさを感じることができる講座となった。



実施日	内容〈講師〉	人数
8月29日、30日	ミュシャde模写 〈柳本一英氏（版画家）〉	25
10月24日、25日	木材工作 ロボットをつくろう 〈常木保宏氏（常木教材所長）〉	23
12月12日、13日	パラレルヒストリーズ 関連講座	中止
3月13日、14日	チョキチョキ新聞アート 〈マズダカルシ氏（絵本作家）〉	20
年間6日間実施		68

■創作週間

創作週間は高校生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、日本画といった制作活動を利用者同士アドバイスし合って取り組んだりしていた。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画についてはインストラクターを配し、利用者への指導、相談、助言を行っている。

また、「創作週間スペシャル」と題し、特定の技法習得を目的としたワークショップをデッサンの基礎と日本画で計画。デッサンの基礎の講座については緊急事態宣言が発令していたため中止となった。日本画の講座については当館所蔵の《樹花鳥獣図屏風》を題材にした講座

にした。創作週間スペシャルで技法に興味をもった参加者が、通常の創作週間へ継続的に参加される方も多く見ることができた。

<創作週間>

開室日数：45日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下文氏（日本画家）、藤田泉氏
（木版画家）、柳本一英氏（銅版画家）

利用者数：373名

<創作週間スペシャル>

（デッサン）「ロダン彫刻でデッサンの基礎を学ぶ」

日 時：4月12日（日）→中止

講 師：田村明彦氏（アステール講師）

（日本画）「日本画でドット若冲」

日 時：6月20日（土）、6月21日（日）

講 師：日下文氏（日本画家）

場 所：当館実技室

参加者数：6名



■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描く機会として、毎月2日間実施している。

参加者は高齢者が多いが、中学生・高校生・大学生など若手の参加者も増加傾向にあり、県外からの参加者も出てきている。デッサンを通してロダン彫刻をより深く鑑賞できる人気プログラムとなっている。

実施日数：18日

実施時間：10：00～16：30

参加者数：326名

実技・体験

■ねんど開放日

「ねんど開放日」は、実技室と約1 tの粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらうプログラムである。

親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするため、こちらで細かい指示は出さず、会話も含めて楽しんでもらうことに重点をおいていた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者同士の距離を適切に保ち、会話を控えていただくようお願いをした。定員・実施回数を大幅に減らし、県の予約システムを活用しての事前予約制とした。

実施日数：4日（1日2回で8回実施）

実施時間：午前の部 10：10～11：30

午後の部 13：00～14：30

インストラクター：増田洋子氏（美術作家）

場 所：当館実技室

参加者数：127名



■えのぐ開放日

「えのぐ開放日」は、3歳以上の親子で自由に楽しく絵を描いてもらうプログラムである。

「ねんど開放日」と同様に、親子でコミュニケーションを取りながら造形遊び体験を楽しんでいただくプログラムではあるが、「えのぐ開放日」については、インストラクターが描くテーマを指定し、ナビゲートしながら、希釈したポスターカラー複数色を用いて屋外テラスの石畳の上に描画していく。（天候により室内実施となる。その場合、ビニールシートに描画していく）

プログラム内容はインストラクターの増田洋子氏が季節や企画展の内容などに合わせて考案。

「ねんど開放日」と同様に新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から定員を大幅に減らし、参加者同士の距離を保つ工夫をしながらの実施となった。

実施日数：2日（1日2回で4回実施）

実施時間：午前の部 10：15～12：00

午後の部 13：30～15：30

インストラクター：増田洋子氏（美術作家）

場 所：当館屋外展示テラス 当館実技室

参加者数：84名



■わくわくアトリエ

「わくわくアトリエ」は「いろんな素材をかたちに！」をテーマに、小学生から大人まで幅広い年代が創作活動の喜びを味わえる制作体験ワークショップである。

小学生が参加できる講座ということもあり、参加者のメインは小学生または親子である。

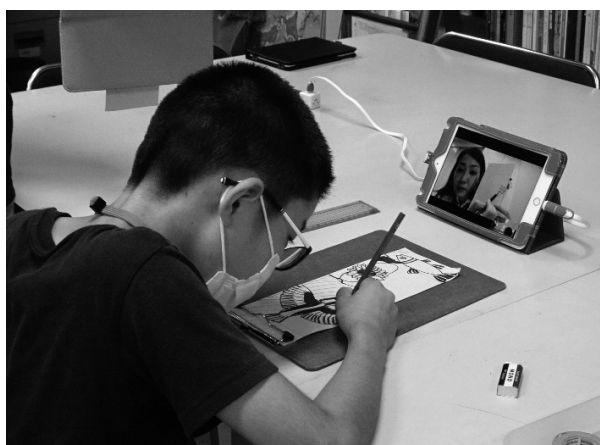
企画展のテーマに合わせて、小学生でも参加可能な内容を講師陣に考案してもらっているが、各分野の技巧的な内容で行う「実技講座」とは違い、誰にでもできる幅広い技法や視点が創作活動自体の楽しさに繋がっているように感じる。

実施日数：3日

実施時間：10：00～16：00

場 所：当館実技室

参加者数：58名



（「花や草木のフレーム模様を切り絵でデザインしよう」にて講師福井利佐氏と参加者の様子）



（「動く！くるくるアニメーション」にて完成作品を披露している様子）



（「石膏像を作ろう」にて石膏を振りかける制作工程の様子）

日 時：8月11日（火）→中止
 インストラクター：西島幸代（当館主査）
 場 所：当館実技室、展示室

実施日	内 容〈講 師〉	人数
5月24日	紙活字体験ワークショップ 紙で紙に印刷してみよう 守田篤史氏（アートディレクター、プリンティングディレクター）、和田由里子氏（アーティスト/タイプデザイナー）	中止
7月26日	花や草木のフレーム模様を切り絵でデザインしよう 福井利佐氏（切り絵作家）	22
9月21日	動く！くるくるアニメーションをつくろう しながわあやか氏（絵描き）	24
11月8日	石膏像をつくろう 堀園実氏（美術家）	12
年間3日		58

■夏休み子どもワークショップ

展示室でスタッフと一緒に対話鑑賞を楽しみ、レポートを制作する講座を計画していたが、コロナ禍で展示室での会話を控えていただいていることから、実施を見送ることとなった。

学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムである。実技や鑑賞、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、職員やエデュケーションスタッフ、インストラクターがお手伝いするものである。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「ねんど教室」「えのぐ教室」「美術館の秘密を探れ」「ボランティアとの鑑賞」「教員研修」は中止となった。

■ねんど教室

「ねんど教室」は、幼児、児童、生徒を対象に、陶芸用粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へ、個人制作から共同制作へと繋げていく造形遊びの考え方を取り入れたプログラムである。（令和2年度中止）

インストラクター：丸山成美氏、しながわあやか氏、
齋藤詩織氏

場 所：当館実技室

■えのぐ教室

「えのぐ教室」は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変えて実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心に行い、学年が上がるにつれて少しずつ難易度を上げているが、どの年齢に対しても、全身を使い、楽しく描くことを重視している。（令和2年度中止）

インストラクター：丸山成美氏、しながわあやか氏、
齋藤詩織氏

場 所：当館実技室、屋外展示テラス

■音のかけらワークショップ

「音のかけらワークショップ」は、当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

現代アート鑑賞のための重要なコンテンツではあるが、ワークショップ実施のために、プログラム実施に場所と時間が必要となること、プログラム自体のユニバーサルデザイン化、作者の制作意図とプログラムとの整合性など、今後の利用について再検討が必要である。



実施日	団 体 名	人数
9月30日	静岡県立静岡中央特別支援学校	17
10月21日	静岡県立富士特別支援学校	3
年間日数	合計人数	20
2日	団体数	2

■ロダン館ななふしぎ

「ロダン館ななふしぎ」は、ロダン館の彫刻作品を楽しみながら鑑賞するプログラム。7枚のカードに書かれたクイズを解き、回答後ナビゲーターが作品解説をしながら答え合わせをしていく。

答え合わせ時の解説では、鑄造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。また、《考える人》や《カレーの市民》を前にして同じポーズや表情の真似することにより深く作品に目をやる子どもたちの姿が見られた。新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、展示室での会話を控えるようお願いしていることから、作品解説をパワーポイントを使って別室で解説することとなった。このことから、今まで大規模校の児童・生徒には実施できなかったこのプログラムが実施可能となった。



実施日	団 体 名	人数
10月 6 日	富士市立鷹岡中学校	160
10月30日	湖西市立白須賀中学校	25
11月 5 日	御殿場市立原里小学校	95
12月 4 日	静岡市立駒形小学校	35
12月 8 日	掛川市立西中学校	37
1 月26日	静岡市立久能小学校	7
1 月29日	藤枝市立葉梨小学校	131
年間日数	合計人数	490
7 日	団体数	7

■美術館の秘密をさぐれ

「美術館の秘密をさぐれ」では、美術館を誰もが楽しく鑑賞できる展示の工夫や作品保護などについて、館内を案内するプログラムである。普段は見ることができない美術館の裏側や施設の特徴や工夫を紹介しながら、美術館が多くの人によって支えられていることに気づくことができる。小中学校での、社会科見学や総合的な学習の時間におけるキャリア教育的な視点を取り入れた活動としての申し込みが多くなってきている。

令和2年度は不特定多数がバックヤードに入ることによって新型コロナウイルス感染症の被害が作品管理エリア周辺に及ぶ恐れを考え、中止となった。

■ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象とした、ロダン館彫刻作品のスケッチ・デッサン・クロッキープログラム。描く行為によって、通常の観覧以上に細部に眼を向けることとなり、より深い鑑賞体験となる鑑賞プログラムである。



実施日	団 体 名	人数
10月31日	静岡市立清水第七中学校	13
10月 9 日	聖隷クリストファー中学校	25
11月 7 日	静岡市立清水第七中学校	21

11月20日	静岡第一学院	21
11月20日	静岡大学	2
2 月 2 日	静岡県立江之島高等学校	28
年間日数	合計人数	110
6 日	団体数	6

■ボランティアスタッフとの鑑賞

学校向けギャラリーツアープログラム。

教育普及活動は、美術館の財産すなわち作品を生かした鑑賞系プログラムの充実に力を入れている。

その一環として、来館1ヶ月前までに学校からの依頼に応じて、当館ボランティア（展示室ボランティア学校班）に連絡を取り、都合のつくボランティアに鑑賞の手伝いをお願いしている。

展示室では、子どもたちの感想や気づきに耳を傾けながら作品について一緒に考え、話をする鑑賞を行っており、観賞後、子どもたちから「楽しかったよ。」「また、美術館に来るね。」などの声が聞かれる。

「ロダン館ななふしぎ」「美術館の秘密をさぐれ」等のプログラムと「ボランティアスタッフとの鑑賞」プログラムを併用実施することも多い。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、展示室での会話を控えるようお願いしていることから、中止となった。ボランティアの皆さんには内覧会に出席していただき、今後に備え個々に美術作品の見識を深めるよう努めていただいた。



■出張美術講座

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、美術館の概要や企画展、収蔵品展、ロダン館の紹介やレプリカ教材（屏風、掛軸、西洋画、考える人等）を使って鑑賞授業を行ったり、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行った。

また、こどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業の事前指導のために、同事業参加中学校に赴き、鑑賞マナーや開催展覧会の見どころ解説などを行った。

実施日	団 体 名	人数
10月2日	富士市立鷹岡中学校	160
2月17日	静岡県立天竜特別支援学校	27
3月16日	静岡英和女学院	71
年間日数	合計人数	258
3日	団体数	3

■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップ等を指導したい教員を対象として、イベント補助作業や粘土教室の参加・見学を受け入れる。また、県主催夏期研修会、県内各地区の図工美術科教員の研究会に参加し、講師を務めている（令和2年度中止）。

■粘土・レプリカ・当館資料の貸し出し、授業協力

児童・生徒を引率して当館主催の粘土教室に参加するのは、授業時間数や距離・費用等で難しいが、自校で同様の造形遊び体験を实践したいという教員のために、粘土貸出を行っている。

また、学校の図画工作科・美術科の鑑賞分野の教材として使用できるように、本館の収蔵品を用いたレプリカ等の教材貸出、当館で制作したブロンズ彫刻の鋳造工程を解説したVTRなどの資料貸出、鑑賞授業の内容相談などの協力を行っている。



	ねんど貸出 団体名	人数
1	静岡県立静岡南部特別支援学校	10
2	静岡大学教育学部附属幼稚園	41
3	島田市立金谷小学校	42
4	麻機幼稚園	73
5	静岡市立飯田南こども園	90
6	静岡市立清水高部東小学校	100
7	静岡県立静岡高等学校	150
8	磐田市立南小学校	150
9	焼津市立焼津東小学校	360
10	エンゼル幼稚園	285
合計人数		1301
団体数		10

	レプリカ貸出 団体名	人数
1	静岡市立長田東小学校	900
2	静岡市立清水袖師小学校	170
3	裾野市立富岡中学校	183
4	静岡県立中央特別支援学校	12
5	静岡市立清水高部東小学校	100
6	静岡県立天竜特別支援学校	81
7	静岡県立沼津特別支援学校 愛鷹分校	32
8	富士市立岳陽中学校	280
合計人数		1758
団体数		8

■アートカード貸出

平成27年度より、当館収蔵作品48作品をカードにしたアートカードの貸出を開始した。当館に団体観覧を計画している学校の事前学習や、学校の図画工作科・美術科での鑑賞能力トレーニング題材としてなど、目的や対象に応じて、様々な形態で楽しみながら美術作品に対する興味関心を高められるツールとなっている。

アートカード貸出開始前の平成26年度から教員研修等



で実演や紹介をし、図工・美術科教員の研究授業や実践発表の題材として扱われることもあり、学校現場への認知が浸透して利用数が年々増加している。

	アートカード貸出 団体名	人数
1	河津町立西小学校	10
2	静岡女子高等学校	53
3	御殿場市立原里小学校	90
4	島田市立島田第一中学校	105
5	静岡市立長田東小学校	150
6	静岡県立静岡北高等学校	215
7	静岡市立清水第三中学校	335
合計人数		958
団体数		7

講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催した。

■特別講演会

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
4月12日	きたれ、バウハウス展 講演会「試験に出ないバウハウス」	杉田佳穂氏（ミサワバウハウスコレクション学芸員、展覧会監修者）	講堂	中止
4月29日	きたれ、バウハウス展 講演会「バウハウスのモホイ＝ナジ：構成主義の視覚芸術」	井口壽乃氏(埼玉大学人文社会科学 研究科・教授)	講堂	中止
5月10日	きたれ、バウハウス展 講演会「DRIVING BAUHAUS」	深川雅文氏(キュレーター／クリティッ ク、展覧会監修者)	講堂	中止
7月18日	みんなのミュシャ展 スペシャル対談「ふたりのミュシャー1900 年と1972年」	山田五郎氏（編集者・評論家/展覧 会公式サポーター）×木下直之（当 館館長）	講堂	中止
8月22日	みんなのミュシャ展 記念対談「『みんなのミュシャ』ができる まで」	佐藤智子氏（ミュシャ財団キュレー ター、展覧会監修者）×三谷理華 （当館学芸課長）	講堂	40 人
10月30日 ～ 11月 8 日	富野由悠季の世界展 清水銀行Presents記念トークイベント「富 野由悠季×藤津亮太 静岡に語る」	富野由悠季氏（アニメーション監督） 聴き手 藤津亮太氏（アニメ評論家）	web配信	
12月 6 日	パラレル・ヒストリーズ展 対談「静岡のアートシーンについて」	白井嘉尚氏（美術家）×丹羽勝次氏 （美術家）	講堂	80 人

美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、展覧会に関わった外部講師、当館館長および学芸員による講座を開催した。

■美術講座

開催日	演題・内容	講 師	場所	参加者数
5月3日	きたれ、バウハウス展 小学生のための展覧会ツアー	川谷承子（当館上席学芸員） 普及スタッフ	展示室・講座室	中止
5月5日	きたれ、バウハウス展 子どもとファミリーのための展覧会ツアー	川谷承子、普及スタッフ	展示室	中止
5月24日	きたれ、バウハウス展 館長美術講座「バウハウスが建築の世界にもたらしたもの」	木下直之（当館館長）	講座室	中止
6月21日	美の競演—静岡県美名品展 館長美術講座「江戸にゾウを見に行こう」	木下直之	講堂	57 人
8月16日	みんなのミュシャ展 館長美術講座「ミュシャの飛来—明治のふたつの戦争の間へ」	木下直之	講堂	55 人
10月20日	めぐりアート静岡2020 アーティストトーク	臼井良平氏（出品作家）	エントランス ホール	20 人
10月25日	富野由悠季の世界展 館長美術講座「ロボットの話」	木下直之	講座室	30 人
10月31日	移動美術展（沼津） 館長美術講座「栗原忠二と山口源、ふたりの生きた時代」	木下直之	沼津市民文化 センター 大会議室	40 人
12月20日	パラレル・ヒストリーズ展 館長美術講座「現代アートの古代と中世への旅」	木下直之	講堂	58 人
2月7日	ムーミン展 館長美術講座「ムーミンとトーベ・ヤンソンと夏の家」	木下直之	講堂	116 人

■フロア・レクチャー

展示室で展覧会のみどころや代表作品について当館学芸員が解説した。

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
4月19日	企画展 きたれ、バウハウス フロアレクチャー	川谷承子（当館上席学芸員）	展示室	中止
4月25日、 5月23日	新収蔵品展 フロアレクチャー	当館学芸員	展示室	中止
6月13日、 14日、 20日、 27日、 28日	企画展 美の競演—静岡県美名品展 フロアレクチャー	当館学芸員	展示室	中止
7月12日	収蔵品展 きらめく日本画 フロアレクチャー	石上充代（当館上席学芸員）	展示室	中止
7月19日、 26日、 8月2日、 10日	収蔵品展 富士山をめぐる フロアレクチャー	浦澤倫太郎（当館主任学芸員）	展示室	中止
7月23日	企画展 みんなのミュシャ（友の会向け） フロアレクチャー	三谷理華（当館学芸課長）	講座室	6 人
7月23日、 8月8日、 15日、 29日	企画展 みんなのミュシャ フロアレクチャー	三谷理華、新田建史（当館上席学芸員）	講座室	75 人
8月15日	企画展 みんなのミュシャ 特別解説会	三谷理華	講堂	155 人
8月30日	収蔵品展 激突！東西の狩野派 フロアレクチャー	野田麻美（当館上席学芸員）	展示室	中止
10月11日、 18日	企画展 富野由悠季の世界 フロアレクチャー	村上敬（当館上席学芸員）	講座室	54 人
10月22日 （2回）、 24日 （2回）	移動美術展（沼津市） フロアレクチャー	浦澤倫太郎	沼津市民 文化センター	76 人
11月29日、 1月24日	収蔵品展 耳をすませて フロアレクチャー	南美幸（当館上席学芸員）	講座室	11月29日 6人 1月24日 中止
12月12日、 1月2日	企画展 パラレル・ヒストリーズ フロアレクチャー	植松篤（当館上席学芸員）	講座室	42 人
1月31日	企画展 ムーミン展（スライドトーク）	浦澤倫太郎	展示室	中止
2月28日、 3月13日	収蔵品展 日本戦後美術の挑戦 フロアレクチャー	植松篤	講座室	11人

対外活動

■講座

石上充代：静岡県立こども病院院内学級（静岡県立中央特別支援学校）合同図工・美術講師【オンライン授業】 11月24日
東海大学博物館実習【静岡県立美術館】 12月6日
出張美術講座【静岡県立天竜特別支援学校】 2月17日

西島幸代：出張美術講座

【富士市立鷹岡中学校】 10月2日
【静岡英和女学院】 3月16日

浦澤倫太郎：出張美術講座

【静岡大学】「地域の人と文字」12月14日、21日

■友の会事業

石上充代：友の会旅行（京都）事前勉強会 11月26日

■静岡県博物館協会

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のもとに以下の事業を行った。

1 役員会・総会のオンライン開催

令和2年5月19日（水）～28日（木）

2 研修会・講習会の実施

シンポジウム「これからのミュージアムを考えよう」
日時：令和2年11月3日（火祝） 13:00～16:00

※公式YouTubeチャンネル上で期間限定配信

内容：「ミュージアム冬の時代」と言われて久しい中、昨今はそれに加えて「観光立国」、そして「文化の振興を、観光の振興と地域の活性化」につなげるという国家戦略に突き上げられ、「稼げないミュージアムに存在意義はあるのか？」と問われている。そこに更に加えてこのコロナ禍で、ミュージアムも「新しい生活様式」の下でウィズコロナ時代を生き延びなければならない事態を迎えてしまった。本シンポジウムは、これまでのミュージアムと文化財保護の来し方を振り返りながら、今後の行く末を生き抜くための方策を見定める一助となることを願って開催した。ウィズコロナの時代に対応するため、これまでのアナログな手法を見直し、デジタルによる発信を試み、協会の加盟館職員だけでなく、どなたでもご覧頂くことが出来るようにした。

また、ライブ配信の基調講演中に、視聴者の皆様からの質問をチャット機能により受け付け、それらの一部をパネルディスカッションで紹介し、パネリストがお答えすることとした。

司会：椿原靖弘氏（フェルケール博物館学芸部長）

「文化財保護と博物館 ―近現代の京都を事例として―

講師：森道彦氏（京都国立博物館研究員）

「学芸員と所有者・制度・専門家―京都府下の事例から―

講師：中野慎之氏（文化庁文化財第一課絵画部門 文部科学技官・前京都府教育委員会文化財保護課）

「博物館と美術館、それぞれの文化財保護」

講師：木下直之（静岡県博物館協会会長・静岡県立美術館館長）

パネルディスカッション「これからのミュージアムを考えよう」

座長：川口幸也氏（前立教大学文学部学芸員課程教授）

パネリスト：木下直之氏・森道彦氏・中野慎之氏

協力：NOKIOO

3 地域セミナーの開催

・ベルナル・ビュフェ美術館「おうちでミュージアム」6月1日（月）～8月31日（月）

・佐野美術館「消しゴムはんこでカスタムデザインのタンブラーをつくろう」令和3年1月30日（土）（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

・掛川市二の丸美術館「掛川物語―掛川文化の原点―松ヶ岡・山崎家ゆかりの遺品展 関連講座」令和3年2月27日（土）（コロナ禍によりオンライン配信）

・静岡市立登呂博物館「登呂歴史リレー講演会「水を治める者たち―水がつながる静岡の歴史―」10月11日（日）他、全4回

・ふじのくに地球環境史ミュージアム「透明標本をみる 2020 特別編」12月19日（土）～1月11日（月祝）の期間に計4回

4 静岡県博物館協会研究紀要 第44号の刊行

5 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営、リニューアル

6 防災事業の実施

・加盟館目録等データバックアップ事業：2015（平成27）年3月から継続

・災害時連絡網稼働

・防災用資材配備

7 広報及び情報交換

随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。

8 事業推進グループによる事業の推進

- ・事業推進グループ会合 4回開催
10月12日（月）、11月3日（火祝）

■その他

三谷理華：ジャポニズム学会理事

ふじのくに芸術祭2020企画委員、美術部門美術展審査員

新田建史：愛知県立芸術大学非常勤講師

村上敬：静岡市立芹沢銈介美術館協議会委員

川谷承子：静岡大学地域創造学環「地域創造演習Ⅰ・Ⅱ
B・ⅢB」授業講義

川谷承子、植松篤：展覧会「めぐりアート静岡2020」
への協力（主催：静岡県立美術館、
静岡市美術館、静岡市、運営：公益
財団法人静岡市文化振興財団）

泰井良：一般財団法人地域創造公立美術館活性化事業企
画検討委員

全国美術館会議地域美術研究部会幹事

一般社団法人浜松市創造都市協議会理事

石上充代：浜松市美術館美術資料審査会審査員

西島幸代：静岡県高等学校文化連盟特別支援学校専門部
美術研修会講師
静岡県消防設備協会防火ポスター審査会

美術館ボランティア・広報サポーター

■美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985（昭和60）年から募集と研修を始め、1986（昭和61）年4月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と観覧者との懸け橋となるべく活動を続けている。2009年（平成21）年には組織改革と再募集を行い（「静岡県立美術館年報 平成21年度」p.82～84を参照）、2010（平成22）年4月からは、3年の任期制を導入したうえで新体制により再始動した。

令和2年度は、平成31年度から始まる任期の2年目に当たり、計132名が登録されていた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月よりボランティア活動は休止となった。6月より一部の活動が再開されたが、学校グループ、ギャラリーツアーグループ、タッチツアーグループの活動は休止したままとなった。

活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ架け橋として活動する。そのために次の3つを活動方針として定めている。

- （1）来館者サービス充実
- （2）美術館運営支援
- （3）地域連携推進

活動内容、グループ

（1）全ボランティア共通の活動

当館ボランティアは、それぞれが属する地域、家庭、職場などにおいて、当館の情報を提供することにより、美術館の広報活動の一翼を担うとともに、美術館と地域とを結びつける役割を果たしている。この活動を促進するために、当館では、企画展ごとにその内容を、いち早く知ってもらうためのボランティア向け内覧会を開催している。これは原則として各会期の最初の休館日に、担当学芸員が展覧会概要や作品解説を行うものである。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部の内覧会が中止となった。

（2）各グループの活動

現在7つのグループに分かれて活動している。図書閲覧室グループのみ、他グループとの兼任を可としている。

①図書閲覧室グループ 47名

図書閲覧室御受付が主な活動。閲覧室において利用者の請求に応じて閉架図書の出納業務を行う。また、開催中の企画展に合わせて、関連図書コーナーを閲覧

室内に設置している。

②学校グループ 26名

学校などの団体観覧の際、館内誘導や展示室での子どもたち話し相手などを行う。子どもたちと一緒に展示室をまわり、一緒に観覧することで、子どもたちの見る力を引き出す。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動休止

③実技室グループ 16名

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技室イベントは、絵画のワークショップや粘土開放日など多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、イベント終了後の清掃作業等、労務が多い。そのため、ボランティアのマンパワーが大変有益となっている。

④ギャラリーツアーグループ 13名

展示室において一般来館者と対話しながら作品を鑑賞する。解説形式は当館学芸員の行うフロアレクチャーなど様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティアと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく形式を採用。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動休止

⑤タッチツアーグループ 9名

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチツアー」のガイド役を行う。身体障がい者対応や彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチツアー」の申込みがあった場合に、参集して活動する。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動休止

⑥資料整理グループ 37名

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。全国の美術館、博物館などから送付されるポスター・チラシを整理、掲示し、一般来館者へ情報提供を行う。また作家からの個展のダイレクトメールなどを分類の上、専用のキャビネットに保管するとともに、データベース化を行うことにより、貴重なアーカイブを形成し、学芸員の研究活動にも利用されている。これらは膨大な時間と手間のかかる作業であり、ボランティアの力が大いに発揮されている。

⑦地域連携・草薙ツアーグループ 6名

「地域と美術館を結ぶ」ことを目的として、様々な

活動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術館プロムナードにある「杉山彦三郎記念茶畑」の手入れの補助を行う。またその茶葉を活用して、お茶摘みイベントや、来館者への呈茶サービスなども行う。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため茶畑管理を除き活動休止

・規約、ルール

館が定めた「設置要綱」「活動要綱」「活動基本ルール」に基づいて活動している。報酬、旅費、などの支給はない。ただしボランティア保険については美術館が負担している。ボランティアの自己研修と広報活動のために、展覧会は無料で観覧することができる。また企画展ごとに休館日を利用してボランティアを対象とする内覧会を実施している。

・組織

グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティアを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身による自主的な組織化は行っておらず、ボランティア会長や代表などは置いていない。

・活動頻度

基本的に一人が月2回以上活動することとし（募集基準）、実際はグループごとに頻度や時間を定めている。

・募集、登録、活動期間

より多くの方がボランティアに参加できるようにするため、原則として3年ごとに美術館ボランティアの募集を行う。ただし、美術館ボランティア募集に係る人数、期間、活動内容、資格その他の基準は、その都度美術館が定め、募集要項に記載する。

■ 広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度から「地域サポーター」と改称し活動を行ってきたが、平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに伴い、サポーター制度についても見直しを行った。その結果、従来の「地域サポーター」を平成21年度末に一旦解散し、「口コミによる広報活動」をサポーターの主たる役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報サポーター」とし、新たに募集を行った。（令和2年度末時点「広報サポーター」登録者数41名）

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解

いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

また、同サポーターは、広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくことを目的に、当館ボランティア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとしている。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部の展覧会内覧会が中止となった。

友の会活動

■諸会議

・理事会・評議員会

日時：令和2年5月28日（木）

場所：当館講座室

- （１）役員の改選について
- （２）令和2年度事業報告、決算報告
- （３）令和3年度事業計画案、予算案
- （４）その他

新型コロナウイルス感染症拡大のため書面表決とし、
結果確認のため代表者による会議

・文化政策課と友の会との意見交換会

日時：令和2年7月22日（水）

場所：当館講座室

- （１）友の会活動状況について
- （２）県の文化政策について

・会長・副会長への事業報告会

日時：令和2年10月20日（火）

場所：当館会議室

- （１）事業中間報告

日時：令和3年3月30日（火）

場所：当館会議室

- （１）事業報告
- （２）令和3年度事業について
- （３）美術館改修工事の影響
- （４）その他

・事業委員会

場所：当館講座室等 11回開催

・会報委員会

場所：当館会議室等 12回開催

■実技講座

・実技講座「ボールペン画講座」

日時：令和2年11月15日（日）、23日（月・祝）、28日（土）3日間

場所：当館実技室

講師：澁谷たかし氏（ボールペン画家）

参加人数：14名

・実技講座「鮮やかな水干絵具で自画像を描こう」

日時：令和3年1月9日（土）、10日（日）、11日（月・祝）

場所：当館実技室

講師：田宮話子氏（日本画家）

参加者数：12名

■講演会（イベント）等の開催

・企画展ごと会員向けレクチャー

- （１）「開校100年 きたれ、バウハウス」

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

- （２）「みんなのミュシャ」

日時：令和2年7月23日（木・祝）

参加者数：6名

- （３）「富野由悠季の世界」

日時：令和2年10月11日（日）

参加者数：13名

- （４）「パラレル・ヒストリーズ」

日時：令和2年12月12日（土）

参加者数：14名

- （５）「ムーミン展」

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

・木下直之館長講座

「遠州横須賀で江戸の祭りを考える」

- （１）レクチャー１：「祈りと飾り」

日時：令和3年1月23日（土）

場所：当館講座室

- （２）レクチャー２：「江戸の祭り」

日時：令和3年2月23日（火・祝）

場所：当館講座室

- （３）現地見学「遠州横須賀三熊野神社大祭」

日時：令和3年4月3日（土）

新型コロナウイルス感染症拡大のため全ての講座を来年度へ延期

・「友の会ひろば」

新型コロナ感染対策を施したうえで開催

- （１）消しゴムスタンプづくり・万華鏡づくり

日時：令和2年11月3日（火・祝）

場所：当館正面広場

参加者数：消しゴムスタンプ32名、万華鏡35名
常葉大学造形学部の協力 学生9名参加

- （２）その他

県内作家によるワークショップ・にが絵・作品展示

参加者数：約70名

■研修旅行

・館長講座「伊豆仏教美術日帰り見学旅行」

日時：令和2年11月21日（土）日帰り旅行

参加者数：15名

・「京都市京セラ美術館・福田美術館へ」

日時：令和2年12月3日（木）～4日（金）1泊2日

参加者数：22名

- ・無人駅の芸術祭・大井川

令和3年3月5日（金）～28日（日）まで開催

開催要項が遅かったため見学を中止し案内のみ配布

■友の会美術館支援事業

- ・各種実技支援事業

■情報資料の作成と提供

- ・友の会だより「プロムナード」発行（各1000部）
 - （1）第101号（4月15日発行）アトリエ訪問 美術作家・岩田駿一氏
 - （2）第102号（12月15日発行）アトリエ訪問 水彩画家・小川貴士氏
- ・情報の提供
 - （1）美術館ニュース「アマリリス」郵送（年4回）
 - （2）各種催事の情報提供
 - （3）美術館内掲示板の有効活用
 - （4）友の会ホームページ
 - ①会員の投稿掲載

■キッズアートプロジェクトしずおか支援

- ・静岡県内の小学生を対象に配布する「ミュージアムサポート」の作製や事業活動へ協賛

■その他の事業

- ・会員勧誘キャンペーン
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- ・提携等県内美術館との連携
 - （1）提携美術館（静岡市美術館、掛川市二の丸美術館）を始めとする県内美術館（静岡市立芹沢銈介美術館）が開催する企画展チラシを会員に配布するとともに、招待状10組を抽選により会員に提供。

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年 5 月25日
改正 平成14年 6 月16日
改正 平成20年 2 月27日
改正 平成24年 2 月28日
改正 平成27年 4 月 1 日
改正 平成29年 4 月 1 日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館に置く。

(目的)

第3条 本会は、以下を目的として活動する。

- (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら生活の質を高める。
- (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振興に貢献する。
- (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地域社会との架け橋の役割を担い、地域をパートナーとする経営を標榜する県立美術館との協働を行う。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を実施する。

- (1) 展覧会鑑賞プログラム
- (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会等の開催・後援
- (3) 会員への各種情報提供
- (4) 会員相互交流のためのプログラム
- (5) 静岡県立美術館との事業協働
- (6) 地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
- (7) その他必要な事業

(財務)

第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、親子(キッズ)会員、学生会員、シニア会員、及び賛助会員とする。

(1) 70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、シニア会員を選択することができる。

(2) 高校生・専門学校生・大学生は、学生会員とする。

(3) 会員資格の有効期限中における会員種別の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手続きを行って会費を納入した者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員から退会の申し出が無い限り更に1年間延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は、理由の如何を問わず返還しないものとする。

2 各種講座、見学会等に際しては、参加者は必要に応じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落とし用口座等の届出事項に変更があった場合は、速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行うこととする。

(会員証)

第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

2 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速やかに事務局にとどけるものとする。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期限の2ヶ月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、その事業年度の開始前に理事会の承認を得なければならない。

- 2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しようとするときは、理事会の承認を得なければならない。ただし、軽微な変更については、この限りではない。

(事業報告及び収支決算)

第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を得なければならない。

(役員)

第16条 本会に、次の役員を置く。

- | | |
|--------------------|-------|
| (1) 会長 | 1人 |
| (2) 副会長 | 1人 |
| (3) 理事(会長及び副会長を含む) | 10人以内 |
| (4) 評議員 | 15人以内 |
| (5) 監事 | 2人 |

- 2 理事及び監事は、評議員会において選任する。
- 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
- 4 評議員は、理事会において選任する。
- 5 理事及び評議員は、監事を相互に兼ねることができる。

(役員の職務)

第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
- 4 評議員は、評議員会を構成する。
- 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。

(役員の任期)

第18条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(専門委員会)

第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画等の検討を目的とした専門委員会を置く。

- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。

(事務局)

第20条 本会に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
- 4 事務局に事務職員を置く。

(顧問)

第21条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、理事会に出席して意見を述べることができる。
- 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。

第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって構成する。

- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。

(会議の権能)

第24条 理事会は、この会則に別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。

- 2 評議員会は、この会則に別に定めるもののほか、会長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に建議することができる。
- 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

(会議の開催)

第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。
- 2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。
 - (1) 会長が必要と認めたとき。
 - (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があったとき。

(会議の定足数)

第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。

(会議の議長)

第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員のうちから選任する。

(会議の議決)

第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(書面の決議等)

第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもつ

て表決することができる。この場合において、
前2条及び次条第1項第3号規定の適用につい
ては、出席した者とみなす。

第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議
事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時及び場所
- (2) 構成員の現在数
- (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
- (4) 議決事項
- (5) 議決の経過の概要及びその結果
- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員
のうちから、当該会議において選任された議事録
署名人2人以上が署名押印しなければならない。

(賛助会員)

第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員にな
ることができる。

2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、
理事会の議決を経て別に定める。

(会則の変更)

第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の
3以上の同意を得なければ、変更することがで
きない。

(解散)

第33条 この会は、理事会において理事の4分の3以上
の同意を得たときに解散する。

2 解散のときに残存する残余財産は、理事会の議決
によりその用途を定めるものとする。

(雑則)

第34条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関
して必要な事項は、理事会の議決を経て別に定
める。

附 則

この会則は、昭和61年5月25日より効力を生ずる。

附 則

この変更は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

1 この変更は、平成20年2月27日から施行する。

2 この変更後の役員は、第16条第2項、第3項及び4
項の規定にかかわらず、変更前の役員が選任される
ものとする。ただし、その任期は、第18条の規定に
にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この変更は、平成24年2月28日から施行する。

附 則

この変更は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この変更は、平成29年4月1日から施行する。

別表1 (第6条第2項関係) 会員の特典

特典の種類	会員の種類				
	一般会員	親子 (キッズ会員)	シニア会員	特別会員	学生会員
1 県立美術館主催の企画展招待券	5枚	5枚	5枚	5枚	2枚
2 企画展ごと招待券	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚
3 会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○
4 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○	○	○	○ (同伴4名まで)	○
5 友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリリス」(年4回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○	○	○
6 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等、企画展ごとのフロアレチャー、友の会主催の事業に参加可能	○	○	○	○ (同伴1名まで)	○
7 会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」・カフェ「ロダン」の飲料料金が会員本人のみ1割引	○	○	○	○	○
8 会員証提示により、県立美術館内のミュージアムショップの利用補助	○	○	○	○	○
9 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待				○ (同伴1名まで)	

(注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係) 年会費

会 員 区 分	年 会 費
一般会員	(1名) 5,000円
親子(キッズ会員)	(1名) 3,000円
シニア会員(70才以上)	(1名) 2,500円
学生(高校生・専門学校生・大学生)	(1名) 1,000円
特別会員	(1口) 10,000円
賛助会員	(1口) 50,000円

めぐりアート静岡2020

会期：令和2年10月20日（火）～11月8日（日）

＊ヒロバのみ10月17日（土）～11月8日（日）

主催：静岡県立美術館、静岡市美術館、静岡市

運営：公益財団法人静岡市文化振興財団

企画：白井嘉尚（美術家・静岡大学名誉教授）

堀切正人（常葉大学准教授）

川谷承子（静岡県立美術館上席学芸員）

植松篤（静岡県立美術館上席学芸員）

以倉新（静岡市美術館学芸課長）

軍司しずか（静岡市美術館学芸員）

柚木康裕（オルタナティブスペース・スノドカフェ
代表）

事務局：池田博史、長谷川皓大（公益財団法人静岡市文化振興財団）

会場 | 出展作家

東静岡アート&スポーツ／ヒロバ |

石上和弘／岩野勝人／千葉広一／日詰明男／福井揚／

占部史人／きむらとしろうじんじん／アオキ裕キ

静岡県立美術館 | 臼井良平

静岡市美術館 | ワタリドリ計画

■概要

本事業は、静岡大学を中心に平成25年度～27年度に実施した「めぐりアート静岡」の後継事業として、平成28年より静岡市と静岡市文化振興財団を主催者に加え、各組織の連携により実施している展覧会を中心とする事業である（同財団は令和元年より運営として参加）。通算8回目を迎えた今回が最終回となった。前回と比べ、会場数は1カ所減り3会場となったが、作家数はプレ事業を含めると2作家増えて10作家となった。

静岡にゆかりのある作家を中心に紹介することが本事業の特徴の一つで、静岡県立美術館では毎回静岡ゆかりの若手アーティストを取り上げてきた。今年度は藤枝市出身の美術家、臼井良平を取り上げ、作品10点を名品コーナー、エントランスホール、階段の踊り場に設置した。名品コーナーには、臼井が制作したガラス製のペットボトルと、バウハウスのデザインを象徴するマルト・スタム（1899－1986）による鋼管パイプの椅子を組み合わせる展示が行われた。臼井自身の美術館での鑑賞体験を発想源に持つこの作品は、異質な素材同士が、鮮やかな対比を見せた。エントランスホールや階段の踊り場には、見知らぬ誰かが路上に放置したペットボトルとそれが置かれている状況を撮影した写真シリーズ「Forgotten Liquid」5点が展示され、美術館の中に外の空間との風穴を開けるような効果を生み出した。

また、前回よりパフォーミングアーツも本事業に加わっており、9月27日には東静岡アート&スポーツ／ヒロバにて、前回に引き続き陶芸家・美術家のきむらとしろうじんじんによる「野点」がプレ事業として催された。会期中には、各会場で出展作家によるアーティストトークが行われ、そのほかワークショップ、公開制作、ダンスパフォーマンス、映画上映などが実施された。

■関連事業（当館学芸員が担当した事業のみ記載）

7月25日（土）、26日（日）各日10：00～16：30

きむらとしろうじんじんと行くお散歩会

9月27日（日）12：00頃～日暮れ頃

きむらとしろうじんじん 野点

10月20日（火）15：30～16：10

臼井良平アーティストトーク

■チラシ

仕様：A4 6頁

デザイン：望月一弘（ジッカデザイン）

印刷：松本印刷株式会社

■記録集

編集：白井嘉尚（美術家・静岡大学名誉教授）

堀切正人（常葉大学准教授）

川谷承子（静岡県立美術館上席学芸員）

植松篤（静岡県立美術館上席学芸員）

以倉新（静岡市美術館学芸課長）

軍司しずか（静岡市美術館学芸員）

柚木康裕（オルタナティブスペース・スノドカフェ
代表）

発行：公益財団法人静岡市文化振興財団

執筆：編集者と同じ

制作：公益財団法人静岡市文化振興財団

デザイン：望月一弘（ジッカデザイン）

印刷：松本印刷株式会社

仕様：A4判 52頁

目次：

05 ごあいさつ

06～45 作家紹介

46、47 関連イベント

46、47 アーティストトーク

48 来場者の声

49 成果と課題

50 作品リスト

51 事業一覧・会場案内

めぐるりアート静岡 2020 プレ事業

陶芸家・美術家

きむらとしろうじんじんと行く お散歩会

今年も登場！
「野点」の実施に向けて、
静岡のまちをお散歩します。

第1回 7/25 (土) 10:00~16:30
第2回 7/26 (日) 10:00~16:30

※一日だけの参加、途中参加、途中退出 OK ※雨天決行

集合場所：グランシップ 2F 映像ホール

要申込
参加費無料
定員：各日30名
(先着順)
募集要項

祝・お散歩会開催！！
現在の状況で場を共にすることに不安を感じておられる方も多いと思いますが、みなさんに、ぜひぜひ来ていただきたいなあ、と思っています。
不安な点も、疑問点も隠さず話しながら、相談・工夫しながら、秋の野点実現を目指したい。
コロナウィルス禍であっても(そうでなくても)出会い、場を・作業を共にできることを重ねる……そんな「野点」をこれまでも目指してきました。
これからも、今年のめぐるりアートでの現場も、そうあれかしと願っています。
久しぶりにみなさんに会えることを心から楽しみにしています。
まずは会って、散歩して、相談しましょう！
ではでは、東静岡でお待ちしてま〜す！！

2020年7月 きむらとしろうじんじん

※変更の可能性がありますので、事前にめぐるりアート静岡のホームページ、もしくは静岡県立美術館担当までお問い合わせください。
主催：静岡県立美術館、静岡市美術館、静岡市 運営：(公財)静岡市文化振興財団 <https://megururinet/>

ON STAGE SHIZUOKA

▲チラシ

「めぐるりアート静岡」は、今年で8回目を迎える、今を生きるアートを紹介する展覧会です。昨年は、陶芸家・美術家のきむらとしろうじんじんをお呼びして、参加者と一緒にまちをお散歩、実施場所を選び、小浜神社(静岡市東区紺屋町)にて「野点」を開催しました。じんじんの野点は、一般的な茶道の野点とは違って、リヤカーに陶芸家やお抹茶のセットを積み、お茶碗を焼いたりお茶を飲んだりできる移動式カフェです。今年は、「めぐるりアート静岡」の会場の一つである東静岡アート&スポーツ / ヒロバで、「野点」を実施します。お散歩会では、初めに「野点」についてのお話をした後、「野点」を作り上げる。周囲の環境や地域の魅力を発見するため、実施場所とその周辺をお散歩します。どんな「野点」になるか、一緒に思いを巡らせてみましょう。お話だけの参加やお散歩だけの参加、1日だけの参加でも大歓迎！あわせて野点本番のサポートスタッフも募集します。

第1回 7月25日(土)10:00~16:30
第2回 7月26日(日)10:00~16:30

※一日だけの参加、途中参加、途中退出 OK ※雨天決行

集合場所：グランシップ 2F 映像ホール(駿河区東静岡2-3-1)
対 象：どなたでも 参加費：無料
申 込：WEB <https://megururinet/>よりお申し込みください。
電話 054-263-5857(静岡県立美術館)担当：松松

※アルコール消毒、症状発現の確保等、新型コロナウイルス感染防止策を実施します。参加希望の方は、下記をお願いをご確認の上、お申し込みください。

当日の流れ

- 午前 野点の説明会&ミーティング
～休憩・各自昼食～
- 午後 お散歩 その後、集合場所に集り、振り返りやミーティング

・体調をご確認の上、マスクを着用し、ご来場ください。
新型コロナウイルス
・下記に当てはまる方は、参加を控えていただきますようお願いいたします。
感染症拡大防止のためお願い
○ 発熱が認められる場合(発熱・咳・咽頭痛・嗅覚障害等の症状がある方)
○ 体調が優れない場合(例：咳、咽頭痛、嗅覚障害等の症状がある方)
○ 家族や同僚、学校など身近に新型コロナウイルス感染症患者もしくは感染の可能性のある方がいらっしゃる方

持ち物：天候の変化や気温が高くなる場合に備えて、帽子や上着、タオル、お飲み物、虫除けを持参ください。
昼 食：各自でお楽しみいたします。説明会会場で飲食していただくこともできます。ゴミはお持ち帰りください。
当日の連絡は、当日連絡先(050-5361-6257)までお問い合わせください。当日以外下記お問い合わせ先にご連絡ください。

講師：きむらとしろうじんじん(陶芸家・美術家)
1967年新潟県生まれ。京都市立芸術大学大学院で陶芸を学ぶ。
1995年から、パフォーマンズ / 舞台としての「野点」を始める。
これまでに国内外で「野点」を350ヶ所以上で開催している。

野点本番は9月27日(日) サポートスタッフ大募集！※小学生以下は保護者同伴
老若男女大歓迎！事前の説明やリハーサルがあるので、野点や陶芸の初心者の方でも大丈夫。
当日は、お茶碗作りやお客さんの対応などのお手伝いをお願いいたします。
募集については、お散歩会当日のほか、めぐるりアート静岡のホームページでも受け付けます。
申込みについてのお問い合わせは、静岡県立美術館までお願いします。

問い合わせ先 静岡県立美術館
イベント内容については、静岡県立美術館にお問い合わせください。
〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
Tel:054-263-5857(担当：松松)
開館時間：10:00~17:30 休館日：月曜日
<http://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/>

集合場所 グランシップ
(静岡市駿河区東静岡2-3-1)
〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1
Tel:054-203-5710(代電)
開館時間：9:00~22:00
<https://www.granship.or.jp/>
JR東静岡駅から徒歩約10分
静岡鉄道東静岡駅から徒歩約7分
駐車場台数：3400台※無料
観覧料金：12000円※無料

▲チラシ



白井良平《Nakameguro》2017(Forgotten Liquidシリーズより)



白井良平《Chair》2020

広報活動（ホームページを含む）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、各メディアを通じた広報活動を行っており、平成8年度からは公式ホームページを開設している。更に近年ではSNSを用いて、時代の潮流に合わせた効果的な情報発信を模索している。

ここでは、ポスター・チラシなど主要な広報活動とともに、ホームページの運営やSNSの活用について記載する。

■主要な広報活動

- ・ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り（JR掲示専用のポスターを展覧会ごとに製作）
- ・ホームページへの情報掲載
- ・展覧会ごとにプレスリリースを作成し、各メディアへ提供するとともにウェブサイトに掲載
- ・展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・広告掲載、テレビスポット放映
- ・特集紙面、番組への協力
- ・ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hiほか）
- ・ボランティア向け内覧会の実施
- ・広報サポーターへの情報提供（ポスター・チラシを送付し、口コミでの広報を依頼）
- ・学校に対する学校関係イベント情報の提供

■広報委員会

これまで、総務課、学芸課、文化政策課の各担当者を中心とした会議を不定期に館内で開催し、主にアマリリスの編集などを担当してきた。平成29年度に活動内容を大幅に見直し、より戦略的に広報活動を行う方針となった。

現在は、アマリリスの編集に加え、各展覧会の広報サポート、次年度年間スケジュールの制作を行っている。

平成30年度にチラシ等広報物の送付先リストを改定したが、一部に不備がみられたため、令和元年度に新たに見直しをかけ、より精度の高いものを作成した。

■ホームページ

<http://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

当館ホームページは、平成8年度末に開設された。平成28年度までの累計アクセス数は4,078,414件であった。平成28年度末のホームページリニューアルに伴い、アクセス数の集計方法も変更となり、現在はGoogle Analyticsを使用している。今年度はアクセス数が前年に比して大幅に増加したが、コロナ禍によるインターネットの利用

機会の増大や、入館者数の多い展覧会が続いたことが背景にあると思われる。1年間の結果は以下の通りである。

令和2年4月1日～令和3年3月31日の実績

ユーザー	402,991
セッション	622,591
ページビュー数	1,460,987

（参考）

平成31年4月1日～令和2年3月31日の実績

ユーザー	270,865
セッション	99,026
ページビュー数	1,085,837

平成30年度

ユーザー	215,433
セッション	330,339
ページビュー数	950,461

・リニューアル

平成28年度、適切なスマートフォン表示への対応を主目的としたウェブサイトのリニューアルを行い、平成29年3月30日に新ウェブサイトを公開した。平成29年度末には館蔵品データベースの公開も実現した。

・ホームページアンケート

ホームページ改善の資料とするため、ホームページ上でのアンケートを実施している。回答は専用のメールフォームで行う。ウェブサイトリニューアル後、回答数が大幅に減少している。

■ブログ

<http://blog.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/official/>
「静岡県立美術館ブログ ぶらりプロムナード」を平成23年より公開している。近年は実技室プログラムの活動報告が主な掲載内容である。

■SNS

現在、下記3種のSNSを運用している。展示作品の紹介やワークショップの記事を随時掲載。更新は総務課担当職員を中心に行っている。

・Facebook

<https://www.facebook.com/shizuokakenbi/>
平成26年7月導入。

- Instagram

<https://www.instagram.com/shizuokakenbi/>

平成28年度「蜷川実花」展より導入。

- Twitter

<https://twitter.com/shizuokakenbi>

平成29年度「アートのなぞなぞ」展会期途中より導入。

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4判8頁、オールカラー

第137（春）号 2020年4月1日発行

- p. 1 表紙 中村宏《総銅製機甲本イカルス》／主任学芸員 植松篤
- p. 2 TOPICS 追悼五代目館長芳賀徹先生／館長 木下直之
- p. 3 新収蔵品紹介「令和元年度 新収蔵品・寄贈作品の紹介」／各ジャンル担当者
- p. 4 EXHIBITION「東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 美の競演—静岡県美名品展」／上席学芸員 南美幸
- p. 5 EXHIBITION「東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 収蔵品展 日本画コレクション 特集展示」／上席学芸員 野田麻美
- p. 6－7 研究ノート カミュー・クロードル《自然に基づくクロッキー》に関する一考察／上席学芸員 南美幸
- p. 7 本の窓『ニルスのふしぎな旅（上・下）』／セルマ・ラーゲルレーヴ作、菱木晃子訳 福音館書店、2007年／上席学芸員 石上充代
- p. 8 美術館問わず語り 作る楽しさを共有できる場所／エデュケーショナルスタッフ 馬場夢乃

第138（夏）号 2020年7月1日発行

- p. 1 表紙 イスラエル・シルヴェストル《古今のローマの景観》より「パラティーノの丘の皇帝宮殿」／上席学芸員 南美幸
- p. 2 TOPICS きたれ、バウハウス展にきたれ—コロナ禍と美術館館長／館長 木下直之

- p. 3 TOPICS ミュージアム・サスティナビリティへの想い／深川雅文
- EXHIBITION「みんなのミュシャミュシャからマンガへ—線の魔術」／学芸課長 三谷理華
- p. 5 EXHIBITION「富野由悠季の世界」／上席学芸員 村上敬
- p. 6－7 研究ノート 飯田昭二の《Half and Half》について 1960年代の日本の美術の動向との関わりから／上席学芸員 川谷承子
- p. 7 本の窓『私の中の自由な美術 鑑賞教育で育む力』上野行一著、光村図書出版、2011年／主査 西島幸代
- p. 8 美術館問わず語り 煌めきと出会う場所／中村美穂子

第139（秋）号 2020年10月1日発行

- p. 1 表紙 曾宮一念《梨畑道》／上席学芸員 泰井良
- p. 2 TOPICS 鈴木祐一『義手足纂論』という本について／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 今、「ロダン体操」について、美術鑑賞について思うこと／美術家 高橋唐子
- p. 4 EXHIBITION 「パラレル・ヒストリーズ 現代アートの諸潮流」／上席学芸員 植松篤
- p. 5 EXHIBITION 移動美術展／主任学芸員 浦澤倫太郎
- p. 6－7 研究ノート 新出作品紹介：芸術家財団所蔵 ラファエル・コラン作《木の精》／前学芸課長 三谷理華
- p. 7 本の窓『ゴッホ〈自画像〉紀行』木下長宏



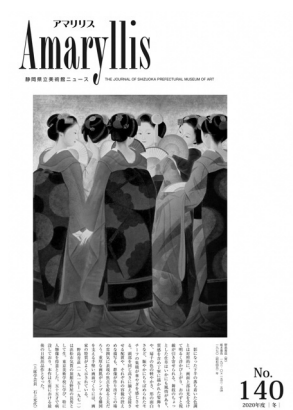
第137（春）号



第138（夏）号



第139（秋）号



第140（冬）号

- 著、中公新書、2014年／上席学芸員 泰井良
- p. 8 美術館問わず語り 博物館実習日誌／総務課 主査 金原功

第140（冬）号 2021年1月3日発行

- p. 1 表紙 野島青茲《宵》／上席学芸員 石上充代
- p. 2 TOPICS コロナ禍を転ずるー2020年の美術館／館長 木下直之
- p. 3 TOPICS 「めぐるりアート静岡」を終えて／上席学芸員 川谷承子
- p. 4 EXHIBITION 「ムーミン展THE ART AND THE STORY」／主任学芸員 浦澤倫太郎
- p. 5 EXHIBITION 「耳をすませて一音と楽器のある風景」／上席学芸員 南美幸
- p. 6－7 研究ノート 「固有工芸」をめぐって／上席学芸員 村上敬
- p. 7 本の窓 『江戸の紀行文 泰平の世の旅人たち』板坂耀子著、中央公論新社、2011年／主任学芸員 浦澤倫太郎
- p. 8 静岡での日々を振りかえって／女子美術大学特任教授／静岡県立美術館前学芸課長 三谷理華

新たな広報チャンネルの開拓

【開校100年 きたれ、バウハウスー造形教育の基礎ー】

- ・テレビ静岡の特別広報により、テレビCMによる広報を実施。

【みんなのミュシャ ミュシャからマンガへー線の魔術】

- ・Daiichi-TVの特別広報により、CMスポット、テレビ番組内告知やフィラー広告を実施。
- ・協賛に対するインセンティブ増加の一環として、顧客向け解説付鑑賞会の実施を含める工夫等により、セキスイハイム東海の協賛を得た。
- ・新静岡セノバの協力により、大型バナーの掲出や施設内キャンペーンが実施され、市街地での広報展開が実現した。
- ・展覧会限定グッズ（《ヒヤシンス姫》デザイン特製ドリンクボトル）付き前売券を販売した。
- ・中止になったちよこっと体験「ぬりえ」の台紙を配付して、SNS投稿によるプレゼントキャンペーンを実施した。

【富野由悠季の世界】

- ・静岡新聞社・静岡放送の特別広報により新聞・テレビCMによる広報を実施。
- ・版元の協力により、『ガンダムエース』誌などで展覧会情報を掲載。
- ・巡回展全体の特設サイトの他、TwitterやInstagramでも情報発信をした。
- ・静岡東宝会館での「過去のガンダム映画の上映」と協同して広報を実施した。
- ・新東名高速道路サービスエリアにあるNEOPASA静岡内の店舗「STRICT-G」（ガンダムアパレルショップ）の協力により、チラシの配架等で広報を実施した。
- ・TSUTAYA流通通り店で富野由悠季の作品の特設コーナーを設け、展覧会情報を発信した。

【パラレル・ヒストリーズ 現代アートの諸潮流】

- ・県内の公開Wifi接続者に対し、展覧会のバナー広告を表示させる取組みを初めて行った。
- ・イベント情報のポータルサイトに展覧会の情報をアップロードした。
- ・長野県・山梨県の現代アートの美術館及び静岡県内の図書館・児童館など公共施設への配布を強化した。

【ムーミン展 THE ART AND THE STORY】

- ・静岡朝日テレビの特別広報により、テレビCMやテレビ番組で広報を実施。

- ・ムーミンファンクラブに広報協力を依頼し、メールマガジンで展覧会情報を告知した。
- ・北欧系グッズを取り扱う雑貨屋や、主なターゲット層が訪れる可能性が高い県内のカフェにチラシの配架やポスターの掲示を依頼した。
- ・展覧会と親和性の高い県内図書館へ集中的に印刷物を送付した。このうち数館が館内に特設コーナーを自主的に設置し、ポスターの掲示やチラシの配架をした。
- ・会期終盤の平日夕方15時以降限定で、ポスタープレゼントキャンペーンを実施。
- ・ローソン店頭ポスターやセブンイレブンマルチコピー機に展覧会情報を掲載するなど、プレイガイドを通じた広報を活発に行った。
- ・静岡会場限定グッズ（マスクケース リトルミイ）付き前売券を販売した。

【その他】

- ・一般社団法人日本自動車連盟（JAF）と提携を結び、同法人の機関誌やホームページでの広報を行い、会員への優待サービスには617人の利用があった。

ロダン館展示・イベント

■趣旨

平成26年度、ロダン館開設20周年を一層活性化させるためのキックオフ事業として、地域や大学等と連携した「ロダンウィーク」事業を開催した。ロダン作品32体を擁し、国内唯一の常設展示を行う当館の活性化と賑わい作りを目的に「ロダンウィーク」を、例年事業として定着させることとし、第7回「ロダンウィーク」を開催した。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ロダン館でおこなわれるコンサートの座席数を減らす、例年実施している「丘の上のロダンマルシェ」の開催を中止するといった安全対策を講じたうえで開催した。

■概要

(1) 日時 令和2年10月31日(土)～11月3日(火・祝)

(2) 場所 静岡県立美術館内・正面広場付近

1. サウンドインスタレーション Hommage á

Rodin III (ロダンを讃えて)

10月31日(土)～11月3日(火・祝)

開館時間中の毎時30分から30分程度再生(コンサート上演時間等を除く)

作曲:長谷川慶岳氏(静岡大学教育学部准教授)

主催:静岡県立美術館

協力:国立大学法人静岡大学

3回目となったロダン館でのサウンドインスタレーション。今回も本企画のために静岡大学の長谷川慶岳氏により、新たに楽曲が制作された。第1作のピアノソロ曲、第2作のピアノと弦楽器のアンサンブルに続き、ピアノと電子楽器による編成となった。音響機器の位置は昨年までと同様で、15メートルほどの間隔を空けて設置されたステレオスピーカーにより再生した。

2. コンサート パリに吸い寄せられた作曲家たち～1903年製のピアノで聴く名曲たち～

11月1日(日) 14:00～

出演者:後藤友香理氏(ピアノ)(静岡大学教育学部講師)

長谷川慶岳氏(作曲)(静岡大学教育学部准教授)

演奏曲:フォーレ:《舟歌 第1番》作品26

サティ:《あなたが欲しい》

ドビュッシー:前奏曲集より《亜麻色の髪の乙女》、《沈める寺》

長谷川慶岳:《ピアノのための新作》

ほか

主催:静岡県立美術館

協力:国立大学法人静岡大学

来場者:170名

ロダンウィークに合わせ、ロダンの生涯や作品をテーマに行われるコンサートは、今回で7回目を迎えた。ロダンの生きていた時代に人々はどうのような音楽を聴いていたのかという観点のもと、1903年にパリのエラル社で製作されたピアノにより、同地で活躍していた様々な作曲家たちの作品が演奏された。演奏終了後はピアノの周りに観客が集まり写真を撮るなど注目を集めた。



▲会場の様子



▲終演後、ピアノを見学する観客

3. ロダン賞コンサート「静岡の名手たち」
 11月3日（火・祝）14：00～／ロダン館
 出演者：宮田優氏（メゾソプラノ）
 富田愛佳氏（ピアノ）
 演奏曲：R.シュトラウス：《万霊節》op.10-8
 畑中良輔：《八木重吉による五つの歌》
 木下牧子：《さびしいカシの木》 ほか
 協力：静岡音楽界AOI 指定管理者（公財）
 静岡市文化振興財団

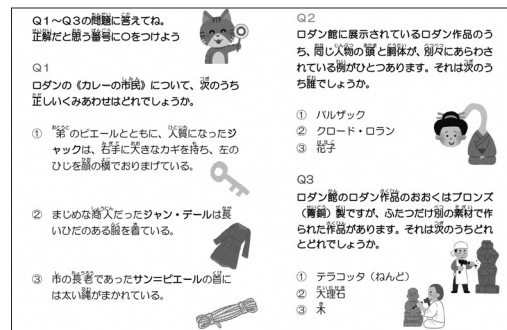
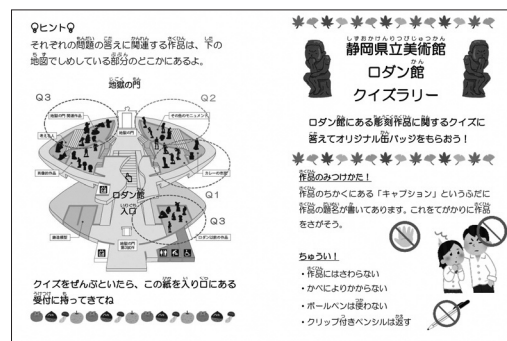
静岡音楽館AOIが毎年おこなう「静岡の名手たち」オーディション合格者の中から、静岡県立美術館・ロダン館で演奏するにふさわしい演奏家に「ロダン賞」が贈られている。ロダン館を会場に、本年は第24回「ロダン賞」受賞者による演奏会を開催した。

4. 友の会「友の会ひろば」
 11月3日（火・祝）10：00～15：00／美術館前広場
 常葉大学の学生による消しゴムはんこ・万華鏡製作指導
 参加者：67人
5. 友の会「作家のワークショップ」
 11月3日（火・祝）10：00～15：30／美術館前広場
 作家のワークショップとにが絵・おさんぽアートと変身アート
 参加者：80人

6. 丘の上のロダンマルシェ
 新型コロナウイルス感染拡大防止対策が困難なため中止

7. ロダン館クイズラリー
 日時：10月31日（土）～11月3日（火・祝）
 10月31日、11月2日は午前10時～午後3時
 11月1日、3日は午前10時～午後2時
 場所：ロダン館 受付は常設券売横に特設コーナーを設置
 参加人数：計230人
 景品：オリジナルバッジまたはマグネット

ロダンウィーク期間中に、ロダン館を会場にしたクイズラリーを実施した。企画展来場者を主な対象者としてロダン館への誘致を図り、ロダン館及び展示作品の認知度や興味を高めることを目的とした。クイズ問題、クイズラリーシート、告知看板の作成と、当日の運営は広報委員会が行った。ボランティアギャラリーツアー班にも当日の受付の手伝いを依頼し、7名のボランティアが活動した。



▲クイズラリーシート



▲チラシ

施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数
昭和61	93,918	8,005	10,000		
62	95,635	9,911	10,000		
63	112,528	10,346	14,714		
平成元	98,806	12,474	11,937		
2	101,477	11,432	8,274		
3	91,342	13,755	8,545		
4	109,287	14,442	9,499		
5	95,903	10,927	9,308		
6	108,004	12,060	9,159		
7	73,254	10,717	7,015		
8	109,076	9,487	8,621		
9	87,436	10,615	6,486	4,257	
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299
17	69,357	11,762	4,626	4,904	289
18	81,657	10,700	5,087	8,891	499
19	70,217	8,199	5,580	5,253	365
20	75,238	11,804	5,070	6,189	319
21	37,253	5,155	3,716	3,677	183
22	58,211	7,275	3,902	4,504	344
23	53,147	10,535	2,444	3,033	238
24	43,157	9,475	1,916	1,689	182
25	48,483	8,763	2,146	1,908	188
26	41,201	8,646	823	1,539	186
27	59,350	10,932	712	2,852	185
28	42,386	8,743	1,043	1,405	227
29	35,774	7,827	574	1,446	157
30	28,058	6,452	430	1,096	86
令和元	31,896	5,286	925	782	149
2	15,067	2,692	1,617	412	0
合計	2,469,493	356,470	191,237	143,236	5,429

2 年 度 月 別 内 訳	4	0	3	0	0	0
	5	0	0	0	0	0
	6	0	57	69	0	0
	7	338	215	66	36	0
	8	546	250	176	49	0
	9	3,280	145	193	67	0
	10	2,696	192	222	53	0
	11	4,541	399	222	67	0
	12	1,612	283	38	18	0
	1	529	0	72	22	0
	2	1,525	715	207	34	0
	3	0	433	352	66	0

令和2年度 県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	7/28(火)	8/2(日)	6	AB	無	第17回 アトリエ・ニケ展覧会	アトリエ・ニケ子ども造形・デザイン・絵画教室	884
2	9/8(火)	9/13(日)	6	AB	無	'20現代書作家展・しずおか	毎日新聞静岡支局	642
3	9/15(火)	9/22(火)	8	AB	無	白日会静岡支部展	西谷 之男	1,834
4	9/24(木)	9/27(日)	4	A	無	第7回島田杉浦カメラユーザー写真展	杉浦 立芳	598
5	9/29(火)	10/4(日)	6	AB	無	第46回静岡県フレミッシュ織展、第11回静岡裂織公募展	静岡県フレミッシュ織教室	727
6	10/13(火)	10/18(日)	6	AB	無	芙蓉三人書展	毎日新聞静岡支局	974
7	10/20(火)	10/25(日)	6	B	無	ふじのくに芸術祭2020（第60回静岡県芸術祭）写真展	静岡県/静岡県教育委員会/静岡県文化協会	1,012
8	10/20(火)	10/25(日)	6	A	無	ふじのくに芸術祭2020（第60回静岡県芸術祭）学生アートフェスティバル	静岡県/静岡県教育委員会/静岡県文化協会	
9	10/27(火)	11/8(日)	13	AB	無	岡村昭彦写真展 「岡村昭彦の写真にみる生と死、いのちをつなぐ食べ物」	ムセイオン静岡	738
10	11/10(火)	11/15(日)	6	AB	無	第38回 なつやすみ読書感想画コンクール	静岡新聞社・静岡放送	3,103
11	11/17(火)	11/23(月)	7	AB	無	令和2年度 第68回静岡県高等学校美術・工芸展	静岡県高等学校文化連盟美術・工芸専門部	889
12	12/1(火)	12/6(日)	6	AB	無	静岡県すこやか長寿祭美術展審査会	公益財団法人しずおか健康長寿財団	40
13	12/8(火)	12/13(日)	6	AB	無	第46回静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	912
14	12/15(火)	12/20(日)	6	A	無	P A I N t i n g 痛みと向き合う展覧会	静岡大学・地域創造学環アートマネジメント研究室（河村 清加）	338
15	12/15(火)	12/20(日)	6	B	無	ヨーロッパ街道物語 奥村ユズル絵画展	奥村 譲	322
16	1/13(水)	1/17(日)	5	A	無	静岡サレジオ幼稚園生活展	静岡サレジオ幼稚園	529
17	2/16(火)	2/21(日)	6	AB	無	ふじのくに芸術祭2020（第60回静岡県芸術祭）第60回記念展覧会	静岡県/静岡県教育委員会/静岡県文化協会	1,525
合 計								15,067

来館者のアクセス満足度

利用交通機関について、令和2年度のアンケート集計結果によると、「自家用車」が63.4%と最も高く、次いで「JR」18.4%、「静鉄電車」6.2%の順になっている。

アクセス環境の満足度については、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は64.7%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は82.9%であった。過去5年間の状況を見ると、概ね3割程度の方が交通アクセスに満足していない、という結果になっている。

自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの、収容台数が約400台と限られているために、週末などに利用者が集中してしまうと、近くの駐車場から順次満車になり、駐車できるまでに時間がかかるうえ、美術館までの徒歩区間が長く登り坂であることがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学の職員駐車場を借用し、美術館来館者用に充てるなど、引き続き自家用車利用者の利便性の向上に努めて行きたい。

公共交通機関の利用者については、JRの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から当館までは上り坂となっているため、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、アクセスに満足してもらえない主要な要因であると思われる。お客様からアクセスについて電話等で照会があった際には、路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分～6分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って来ることができると案内しているものの、バス運行は、1時間に1本であるため利便性が高いとは言い難い。

令和2年度主要記事

- 4月7日 収蔵品展「新収蔵品展」(～5月31日)
学芸員によるフロアレクチャー(4月25日、5月23日) ※中止
- 4月11日 企画展「開校100年 きたれ、バウハウスー造形教育の基礎ー」(～5月31日)
＜会期中イベント＞
講演会「試験に出ないバウハウス」
講師：杉田佳穂氏(ミサワバウハウスコレクション学芸員、展覧会監修者)(4月12日) ※中止
講演会「バウハウスのモホイ＝ナジ：構成主義の視覚芸術」
講師：井口壽乃氏(埼玉大学人文社会科学研究所・教授)(4月29日) ※中止
講演会「DRIVING BAUHAUS」
講師：深井雅文氏(キュレーター／クリティック、展覧会監修者)(5月10日) ※中止
館長美術講座「バウハウスが建築の世界にもたらしたもの」
講師：木下直之(当館館長)(5月24日) ※中止
小学生のための展覧会ツアー(5月3日) ※中止
子どもとファミリーのための展覧会ツアー(5月5日) ※中止
学芸員によるフロアレクチャー(4月19日) ※中止
- 6月13日 収蔵品企画展「東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 美の競演ー静岡県美名品展」(～6月28日)
館長美術講座「江戸にゾウを見に行こう」
講師：木下直之(当館館長)(6月21日)
学芸員によるフロアレクチャー(6月13日、6月14日、6月20日、6月27日、6月28日) ※中止
- 6月30日 収蔵品展「東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 きらめく日本画」(～7月12日)
学芸員によるフロアレクチャー(7月12日) ※中止
- 7月11日 企画展「みんなのミュシャ ミュシャからマンガへー線の魔術」(～9月6日)
＜会期中イベント＞
スペシャル対談「ふたりのミュシャー1900年と1972年」
講師：山田五郎氏(編集者・評論家／展覧会公式サポーター)×木下直之(当館館長)(7月18日) ※中止
記念対談「『みんなのミュシャ』ができるまで」
講師：佐藤智子氏(ミュシャ財団キュレーター、展覧会監修者)×三谷理華(当館学芸課長)(8月22日)
館長美術講座「ミュシャの飛来ー明治のふたつの戦争の間へ」
講師：木下直之(当館館長)(8月16日)
特別解説会(8月15日)
学芸員によるフロアレクチャー(7月23日、8月8日、8月15日、8月29日)
- 7月14日 収蔵品展「東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 富士山をめぐる」(～8月16日)
学芸員によるフロアレクチャー(7月19日、7月26日、8月2日、8月10日) ※中止
- 8月18日 収蔵品展「東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 激突！東西の狩野派」(～9月13日)
学芸員によるフロアレクチャー(8月30日) ※中止
- 9月15日 収蔵品展「曾宮一念とその時代」(～11月15日)
- 9月19日 企画展「富野由悠季の世界」(～11月8日)
＜会期中イベント＞
清水銀行Presents記念トークイベント「富野由悠季×藤津亮太 静岡に語る」
講師：富野由悠季氏(アニメーション監督) 聴き手 藤津亮太氏(アニメ評論家)(10月30日～11月8日) WEB配信
館長美術講座「ロボットの話」
講師：木下直之(当館館長)(10月25日)
学芸員によるフロアレクチャー(10月11日、10月18日)
- 10月20日 めぐるりアート静岡2020(～11月8日)アーティストトーク
講師：臼井良平氏(出品作家)
- 10月22日 移動美術展 沼津市民文化センター「広重・大観・ロダンが沼津にやってくる」(～11月3日)
＜会期中イベント＞
館長美術講座「栗原忠二と山口源、ふたりの生きた時代」

	講師：木下直之（当館館長）（10月31日） 学芸員によるフロアレクチャー（10月22日、 10月24日）		学芸員によるフロアレクチャー（2月28日、 3月13日）
10月26日	第三者評価委員会（オンライン会議で開催）		
10月31日	ロダンウィーク（～11月3日） サウンドインスタレーション「Hommage à Rodin III（ロダンを讃えて）」（10月31 日～11月3日） コンサート「パリに吸い寄せられた作曲家た ち～1903年製のピアノで聴く名曲たち～」（1 1月1日） ロダン賞コンサート「静岡の名手たち」（11 月3日） 友の会「友の会ひろば」（11月3日） 友の会「作家のワークショップ」（11月3日） 丘の上のロダンマルシェ ※中止 ロダン館クイズラリー（10月31日～11月3日）	通年	創作週間（通算45日） 実技講座（通算6日） ロダン館デッサン会（通算18日） ちょこっと体験（通算12日） わくわくアトリエ（通算3日） ねんど開放日（通算4日、8回） えのぐ開放日（通算2日、4回） 美術館教室（実施なし）
11月10日	移動美術展 焼津文化会館「石田徹也を中心 に」（～11月25日）		
11月10日	美術館協議会（書面開催）		
11月17日	収蔵品展「耳をすませて 一音と楽器のある 風景」（～1月24日） 学芸員によるフロアレクチャー（11月29日、 1月24日） ※1月24日のみ中止		
11月21日	企画展「パラレル・ヒストリーズ 現代アート の諸潮流」（～1月11日） ＜会期中イベント＞ 対談「静岡のアートシーンについて」 講師：白井嘉尚氏（美術家）×丹羽勝次氏 （美術家）（12月6日） 館長美術講座「現代アートの古代と中世へ の旅」 講師：木下直之（当館館長）（12月20日） 学芸員によるフロアレクチャー（12月12日、 1月2日）		
1月23日	企画展「ムーミン展 THE ART AND THE STORY」（～3月14日） ＜会期中イベント＞ 館長美術講座「ムーミンとトーベ・ヤンソ ンと夏の家」 講師：木下直之（当館館長）（2月7日） スライドトーク（1月31日） ※中止		
1月26日	収蔵品展「日本戦後美術の挑戦」（～4月4 日）		

開校100年 きたれ、バウハウスー造形教育の基礎ー

2020年 4 月11日～ 5 月31日

※No.に*があるものは、4 月 6 日（日）までオリジナルを展示し 4 月28日（火）以降は複製を展示した。

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
I 学校としてのバウハウス	1	ヴァルター・グロピウス（文） リオネル・ファイニンガー（挿画）	バウハウス宣言/ヴァイマル国立バウハウスの基本計画（文） 大聖堂（挿画）	1919年	388×313	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	2*	ヴァルター・グロピウス	学校便覧：教育カリキュラムと教師	1922年	200×292	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：W.グロピウス、 L.モホイ＝ナジ	機関誌『バウハウス』 第1巻第1号	1926年	420×296	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：W.グロピウス、 L.モホイ＝ナジ	機関誌『バウハウス』 第1巻第2号	1927年	420×296	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：W.グロピウス、 L.モホイ＝ナジ	機関誌『バウハウス』 第1巻第3号	1927年	420×296	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：W.グロピウス、 L.モホイ＝ナジ	機関誌『バウハウス』 第1巻第3号	1927年、 1976年 (リプリント)	420×296	オフセット印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：W.グロピウス、 L.モホイ＝ナジ	機関誌『バウハウス』 第1巻第4号	1927年	420×296	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：W.グロピウス、 L.モホイ＝ナジ 表紙：ヘルベルト・バイヤー	機関誌『バウハウス』 第2巻第1号	1928年	296×210	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：エルンスト・カライ 表紙：ヘルベルト・バイヤー	機関誌『バウハウス』 第2巻第2/3号	1928年	296×210	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	3	編集：エルンスト・カライ 表紙：ヘルベルト・バイヤー	機関誌『バウハウス』 第2巻第4号	1928年	296×210	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：エルンスト・カライ 表紙：ヨースト・シュミット	機関誌『バウハウス』 第3巻第1号	1929年	296×210	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：エルンスト・カライ 表紙：ヨースト・シュミット	機関誌『バウハウス』 第3巻第2号	1929年	296×210	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：エルンスト・カライ 表紙：ヨースト・シュミット	機関誌『バウハウス』 第3巻第3号	1929年	296×210	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：エルンスト・カライ 表紙：ヨースト・シュミット	機関誌『バウハウス』 第3巻第4号	1929年	296×210	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：ルートヴィヒ・ヒルベルザイマー	機関誌『バウハウス』 第4巻第1号	1931年、 1976年 (リプリント)	296×210	オフセット印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：ヨゼフ・アルバース	機関誌『バウハウス』 第4巻第2号	1931年	296×210	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		編集：ヴァシリー・カンディンスキー	機関誌『バウハウス』 第4巻第3号	1931年、 1976年 (リプリント)	296×210	オフセット印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		ヴァルター・グロピウス	『国際建築』 バウハウス叢書 1 巻	1925年	231x180	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		パウル・クレー	『教育スケッチブック』 バウハウス叢書 2 巻	1925年	228x180	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		アドルフ・マイヤー編	『バウハウスの実験住宅』 バウハウス叢書 3 巻	1925年	232x181	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		オスカー・シュレンマー編	『バウハウスの舞台』 バウハウス叢書 4 巻	1925年	230x180	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		ピート・モンドリアン	『新しい造形』 バウハウス叢書 5 巻	1925年	231x181	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	4	テオ・ファン・ドゥースブルフ	『新造形芸術の基本概念』 バウハウス叢書 6 巻	1925年	230x180	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		ヴァルター・グロピウス編	『バウハウス工房の新製品』 バウハウス叢書 7 巻	1925年	230x183	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		ラースロー・モホイ＝ナジ	『絵画・写真・映画』 バウハウス叢書 8 巻	1925年	230x182	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		ヴァシリー・カンディンスキー	『点と線から面へ』 バウハウス叢書 9 巻	1926年	235x186	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		J.J.P.アウト	『オランダの建築』 バウハウス叢書10巻	1926年	230x181	凸版印刷	ミサワホーム株式会社

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
I 学校としてのバウハウス	4	カジミール・マレーヴィチ	『無対象の世界』バウハウス叢書11巻	1927年	229x179	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		ヴァルター・グロピウス	『デッサウのバウハウス建築』 バウハウス叢書12巻	1930年	231x182	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		アルベール・グレーズ	『キュビズム』バウハウス叢書13巻	1928年	236x182	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス		ラーズロー・モホイ＝ナジ	『材料から建築へ』バウハウス叢書14巻	1929年	183×233	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	5	ヘルベルト・バイヤー	学校案内	1927年	210×149	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	6	ヘルベルト・バイヤー	バウハウス・デッサウのレターヘッド	1927年	295×210	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	7	撮影者不詳	デッサウの予備課程の教室	1929年	140×197	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	8	イレーネ・バイヤー	バウハウスの食事風景	1927年	233×188	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	9	T. ルクス・ファイニンガー	スポーツ	1927年頃	238×169	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	10	T. ルクス・ファイニンガー	粘土の造形を行うオスカー・シュレンマー	制作年不詳	169×240	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	11	撮影者不詳	プロイヤーの椅子の上の赤ん坊	1926年	169×118	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	12	撮影者不詳	製図の授業(ロッテ・ペーゼ)	制作年不詳	136×198	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	13	撮影者不詳	J.アルバースとG.ハッセンブフルーク	1927/28年	140×178	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	14	撮影者不詳	カンディンスキーの授業	制作年不詳	136×195	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	15	ピウス・パール	ミース・ファン・デル・ローエと学生たち バウハウス、デッサウにて	1930/31年	165×240	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	16	撮影者不詳	アルバースの授業(予備課程) バウハウス、デッサウにて	制作年不詳	136×194	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	17	フリッツ・シュライバー	学生たち(アトリエのバルコニー) バウハウス、デッサウにて	1932年頃	195×137	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	18	撮影者不詳	学生たち(アトリエのバルコニー)	1932年頃	195×125	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	19	フェリックス・クレー	ヴァイマルのアトリエでのパウ・クレー	1925年	166×228	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
I 学校としてのバウハウス	20	フランツ・エーアリッヒ	バウハウスのカーニバルへの招待状	1930年	290×138	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	22	フランツ・ジィンガー	男性の裸身 イッテンの授業	1919年	400×260	木炭	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	23	マルティン・ヤーン	リズムのスタディ イッテンの授業	1924年	297×208	木炭	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	24	ブルーノ・アドラー編	『ユートピア 現実のドキュメント』	1921年	328×245	リトグラフ(簡易製本)	宇都宮美術館
II バウハウスの教育	—		(参考)「巨匠の絵画分析」より(『ユートピア 現実のドキュメント』所収、クラウス・リブリント〔1980年〕を複製)				ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	25	作者不詳	バランスの習作 モホイ＝ナジの授業	制作年不詳	239×180	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	26	作者不詳	バランスの習作 モホイ＝ナジの授業	1924-25年頃 (デザイン)、 1995年 (再制作)	790×565×555	アルミニウムの円板、鉄の輪、木	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	27	ヨハネス・ツァペル	バランスの習作 モホイ＝ナジの授業	1923-24年頃 (デザイン)、 1995年 (再制作)	550×800×280	木、金属	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	—	制作:専門学校 桑沢デザイン研究所	(参考出品) 触覚板				
II バウハウスの教育	28	エーリッヒ・ムロツェック	テクスチャーのスタディ アルバースの授業	1929/30年	356×241	コラージュ	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	29	エーリッヒ・ムロツェック	立方体のスタディ アルバースの授業	1929/30年	311×270	テンペラ、鉛筆	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	30	ヘルベルト・シュルマン	面のグラデーションによる分割 アルバースの授業	1932年	470×325	吹きつけ技法	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	31	アルトゥール・シュミット	素材の構造(ガラス、木、鉄、剛毛) アルバースの授業	1929/30年頃	221×337	鉛筆	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	32	アリー・シャロン	紙による素材演習 アルバースの授業	1927年、 2005年 (再制作)	308×306×137	紙	ミサワホーム株式会社
II バウハウスの教育	33	アリー・シャロン	紙による素材演習 アルバースの授業	1927年頃、 2005年 (再制作)	320×315×140	紙	ミサワホーム株式会社

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
II	バウハウスの教育 34	作者不詳	紙による素材演習 アルバースの授業	制作年不詳、 1997年 (再制作)	230×125×247	紙	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 35	作者不詳	紙による素材演習 アルバースの授業	1927年、 2001年 (再制作)	200×200×370	紙	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 36	作者不詳	紙による素材演習 アルバースの授業	制作年不詳、 2001年 (再制作)	500×300×10	紙	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 37	作者不詳	紙による素材演習 アルバースの授業	制作年不詳、 2001年 (再制作)	780×785×1700	紙	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 38	マルガレータ（グレーテ）・ ライヒャルト	操り人形 アルバースの授業	1926年 (デザイン)、 2001年 (P.M.、ネフ社)	330×295	彩色した木、金属	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 39	マルガレータ（グレーテ）・ ライヒャルト	小さな差込人形 アルバースの授業	1926年 (デザイン)、 2001年 (P.M.、ネフ社)	245×335×65	彩色した木、金属	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 40	カール＝ヘルマン・ハウプト	人体のスタディ クレーの授業	1923年	275×221	鉛筆	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 41	カール＝ヘルマン・ハウプト	人体のスタディ クレーの授業	1923年	315×230	鉛筆	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 42	カール＝ヘルマン・ハウプト	人体のスタディ クレーの授業	1923年	275×221	鉛筆	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 43	カール＝ヘルマン・ハウプト	図形のスタディ クレーの授業	1923年	314×229	鉛筆	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育	ヨースト・シュミット (?)	I-1 線（二本の支線、虚構の本線） クレーの授業のノート	制作年不詳	220×210	インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育	ヨースト・シュミット (?)	不詳 クレーの授業のノート	制作年不詳	220×210	インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育	ヨースト・シュミット (?)	II-22 天秤 クレーの授業のノート	制作年不詳	220×210	インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育	ヨースト・シュミット (?)	黒い矢の造形 クレーの授業	制作年不詳	220×210	インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 45	ヒルデ・ラインドル	図形のスタディ クレーの授業	1929/30年	295×419	インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 46	カール・シールツェック	図形のスタディ（初級平面造形） クレーの授業	1929/30年	417×592	鉛筆	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 47	カール・シールツェック	図形のスタディ（初級平面造形） クレーの授業	1929/30年	417×590	鉛筆	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 50	エーリッヒ・ムロツェック	色彩演習 カンディンスキーの授業	1929/30年	313×210	グアッシュ、コラージュ	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 51	カール＝ヘルマン・ハウプト	分析的デッサン カンディンスキーの授業	1923年	215×276	鉛筆	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 52	カール＝ヘルマン・ハウプト	分析的デッサン カンディンスキーの授業	1923年	276×215	鉛筆	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 53	ゲルト・バルツァー	分析的デッサン カンディンスキーの授業	1929年	295×210	鉛筆	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 54	エーリッヒ・ムロツェック	分析的デッサン カンディンスキーの授業	1929/30年	240×361	インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 55	エーリッヒ・ムロツェック	分析的デッサン カンディンスキーの授業	1929/30年	240×356	インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 56	エーリッヒ・ムロツェック	分析的デッサン カンディンスキーの授業	1929/30年	356×240	インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育	カール・シールツェック	裸体素描 ジュレンマーの授業・1学期	1929年	347×277	チョーク、木炭	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育	カール・シールツェック	裸体素描 ジュレンマーの授業・1学期	1929年	347×278	チョーク、木炭	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育	カール・シールツェック	裸体素描 ジュレンマーの授業・1学期	1929年	347×279	チョーク、木炭	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 59	テオ・バルマー	文字の配置 3 シュミットの授業	1930年	293×419	グアッシュ	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 60	イレーネ・ホフマン	レタリング シュミットの授業	1928-30年頃	290×202	色鉛筆、インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 61	イレーネ・ホフマン	レタリング シュミットの授業	1930年頃	290×194	インク、鉛筆	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 62	アルトゥール・シュミット	レタリング シュミットの授業	1929/30年	306×211	グラフ用紙にインク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 63	アルトゥール・シュミット	レタリング シュミットの授業	1929年頃	297×210	インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 64	アルトゥール・シュミット	レタリング シュミットの授業	1929/30年	297×210	インク	ミサワホーム株式会社
II	バウハウスの教育 65	アルトゥール・シュミット	レタリング シュミットの授業	1929年頃	297×210	インク	ミサワホーム株式会社

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
Ⅱ	バウハウスの教育 66	カール・シールツェック	レタリング シュミットの授業	1929年	483×653	インク	ミサワホーム株式会社
Ⅱ	バウハウスの教育 67	カール・シールツェック	レタリング シュミットの授業	1929年	483×653	インク	ミサワホーム株式会社
Ⅱ	バウハウスの教育 68	アルトゥール・シュミット	プロポーシヨン・スタディ (横断面) シュミットの授業・裸体素描	1929/30年頃	297×186	鉛筆、色鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅱ	バウハウスの教育 69	エーリッヒ・ムロツェック (?)	裸体とモデル人形のデッサン シュミットの授業	1929/30年頃	418×501	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅱ	バウハウスの教育 70	エーリッヒ・ムロツェック	人体 (歩く、走る、座る) シュミットの授業	1930年	290×419	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 72	マルセル・ブロイヤー	肘掛け椅子	1922-24年頃	94×565×572	木(オーク)、革	東京国立近代美術館
Ⅲ	工房教育と成果 73	マルセル・ブロイヤー	クラブチェア B3 (ヴァシリー)	1925/26年	743×767×680	スチールパイプ、布	宇都宮美術館
Ⅲ	工房教育と成果 74	マルセル・ブロイヤー	クラブ・アームチェア B3 (ヴァシリー)	1925年 (デザイン)、1928/29年頃 (製造、スタンダードメーベル社)	730×730×690	スチールパイプ、牛革	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 75	マルセル・ブロイヤー	折りたたみ椅子 B4	1927年 (デザイン)、1989年 (P.M.、テクタ社)	715×790×630	スチールパイプ、布	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 76	マルセル・ブロイヤー	サイドチェア B6	1925/26年 (レンギエール・スタンダードメーベル社)	880×420×450	スチールパイプ (クロームメッキ)、木	宇都宮美術館
Ⅲ	工房教育と成果 77	マルセル・ブロイヤー	サイドチェア B5	1926/27年	835×450×600	鉄 (ニッケル塗装)、アイゼンガルン	東京国立近代美術館
Ⅲ	工房教育と成果 78	マルセル・ブロイヤー	肘掛け椅子 B11	1926/27年 (デザイン)、製造年不詳 (製造、スタンダードメーベル社)	870×503×618	スチールパイプにニッケル鍍金、鉄糸	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 79	マルセル・ブロイヤー	ネスト・テーブル B9?B9c	1929年	青: 600×660×390 黄: 500×590×390 緑: 500×520×395 赤: 450×450×395	鉄 (クローム塗装)、木	東京国立近代美術館
Ⅲ	工房教育と成果 80	マルセル・ブロイヤー	サイドチェア B32	1928年	820×445×552	スチールパイプ、木、藤細工	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 81	マルセル・ブロイヤー	スツール B56	1928年頃	480×405×405	スチールパイプ、木、藤細工	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 82	マルセル・ブロイヤー	丸テーブル B28	1928年頃 (デザイン)、製造年不詳 (製造、トーネット社)	φ 800、h620	スチールパイプ、合板	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 83	マルセル・ブロイヤー	サイド・テーブル B18	1928年	730×550×800	鉄 (ニッケル塗装)、ガラス、ゴム	東京国立近代美術館
Ⅲ	工房教育と成果 84	マルセル・ブロイヤー	ラウンジチェア B25	1928/29年	1025×644×850	クローム鍍金のスチールパイプ、木、藤	宇都宮美術館
Ⅲ	工房教育と成果 85	エーリッヒ・コンゼミュラー (撮影)	スツール B9	1926年	189×225	写真 (リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 86	エーリッヒ・ボルヒェルト	バウハウスの椅子に座っている女	1929年	290×210	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 87	カール・シールツェック	キッチンキャビネットの改良	1929年	190×222	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 88	グスタフ・ハッセンブフルーク	寝椅子のデザイン	1930年	298×356	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 89	クルト・シュミット	鋼管家具カタログ トーネット社	1930-31年、1989年 (復刻)	210×155×20		ミサワホーム株式会社
Ⅲ	工房教育と成果 90	クリスツィアン・デル	コーヒーポット、ミルクピッチャー、砂糖入れ	1924年頃	コーヒーポット: 221×79×142 ミルクピッチャー: 160×180×140 砂糖入れ: 105×125×100	鍍金、黒檀	ミサワホーム株式会社

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
Ⅲ 工房教育と成果	91	クリスツィアン・デル	ワインのデカンター	1925年頃	200×165×110	銀、黒檀	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	92	マリアンネ・ブラント	灰皿	1924年	67×111×99	真鍮	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	93	マリアンネ・ブラント	ティーケトル（保温台付き）	1928/30年	196×224×153	真鍮、黒檀	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果	94	ヨゼフ・アルバース	ティーグラス（マドラー、受け皿付き）	1926年	43×133×88	ガラス、磁器、 スチール、黒檀	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果	95	ハインリッヒ・ノイィ	小皿	1931年	φ145、h27	真鍮	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	96	ヴィルヘルム・ヴァーゲンフェルト	グレーヴィー入れ	1924年	158×178×125	洋銀、黒檀	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	97	マリアンネ・ブラント	ティーセット	1925年頃	ティーポット： h159 ミルクピッチャー： h102 シュガーボール： h38	真鍮、銀メッキ、 ニッケルメッキ、 黒檀	東京国立近代美術館
Ⅲ 工房教育と成果	98	レオ・グレヴェニッヒ	ティーポット	1925年頃	139×285×172	銅、真鍮	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	99	ヴォルフガング・トゥンベル （茶こし）、ヴィルヘルム・ヴァー ゲンフェルト（受け皿）	茶こしと受け皿	1924年	φ32、h153	洋銀	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	100	ヨゼフ・クナウ（茶こし）、 オットー・リットヴェーガー （ホルダー）	茶こしとホルダー	1924/25年、 2000年 （P.M.）	φ30、h148 φ97、h185	特殊鋼 （オリジナルは銀）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	101	ヴァルター・グロピウス	ドアノブ	1922年 （製造、S.A. レーヴィー社）	43×163×123	ホワイต์メタル （クロームメッキ）、 真鍮	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果	102	ヴィルヘルム・ヴァーゲン フェルト	テーブルスタンドライト	1923/24年	390×178×178	ニッケル鍍金の真鍮、 スチール、ガラス	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果	103	ヒン・ブレーデンディーク /マリアンネ・ブラント	カンデム・テーブルスタンドライト （シェード上部が改変されている）	1928 - 34年 （デザイン）、 製造年不詳 （製造、ケル ティング&マ ティーゼン社）	400×350×145	鉄	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	104	マリアンネ・ブラント/ ハンス・ブルツィレンベル	ペンダント型照明器具	1926年 （デザイン）、 1989年 （製造、テク ノルメン社）	φ500×200 （かさ部分）	アルミニウム	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	105	フリードリッヒ・マルビー	ポットのデザイン	1928年	298×208	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	106	ハインリッヒ・ジークフリー ト・ボルマン	天井燈の設計スケッチ	1932年	281×386	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	107	ハインリッヒ・ジークフリー ト・ボルマン	天井燈の設計スケッチ バウハウス・ デッサウ・建築科	1932年	221×312	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	108	ハインリッヒ・ジークフリー ト・ボルマン	電気スタンドの脚の設計スケッチ	1932年	440×320	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	109	ゲアハルト・マルクス、マッ クス・クレハン	水差し	1920 - 23年	315×218×214	陶器	東京国立近代美術館
Ⅲ 工房教育と成果	110	オットー・リンディッヒ	蓋付水差し	1922年	368×212×210	陶器	東京国立近代美術館
Ⅲ 工房教育と成果	111	テオドール・ボークラー	コンビネーション・ティーポット	1923年	120×210×155	陶器	東京国立近代美術館
Ⅲ 工房教育と成果	112	オットー・リンディッヒ	ココアポット	1923年	248×161×134	炻器	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果	113	オットー・リンディッヒ	ココアポット	1923年	143×261×156	炻器	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果	114	テオドール・ボークラー	蓋付き鉢	1923年	75×120×120	炻器	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果	115	オットー・リンディッヒ	コーヒーポット L19/4025	1923年（デザイ ン）、1929 - 62 年（製造、国立 マヨリカ・マニ ファクチュア）	207×140×184	陶器	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	116	テオドール・ボークラー	カップとソーサーと皿（L40/41/42）	1923年（デザイ ン）、1930年 （製造、国立マ ヨリカ・マニ ファクチュア）	131×109×55他	陶器（型成形）	ミサワホーム株式会社

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
Ⅲ 工房教育と成果		撮影者不詳	カップとソーサー L40/41 陶器工房の写真（デザイン：テオドル・ボークラール）	1924年	159×240	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		撮影者不詳	ココアポット L46 陶器工房の写真（デザイン：オットー・リンディッヒ）	1923年頃	169×240	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		撮影者不詳	コーヒーマシンの石膏モデル 陶器工房の写真（デザイン：テオドル・ボークラール）	1923年	239×166	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	117	ルチア・モホイ（撮影）	モカサービス 陶器工房の写真	1923年頃	160×240	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		オットー・リンディッヒ（撮影）	カップとソーサー 陶器工房の写真	1924年頃	179×240	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		撮影者不詳	組合せ式ティーポット 陶器工房の写真（デザイン：テオドル・ボークラール）	1924年頃	155×240	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		撮影者不詳	水差し 陶器工房の写真（デザイン：オットー・リンディッヒ）	1924年頃	240×173	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		撮影者不詳	マックス・クレハンの工房 陶器工房の写真	1921年	239×150	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	118*	グンタ・シュテルツル	壁掛け	1923年	2360×970	麻、綿、ウール、 化繊/手織	東京国立近代美術館
Ⅲ 工房教育と成果	120	グンタ・シュテルツル	テキスタイルのデザイン	1926年頃	86×240	グアッシュ、水彩	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	122	グンタ・シュテルツル	テキスタイルのデザイン	1929年頃	483×381	グアッシュ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	124	グンタ・シュテルツル	テキスタイルのサンプル	1929年頃	85×90他	二重織（麻、ウール）/ 蜂巢織（木綿、セロファン）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	127	レナ・マイヤー＝ベルクナー	テキスタイルのデザイン	1929年頃	215×295	インク	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	128	ヒルデ・ラインドル	テキスタイルのデザイン	1929年頃	102×79	グアッシュ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	130	ルス・コンゼミューラー	テキスタイルのデザインとサンプル （椅子張用布）	1925年	296×210	インク/綾織変化組織 （木綿、ウール）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	134	作者不詳	テキスタイルのサンプル（椅子張用布）	1925～30年	161×97	平織変化組織 （ウール）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	135	作者不詳	テキスタイルのサンプル（椅子張用布）	制作年不詳	170×75	平織変化組織と浮織 （木綿、ウール、セロファン）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	137	作者不詳	テキスタイルのサンプル（椅子張用布）	制作年不詳	450x150	二重織組織（木綿）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	138	作者不詳	テキスタイルのサンプル	1925～30年	184×169	振織（絹、レーヨン、 木綿）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	139	シュテファン・シュヴァールツ	ポリテックス社「パウハウス・テキスタイル」パンフレット	1930年	152×160	オフセット印刷	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	141	作者不詳	織物の仕様書	制作年不詳	297×210	インク	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	142	ヘルベルト・バイヤー	展覧会パビリオン案	1924年 （デザイン）、 1966年 （セカンドヴァージョン）	550×425	グアッシュ、フォト モンタージュ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	144	ヒネルク・シェーパー（？）	テンペラによる色見本（壁画工房） シェーパーの授業（？）・4学期	1925～33年頃	413×620	テンペラ、コラージュ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	145	ヨースト・シュミット	ラッシュ社壁紙カタログ表紙 「未来はパウハウス壁紙のもの」	1931年	145×203	オフセットおよび写真印刷	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	147	作者不詳	パウハウス壁紙の広告	制作年不詳	146×218	活版印刷、転写	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	149	作者不詳	ラッシュ社「パウハウス壁紙」1073 壁紙見本『ドイツ商品学』より	1939年、 1929～33年 （デザイン）	250×177		ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	151	作者不詳	ラッシュ社「パウハウス壁紙」1072 壁紙見本『ドイツ商品学』より	1940年、 1929～33年 （デザイン）	250×177		ミサワホーム株式会社

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
Ⅲ 工房教育と成果	153	作者不詳	ラッシュ社「バウハウス壁紙」1070 壁紙見本『ドイツ商品学』より	1939年、 1929-33年 (デザイン)	250×177		ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヨースト・シュミット	ゾマーフェルト邸の木彫装飾	1921年	206×163	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	154	ヨースト・シュミット	ゾマーフェルト邸の木彫装飾	1921年	112×78	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヨースト・シュミット	ゾマーフェルト邸の木彫装飾	1921年	52×45	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	155*	ハンス・ハフェンリヒター	ひざまづく女	1923年	353×252	リノカット	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	156	ハンス・ハフェンリヒター	女性のトルソ	1923年	310×205×232	ブロンズ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	157	ヨゼフ・ハルトヴィッヒ	チェス・セット	1924年頃	60×127×127	木	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	159	エーリッヒ・ムロツェック	影の構成 《Cellon》	1930年頃	390×360	テンペラ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ハインツ・レーヴまたは ヨースト・シュミット	ヨースト・シュミットのスタジオにて	1931-32年	112×85	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	160	ハインツ・レーヴまたは ヨースト・シュミット	ヨースト・シュミットのスタジオにて	1931-32年	65×103	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ハインツ・レーヴまたは ヨースト・シュミット	ヨースト・シュミットのスタジオにて	1931-32年	99×72	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	162	ヨースト・シュミット	室内の人物	1930/31年	85×85	色鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	164	ヨースト・シュミット	光の解析	制作年不詳	290×290	鉛筆、色鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ハインツ・レーヴと エドムント・コルライン	光の彫刻	1928年	135×96	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	165	ハインツ・レーヴと エドムント・コルライン	光の彫刻	1928年	133×95	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ハインツ・レーヴと エドムント・コルライン	光の彫刻	1928年	134×96	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	166	ハインツ・レーヴと エドムント・コルライン	光の彫刻	1928年 (デザイン)、 1999年 (模型制作)	350×350×375	装置再現模型 (オリジナルは金属)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	168	イレーネ・ホフマン	広告の習作 《ラッシュ》	1930年	648×483	グアッシュ、コラージュ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	170	エーリッヒ・ムロツェック	広告の習作 《メルセデス・ベンツ》	1930年頃	420×575	コラージュ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	172	エーリッヒ・ムロツェック	広告の習作 《マラブ・ポスターカラー》	1930年頃	602×420	テンペラ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	173	エーリッヒ・ムロツェック	広告の習作 《ヴェルトヘルツァー》	1930年頃	638×460	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	176	エーリッヒ・ムロツェック	広告の習作 《花屋》	制作年不詳	210×300	フォトコラージュ、 グアッシュ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	178	エーリッヒ・ムロツェック	広告の習作 《カトライナーコーヒー》	1930年頃	211×298	フォトコラージュ、 グアッシュ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	180	エーリッヒ・ムロツェック	広告の習作 《マラブ・ポスターカラー》	1930年頃	239×168	グアッシュ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	181	ヨースト・シュミット	デッサウ市の案内パンフレット	1930年	230×235	活版と凸版印刷	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	182	ヨースト・シュミット	デッサウ市の案内パンフレット(裏表紙)	1930年	230×235	活版と凸版印刷	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	184	アルトゥール・シュミット	活版印刷の実験 《ラッシュ壁紙》	制作年不詳	150×210	活版と凸版印刷	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	184・ 186・ 188- 付	印刷試行：和田由里子 (Paper Parade)、解説： 守田篤史 (Paper Parade)	(参考)「A.シュミットの活版印刷の 実見の分析」	2019年		活版と凸版印刷、 鉛筆、色鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	186	アルトゥール・シュミット	活版印刷の実験 《wohnungsbaus a》	1930/31年	346×217	活版印刷と転写	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	188	アルトゥール・シュミット	活版印刷の実験 《MSGa》	1930/31年頃	140×236	活版印刷と転写	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	189	撮影者不詳	「ガスと水」展：ユンカースのブース 展示デザイン：ヨースト・シュミット他	1929年	226×166	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	190	撮影者不詳	「ガスと水」展：ユンカースのブース 展示デザイン：ヨースト・シュミット他	1929年	167×228	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	191	撮影者不詳	ドイツ保存食品業界「保健衛生展示会」 展示デザイン：ヨースト・シュミット	1930年	160×218	写真(リプリント)	ミサワホーム株式会社

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
Ⅲ 工房教育と成果	192	撮影者不詳	ドイツ保存食品業界「保健衛生展示会」 展示デザイン：ヨースト・シュミット	1930年	145×176	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヨハネス・イッテン	第2葉：森のはずれの花 版画集 《ヨハネス・イッテン、オリジナルリ トグラフ》（10点組）	1919年	605×456	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヨハネス・イッテン	第5葉：少女 版画集《ヨハネス・イッ テン、オリジナルリトグラフ》（10点組）	1919年	603×451	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	193	ヨハネス・イッテン	第6葉：男 版画集《ヨハネス・イッ テン、オリジナルリトグラフ》（10点組）	1919年	603×450	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヨハネス・イッテン	第8葉：コンポジション 版画集《ヨハ ネス・イッテン、オリジナルリトグ ラフ》（10点組）	1919年	602×448	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヨハネス・イッテン	第10葉：線のリズム 版画集《ヨハネ ス・イッテン、オリジナルリトグラフ》 （10点組）	1919年	602×448	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヴァシリー・カンディンスキー	小さい世界 II 版画集《小さい世界》 （12点組）	1922年	357×278	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヴァシリー・カンディンスキー	小さい世界 IV 版画集《小さい世界》 （12点組）	1922年	336×290	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヴァシリー・カンディンスキー	小さい世界 VII 版画集《小さい世界》 （12点組）	1922年	358×284	木版	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	194	ヴァシリー・カンディンスキー	小さい世界 VIII 版画集《小さい世界》 （12点組）	1922年	365×304	木版	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヴァシリー・カンディンスキー	小さい世界 X 版画集《小さい世界》 （12点組）	1922年	304×268	ドライポイント	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		ヴァシリー・カンディンスキー	小さい世界 XII 版画集《小さい世界》 （12点組）	1922年	300×268	ドライポイント	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		リオネル・ファイニンガー	ゲルメローダ 《国立バウハウス・マ イスター版画集》（8点組）	1923年	330×248	木版	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果		ヴァシリー・カンディンスキー	楽しき飛翔 《国立バウハウス・マイ スター版画集》（8点組）	1923年	238×194	リトグラフ	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果		パウル・クレー	恋する男 《国立バウハウス・マイ スター版画集》（8点組）	1923年	376×191	リトグラフ	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果		ゲアハルト・マルクス	炉端（家族） 《国立バウハウス・マ イスター版画集》（8点組）	1923年	273×164	木版	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果	196	オスカー・シュレンマー	脚を組んだ抽象的人像 《国立バウハ ウス・マイスター版画集》（8点組）	1923年	316×239	エッチング	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果		ローター・シュライヤー	無題 《国立バウハウス・マイスター 版画集》（8点組）	1923年	199×126	木版	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果		ゲオルク・ムッヘ	テーブルの上 《国立バウハウス・マ イスター版画集》（8点組）	1923年	144×144	エッチング	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果		ラースロー・モホイ＝ナジ	コンポジション 《国立バウハウス・ マイスター版画集》（8点組）	1923年	352×250	リトグラフ	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果	197	イレネ・バイヤー（撮影）	シュレンマー作「均衡」	1927年	176×239	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	198	撮影者不詳	シュレンマー作「後知恵」	1927年	240×168	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	199	T. ルクス・ファイニンガー（撮影）	空間の踊り（人体による空間の定義）	1927年	234×189	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	200	T. ルクス・ファイニンガー（撮影）	シュレンマー作「棒の踊り」	1927年頃	165×230	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	201	T. ルクス・ファイニンガー（撮影）	デッサウ校舎屋上でのバウハウス舞台 パフォーマンス	1926/27年頃	181×240	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	202	T. ルクス・ファイニンガー（撮影）	シュレンマー作「人像小箱」	1926/27年頃	171×237	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	203	アレクサンダー（クサンティ） ・シャヴィンスキー	「サーカス」	1924年頃	305×410	テンペラ、インク	宇都宮美術館
Ⅲ 工房教育と成果	205	ローター・シュライヤー	誕生の天使 人形劇「誕生」より	1923年	399×299	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	207	イルゼ・フェーリング	戯曲「ヴェクターシュタイン城」の舞台 衣装デザイン	1922年	325×217	コラージュ	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	210	クルト・シュミット	バウハウス劇場のためのポスター・デザイン	1924年	305×450	水彩、インク、鉛筆	宇都宮美術館

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
Ⅲ 工房教育と成果	211	撮影者不詳	クルト・シュミット作 マリオネット劇「小さなせむし男の冒険」	1924年頃	133×184	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	212	撮影者不詳	クルト・シュミット作 マリオネット劇「小さなせむし男の冒険」 医者と召使い	1924年頃	177 × 206	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	213	撮影者不詳	クルト・シュミット作 「配電盤の男」	制作年不詳	238×183	写真（リプリント）	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	—	制作：バヴァリア・アトリエ 監督：マルグレーテ・ハスティ ング、フランツ・シェンブス、 ハンネス・ヴィンクラー 音楽：エーリッヒ・フェルストル 芸術監修：ルートヴィヒ・グ ローテ、クシャンティ・シャ ヴィンスキー、トゥート・シュ レンマー	（参考）三つ組のパレエ	1970年	30' 00"	映像	映像提供：ゲー テ・インスティ トゥート東京
Ⅲ 工房教育と成果		カール・シールツェック	エンゲマンの授業・1学期 幾何学描写3	1929年	417×591	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		カール・シールツェック	エンゲマンの授業・2学期「幾何学描 写」 幾何学描写（透視図法）	1930年	416×592	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	214	カール・シールツェック	ルーデルトの授業・3学期「構造力学」 金属トラスの構造計算用図面（構造力学）	1930年	593x417	鉛筆、色鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果		カール・シールツェック	エンゲマンの授業・2学期「内装工房 専門製図」 木製窓の製図（四翼の木 製窓と外枠、原寸）	1930年	591×418	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	216	ルドルフ＝フランツ・ハルトフ	建築図面	1923年頃	418×594	鉛筆	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	217	ヴァルター・グロピウス	住宅案「大きな積み木箱」模型（1：80）	1922年 （デザイン）、 1997年 （模型制作）	190×140× 110～190× 190×110		ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	—		住宅案「大きな積み木箱」模型（1：80） 用 積み木				ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	218	ヴァルター・グロピウス	二戸建住宅「マイスターハウス」の模型 （1：80）	1926年 （デザイン）、 2002年 （模型制作）	420×318×120		ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	219	ヴァルター・グロピウス	パウハウス・デッサウ校舎模型	1926年 （デザイン）、 1995年 （模型制作）	1040×890×460	ミクストメディア	ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	220	ヴァルター・グロピウス	「ジードルンク・テルテン（集落地）」 タイプⅠ型住宅 模型（1：80）	1926年 （デザイン）、 2007年 （模型制作）	265×305×90		ミサワホーム株式会社
Ⅲ 工房教育と成果	221	ヴァルター・グロピウス	「ジードルンク・テルテン（集落地）」 タイプⅣ型住宅 模型（1：80）	1928年 （デザイン）、 2007年 （模型制作）	478×270×120		ミサワホーム株式会社
Ⅳ 「総合」の位相	—	制作：富田英夫、貞重亜沙美、 小坂崇	（参考）Hannes Meyer 1889-1954 ハンネス・マイヤーのアンビルト建築 のCG再現映像	1927年（設計）	2'30"	映像	
Ⅳ 「総合」の位相	222	ペーター・ケラー	安楽椅子「赤の立方体」	1925年 （デザイン）、 1989年 （P.M. 、 テクタ社）	670×810×835	木、ポリエステル のクッション	ミサワホーム株式会社
Ⅳ 「総合」の位相	223	ペーター・ケラー	揺りかご	1922年 （デザイン）、 1989年 （P.M. 、 テクタ社）	895×970×895	木のカラーステ イン仕上、ス ティールパイプ	ミサワホーム株式会社
Ⅳ 「総合」の位相	224	ファルカシュ・モルナール	住宅案「赤の立方体」模型（1：125）	1922年	330×265×90		ミサワホーム株式会社
Ⅳ 「総合」の位相	225	フリッツ・シュライファー	1923年の「パウハウス展」のポスター	1923年（複製）	995×725	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅳ 「総合」の位相	226*	ヨースト・シュミット	1923年の「パウハウス展」のポスター	1923年	690×477	リトグラフ	ミサワホーム株式会社
Ⅳ 「総合」の位相	227	ヴァシリー・カンディンスキー	「パウハウス展」絵葉書	1923年	150×106	リトグラフ	宇都宮美術館
Ⅳ 「総合」の位相		オスカー・シュレンマー	「パウハウス展」絵葉書	1923年	150×105	リトグラフ	宇都宮美術館

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
IV 「総合」の位相	227	リオネル・ファイニンガー	「バウハウス展」絵葉書	1923年	150×105	リトグラフ	宇都宮美術館
IV 「総合」の位相		オスカー・シュレンマー	「バウハウス展」パンフレット	1923年	204×301	凸版印刷	宇都宮美術館
IV 「総合」の位相	229	ヘルベルト・バイヤー (表紙デザイン)	『ヴァイマール国立バウハウス1919－1923』 1923年バウハウス展 展覧会 カタログ バウハウス出版	1923年	254×246	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	230	カール・ヤコブ・ユッカー /ヴィルヘルム・ヴァーゲンフェルト	テーブルスタンド MT9/ME1	1923－24年 (デザイン)、 1989年(製造、テクノロジーメン社)	φ180、h300	ニッケル鍍金、 ガラス	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	231	ヴァルター・グロピウス	肘掛椅子	1920年 (デザイン)、 1989年(P.M. テクタ社)	685×690×700	木、ポリエステル クッション	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	232	ヴァルター・グロピウス	ヴァイマール・バウハウスの校長室模型	1923年 (デザイン)、 2000年 (模型制作)	400×400×400		ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	233	ゲオルク・ムッヘ	「アム・ホルンの実験住宅」模型 (1:50)	1923年 (デザイン)、 2002年 (模型制作)	297×300×130		ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	234	テオドル・ボークラー	台所用容器	1923年 (デザイン)、 2003年(P.M. マヌファクトゥム社)	φ80、h105	陶器	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	235	アルマ・ジートホフ＝ブッシャー	子供用玩具戸棚 模型 (1:1)	1923年 (デザイン)、 2001年 (模型制作)	1550×900×1500	オリジナルは木、 リノリウム	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	236	アルマ・ジートホフ＝ブッシャー	はしご椅子 模型 (1:1)	1923年 (デザイン)、 2003年 (模型制作)	725×380×825	オリジナルは木、 リノリウム	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	237	マルセル・ブロイヤー	木椅子	1923/24年	1015×535×610	木、布(馬巢織)	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	238	ギュラ・パップ	フロアーランプ	1923年 (デザイン)、 1989年(製造、テクノロジーメン社)	φ400、h1600	鉄に塗装、真鍮にニッケル鍍金、ガラス	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	239	ヘルベルト・バイヤー	緊急紙幣	1923年	62×140	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	240	ゲルトルート・アルント	カーベット	1922年 (デザイン)、 1997年 (製造)			ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	—	アルマ・ジートホフ＝ブッシャー	バウハウス バウスピール	1923年 (デザイン)、 製造年不詳 (製造、Naef社)		木	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	241*	ラースロー・モホイ＝ナジ	無題	1928年	465×301	混合技法	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	242	ラースロー・モホイ＝ナジ	フォトグラム	1926年頃	178×240	写真	川崎市市民ミュージアム
IV 「総合」の位相	247	ラースロー・モホイ＝ナジ	嫉妬	1928年	180×130	写真	川崎市市民ミュージアム
IV 「総合」の位相	252	ラースロー・モホイ＝ナジ	光の戯れ 黒一白一灰色	1930年	5'30"	映像	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	253	ヴァルター・ペーターハンス	死んだ野兎	1929年頃	264×293	写真	川崎市市民ミュージアム
IV 「総合」の位相	261	アルベルト・ヘニッヒ	人形の頭部 ペーターハンスの授業	1933年、 1978年 (モノプリント)	238×175	写真	ミサワホーム株式会社
IV 「総合」の位相	266	山脇 巖	絵の具のある静物	1931年	175×225	写真	東京都写真美術館
IV 「総合」の位相	271	山脇 巖	肖像(女性)	1930－32年	113×81	写真	東京都写真美術館

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
V	パウハウスの日本人学生	273 水谷武彦	三美術家倶楽部 断面図 卒業制作 (16点組) より	1921年	762×890	紙本着色	東京藝術大学
V	パウハウスの日本人学生	— 水谷武彦	(参考)「水谷武彦関連作品・資料」 三美術家倶楽部 断面図 1) 卒業制作 (16点組) より 創美会 作品展アルバム 2) 創美会作品展アルバム	1) 1921年 2) 1931— 33年頃	2'30"	映像	
V	パウハウスの日本人学生	274 水谷武彦	趣味講座「新興独逸とパウハウス」 『アサヒグラフ』昭和5年4月9日号掲載	1930年			個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	水谷武彦	趣味講座「新興独逸とパウハウス」 『アサヒグラフ』昭和5年4月16日号掲載	1930年			個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	276 水谷武彦	水谷自邸 立面図及屋根伏図	1947年頃	423×501	鉛筆	個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	— 清家 清	水谷の授業「構成原理」ノート	1936年頃	6'00"	映像	個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	279 水谷武彦	「構成原理」教材 (複製)	1945年以降、 2019年 (複製)	300×383×200	厚紙、糸 (2点)	個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	282 水谷武彦	二人	制作年不詳	845×590	油彩	個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	284 水谷武彦	無題	制作年不詳	600x800	グアッシュ	個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	285	グロピウス来日歓迎会冊子 (東京文化会館)	1954年	214×126	凸版印刷	個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	286 水谷武彦	「20世紀を飾ったパウハウス」原稿	1950年			個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	287 水谷武彦	「構成基礎教育 (2)」東京美術学校校 友会『校友会月報』第30巻第5号掲載	1931年	263×195		島田安彦コレクション
V	パウハウスの日本人学生	— 水谷武彦	(参考) 水谷武彦による紙工作の再現 「紙による構成はどれだけの重さを支え 得るか」(水谷「パウハウスの工作教育」 『美学研究』第5号 (1931年) 掲載)	1931年頃、 2019年 (再制作)	800×600	紙	ミサワホーム株式会社
V	パウハウスの日本人学生	— 水谷武彦	(参考) 水谷武彦による紙工作の再現 「穴を持った紙」(水谷「パウハウスの工作 教育」『美学研究』第5号 (1931年) 掲載)	1931年頃、 2019年 (再制作)	800×600	紙	ミサワホーム株式会社
V	パウハウスの日本人学生	— 水谷武彦	(参考) 水谷武彦による紙工作の再現 (水谷「パウハウスの工作教育」『美 学研究』第5号 (1931年) 掲載)	1931年頃、 2019年 (再制作)	800×600	紙	ミサワホーム株式会社
V	パウハウスの日本人学生	288 藤田 巖	工場地に建つ演劇研究所 卒業制作	1926年	1000×1030	油彩	東京藝術大学
V	パウハウスの日本人学生	289 藤田 巖	工場地に建つ演劇研究所 断面図 卒業制作 (23点組) より	1926年	各650×993	淡彩	東京藝術大学
V	パウハウスの日本人学生	290 山脇 巖	「パウハウスへの打撃」『国際建築』 1932年12月号掲載	1933年			武蔵野美術大学 美術館・図書館
V	パウハウスの日本人学生	— 藤田 巖 山脇 巖・道子	(参考) 工場地に建つ演劇研究所 卒業制作 工場地に建つ演劇研究所 断面図 卒 業制作 (23点組) より アルバム「パ ウハウスとパウハウスの人々 1931— 33、デッサン—ベルリン」(参考映像)	1926年 1931—33年	12'00"	映像	東京藝術大学 武蔵野美術大学 美術館・図書館
V	パウハウスの日本人学生	292 山脇 巖	園池公功著『ソヴェト演劇の印象』装丁	1933年	237×161×25	凸版印刷	ミサワホーム株式会社
V	パウハウスの日本人学生	293 山脇 巖	「住居と仕事場」『新建築』1935年8 月号掲載	1935年			個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	294 山脇 巖	「紐育万博国際館日本部」『国際建築』 1939年7月号掲載	1939年			個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	295 山脇 巖	『樺』アトリエ社	1942年	215×161×22	凸版印刷	個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	297 山脇 巖	舞台スケッチ「ベルダンの奇蹟」 第6場 ハンス・クルムベルク作	1932年	243×370	コラージュ、グア ッシュ、インク、 タイプした紙片 を貼付	個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	299 山脇 巖	舞台スケッチ「ホフマン物語」 第13場 ジャック・オフエンバック作	1932年	243×370	コラージュ、 インク	個人蔵
V	パウハウスの日本人学生	301 山脇 巖	銅管椅子 (峰邸)	1934年	785×430×655	スチールパイプ (座・背面は後補)	鎌倉遺産プロジェクト
V	パウハウスの日本人学生	302 山脇 巖	ドアハンドル (峰邸)	1934年	45×130×54	真鍮	鎌倉遺産プロジェクト
V	パウハウスの日本人学生	303 山脇 巖	煉瓦タイル (峰邸玄関)	1934年	60×225×20	珐瑯質タイル	鎌倉遺産プロジェクト

章番号	No.	作者	作品名	制作年	寸法(mm)	技法	所蔵
V パウハウスの日本人学生	304	山脇 巖	和田教授宛の手紙（海外消息）東京美術学校校友会『校友会月報』第31巻第3号掲載	1932年	263×197		島田安彦コレクション
V パウハウスの日本人学生		山脇道子	テキスタイルのサンプル	1931年頃	110 × 92		武蔵野美術大学美術館・図書館
V パウハウスの日本人学生	305	山脇道子	テキスタイルのサンプル	1931年頃	117 × 88		武蔵野美術大学美術館・図書館
V パウハウスの日本人学生		山脇道子	テキスタイルのサンプル	1931年頃	113 × 94		武蔵野美術大学美術館・図書館
V パウハウスの日本人学生	306	山脇道子	「とろけた東京」『アサヒカメラ』第16巻第2号掲載	1933年			個人蔵
V パウハウスの日本人学生	307	山脇道子	山脇道子 パウハウス手織物個展案内カード	1933年	145 × 94		武蔵野美術大学美術館・図書館
V パウハウスの日本人学生	308	表紙：山脇道子	『アサヒカメラ』1938年臨時増刊春の特別号	1938年	300×225		個人蔵
V パウハウスの日本人学生	309	山脇道子	みちこ・ておりき 購入案内	1934年頃	134 × 99		武蔵野美術大学美術館・図書館
V パウハウスの日本人学生	—	山脇道子	（参考）機織機と猫	1935年（オリジナル）	3000×1520mm（オリジナル）	毛織物（オリジナル）	
V パウハウスの日本人学生	312	大野玉枝	帯	制作年不詳	帯巾318 全長3590	綿、絹	個人蔵
V パウハウスの日本人学生	314	大野玉枝	帯	制作年不詳	帯巾303 全長2390	ウール、金糸	個人蔵
V パウハウスの日本人学生	316	大野玉枝	マフラー	制作年不詳	巾410 長さ1364	ウール	個人蔵

東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 美の競演－静岡県美名品展

2020年 6 月13日～ 6 月28日

※作品名のあとに＊印があるものは個人蔵、その他は当館所蔵品。

※作品名のあとに●印があるものは、1階エントランスの名品コーナーに展示。

番号	作家名	作品名	材質・技法	制作年	寸法 (cm) 平面：たて×よこ 立体：たて×よこ×奥行
第1・2室（日本洋画）					
1	徳川慶喜	風景	紙、油彩	1868－1877頃（明治初期）	31.0×45.0
2	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図	キャンヴァス、油彩	1876（明治9）以降	41.2×76.2
3	平木政次	富士	キャンヴァス、油彩	1897（明治30）	44.0×67.0
4	黒田清輝	富士之図（1）	板、油彩	1898（明治31）	25.0×33.0
5	黒田清輝	富士之図（2）	板、油彩	1898（明治31）	25.0×33.0
6	黒田清輝	富士之図（3）	板、油彩	1898（明治31）	25.0×33.0
7	黒田清輝	富士之図（4）	板、油彩	1898（明治31）	25.0×33.0
8	黒田清輝	富士之図（5）	板、油彩	1898（明治31）	25.0×33.0
9	黒田清輝	富士之図（6）	板、油彩	1898（明治31）	25.0×33.0
10	浅井忠	雲	紙、水彩	1903（明治36）頃	28.5×44.3
11	五姓田義松	富士	キャンヴァス、油彩	1905（明治38）	46.8×101.5
12	鹿子木孟郎	紀州勝浦	キャンヴァス、油彩	1910（明治43）	59.0×74.8
13	小出櫓重	静物	キャンヴァス、油彩	1917（大正6）	78.4×90.8
14	和田英作	富士	キャンヴァス、油彩	1918（大正7）	60.6×80.2
15	中澤弘光	風景（秋の湖畔）	キャンヴァス、油彩	1919（大正8）	137×212
16	川村清雄	巨岩海浜図	板、油彩	1912－26（大正期）頃	43.5×174.0
17	吉田博	上高地の春	キャンヴァス、油彩	1927（昭和2）	80.5×116.8
18	北川民次	タスコの祭	キャンヴァス、テンペラ	1937（昭和12）	178.1×267.0
19	須田国太郎	筆石村	キャンヴァス、油彩	1938（昭和13）	97.0×145.5
20	石川欽一郎	神域より天の香具山を望む	紙、水彩	1940（昭和15）頃	48.0×58.0
21	小糸源太郎	春雪	キャンヴァス、油彩	1953（昭和28）	83.0×116.0
22	海老原喜之助	かぜ	キャンヴァス、油彩	1954（昭和29）	162.2×131.0
23	鳥海青児	壁の修理	キャンヴァス、油彩	1959（昭和34）頃	79.5×116.0
24	香月泰男	冬島	キャンヴァス、油彩、方解末、墨	1965（昭和40）	90.9×60.6
25	曾宮一念	スペインの野	キャンヴァス、油彩	1968（昭和43）	73.0×91.0
26	高島達四郎	伊豆下田港	キャンヴァス、油彩	1976（昭和51）	53.0×65.3
第3・4室（西洋）					
1	パウル・ブリル●	エルミニアと羊飼いのいる風景	キャンヴァス、油彩	1620頃	74.5×106.7
2	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景	キャンヴァス、油彩	1630年代後半	99.7×133.3
3	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼	キャンヴァス、油彩	1669－71	68.5×49.5
4	サルヴァートル・ローザ	川のある山岳風景	キャンヴァス、油彩	1650年代後半	123.2×198.5
5	アールト・ファン・デル・ネール	森の風景	キャンヴァス、油彩	1645頃	128.3×160.0
6	ヤン・ファン・ホイエ	レーネン、ライン河越しの眺め	板、油彩	1648	66.0×96.5

番号	作家名	作品名	材質・技法	制作年	寸法 (cm) 平面：たて×よこ 立体：たて×よこ×奥行
7	ヤン・ファン・ケッセル	二人の狩猟者のいる森の風景	板、油彩	1660年代	51.4×82.9
8	ヤーコブ・ファン・ロイスタール	小屋と木立のある田舎道	キャンヴァス、油彩	1670年代	39.6×46.0
9	アレッサンドロ・マニャスコ	山道の行列	キャンヴァス、油彩	1716－17頃	186.5×157.0 (楕円)
10	クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海	キャンヴァス、油彩	1740頃	89.0×167.0
11	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォーリ	板、油彩	1761	39.1×43.8
12	フランソワ・ブーシェ	石橋のある風景	キャンヴァス、油彩	1764?	56.0×80.0
13	フランソワ・ブーシェ	水車のある風景	キャンヴァス、油彩	1764	61×78.8
14	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む	キャンヴァス、油彩	1765－67頃	98.4×125.8
15	トマス・ゲインズバラ	水を飲む馬のいる森の風景	灰青色の紙、白・黒・色 チョーク	1770年代後半	23.2×29.2
16	ジョン・ロバート・カズンズ	ポルティチからヴェスヴィオ山を望む	紙、水彩・鉛筆	1782	30.5×45.1
17	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立,日没	キャンヴァスに貼られた紙、油彩	1821	25.2×29.2
18	サミュエル・パーマー	ケント州、アンダーリヴァーのホップ畑	板、油彩、テンペラ	1833－34頃	19.0×26.0
19	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パッランツァ、マッジョーレ湖	紙、水彩	1846－48頃	36.8×54.0
20	ジャン＝ジョゼフ＝グザビエ・ビドー	山に見える牧歌的風景	キャンヴァス、油彩	1790年代	81.5×111.7
21	ジャン＝ヴィクトル・ベルタン	ディアナと水浴するニンフのいる古典的風景	ガラス、油彩	1797	12.0 (直径)
22	ジャン＝ヴィクトル・ベルタン	ナルキッソスのいる古典的風景	ガラス、油彩	1797	12.0 (直径)
23	アレクサンドル＝イアサント・デュヌイ	パリ、マドレーヌ大通りの窓からの眺め	板、油彩	1798－1805	20×27
24	アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼いの風景	キャンヴァス、油彩	1816	81×100
25	ビエール＝エティエンヌ＝テオドル・ルソー	ジュラ地方、草葺き屋根の家	キャンヴァスに貼られた紙、油彩	1834頃	22.9×32.1
26	ジャン＝バティスト＝カミユ・コロ	メリ街道、ラ・フェルテ＝ス＝ジュアール付近	板、油彩	1862	40.5×54.0
27	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの溪流	キャンヴァス、油彩	1865	75.0×90.0
28	ヨーハン＝バルトールト・ヨンキント	オンフルール近郊の街道	キャンヴァス、油彩	1866	58.4×78.4
29	クロード・モネ	ルーアンのセヌ川	キャンヴァス、油彩	1872	49.2×76.2
30	カミユ・ピサロ	ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ	キャンヴァス、油彩	1877	60.3×73.7
31	ポール・セザンヌ	ジャ・ド・ブーファンの大樹	紙、水彩、鉛筆	1885－87	32.5×50.0
32	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女	キャンヴァス、油彩	1889	73.3×92.1
33	ポール・シニャック	サン＝トロペ、グリモーの古城	キャンヴァス、油彩	1899	73.0×91.7
34	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家	キャンヴァス、油彩	1905	60.0×73.0
35	ジョアン・ミロ	シウラナの教会	キャンヴァス、油彩	1917	46.3×55.1
36	ファン・グリス	果物皿と新聞	キャンヴァス、油彩	1918	92.2×66.0
37	パウル・クレー	ホールC、エントランスR 2	厚紙に貼られた洋紙、油彩	1920	21.7×46.6
38	ハイム・スーチン	カーニュ風景	キャンヴァス、油彩	1923	60.0×72.4

番号	作家名	作品名	材質・技法	制作年	寸法 (cm) 平面：たて×よこ 立体：たて×よこ×奥行
第 5 室 現代美術					
1	モーリス・ルイス	ベス・アイン	キャンヴァス、アクリル	1958	232.0×333.0
2	草間彌生	無題 (No.White A.Z.)	キャンヴァス、油彩	1959 (昭和34)	232.5×359.0
3	元永定正	作品	キャンヴァス、油彩、 水性樹脂絵具	1963 (昭和38)	125.7×183.1
4	白髪一雄	屋島	キャンヴァス、油彩	1965 (昭和40)	182.0×227.0
5	田中敦子	1985A	綿布、アクリル系樹脂塗料	1985 (昭和60)	218.5×333.3
6	アンゼルム・キーファー	極光	写真、灰・焦げ跡のついた鉛、 上塗りした鉄のフレーム	1978-88	241.4×101.4
7	石田徹也	引き出し	キャンヴァス、アクリル	1996 (平成 8)	59.4×42.0
8	石田徹也	クラゲの夢	板、アクリル	1997 (平成 9)	103.0×145.6
9	石田徹也	市場	板、アクリル	1999 (平成11)	206.0×145.6
10	石田徹也	無題 8	キャンヴァス、アクリル、油彩	2005 (平成17)	91.0×116.7
11	加藤泉	無題	キャンヴァス、油彩	2005 (平成17)	91.0×60.3
12	村上隆	未知なる次元への旅立ち *	キャンヴァス、アルミフレーム、 アクリル、プラチナ箔	2016 (平成28)	180.0×240.0
第 6 ・ 7 室 日本画					
1		天平勝宝四年東大寺写経所請 経文〈重要文化財〉	紙本墨書	752 (天平勝宝 4)	29.4×40.6
2		天平四年山背国愛宕郡計帳断 簡〈重要文化財〉	紙本墨書	732 (天平 4)	30.4×50.6 (第一断簡) 30.6×50.8 (第二断簡)
3		古今和歌集巻第一断簡 (亀山切)	紙本墨書	11世紀 (平安時代) 書写	21.4×13.8
4	源師時 (藤原定家書写)	長秋記断簡	紙本墨書	13世紀 (鎌倉時代) 書写	28.5×48.7
5	藤原定家	明月記断簡	紙本墨書	1227 (嘉禄 3)	28.5×43.9
6	伝雲谷等顔	春夏山水図屏風〈重要文化財〉*	紙本金地着色	桃山時代	各152.5×354.8
7	海北友松	禅宗祖師・散聖図屏風 より片隻	紙本墨画	1613 (慶長18)	各図107.2×51.5 (総横368.6)
8	池玉瀾	溪亭吟詩図	紙本墨画着色	18世紀 (江戸時代)	58.0×125.0
9	池大雅	蘭亭曲水・龍山勝会図屏風 〈重要文化財〉	紙本着色	1763 (宝暦13)	各158.0×358.0
10	歌川広重	東海道五拾三次之内 (保永堂版) より	紙、木版、色刷	1833 (天保 4) 頃	
-1		日本橋 朝之景			25.2×37.1
-2		三島 朝霧			25.6×38.5
-3		蒲原 夜之雪			24.7×37.1
-4		鞠子 名物茶店			25.8×37.5
-5		土山 春之雨			25.5×38.7
-6		京都 三条大橋			25.5×38.0
11	小林清親	東京新大橋雨中図	紙、木版、色刷	1876 (明治 9)	24.2×35.8
12	小林清親	海運橋 (第一銀行雪中)	紙、木版、色刷	1876 (明治 9)	24.4×36.5
13	小林清親	今戸有明楼之景	紙、木版、色刷	1879 (明治12)	23.5×35.1
14	小林清親	高輪牛町臈月景	紙、木版、色刷	1879 (明治12)	24.5×36.7
15	小林清親	橋場の夕景	紙、木版、色刷	1880 (明治13)	23.8×35.0
16	小林清親	神田八雲神社暁	紙、木版、色刷	1880 (明治13)	24.2×35.9

番号	作家名	作品名	材質・技法	制作年	寸法 (cm) 平面：たて×よこ 立体：たて×よこ×奥行
17	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風	紙本着色	18世紀（江戸時代）	右137.5×355.6 左137.5×366.2
18	伊藤若冲	白象群獣図＊	紙本着色	18世紀（江戸時代）	122.9×73.1
19	円山応挙	木賊兎図	絹本着色	1786（天明 6）	104.5×42.0
20	長澤蘆雪	牡丹孔雀図	絹本着色	1793－99（寛政 5－11）	185.0×97.0
21	中林竹洞・山本梅逸・ 浦上春琴・小田海僊	鴨水十五景詩画冊＊	絹本墨画淡彩	1846（弘化 3）頃	各19.7×15.0
22	浦上玉堂	抱琴訪隠図	紙本墨画淡彩	1813（文化10）頃	112.0×62.8
23	浦上春琴	競秀争流図	絹本着色	1830（文政13）	55.6×121.0
24	谷文晁	連山春色図	絹本着色	1797（寛政 9）	154.4×91.3
25	谷文晁	富士山図屏風	紙本墨画群青引	1835（天保 6）	163.1×363.2
26	横山大観	群青富士	絹本着色	1917－18（大正 6－7）頃	各176.0×384.0
27	横山大観	春園の月	絹本墨画	1937－39（昭和12－14）	105.6×137.1
28	近藤浩一路	東山栗田口	紙本墨画	1925（大正14）	72.0×84.0
29	松岡映丘	今昔ものがたり伊勢図	絹本着色	1929（昭和 4）	85.5×143.3
30	中村岳陵	婉膩水韻	紙本着色	1931（昭和 6）	153.0×368.1
31	鐙木清方	朝顔日記	紙本淡彩	1939（昭和14）	詞書24.2×33.2ほか 絵24.6×33.7ほか
32	秋野不矩	廻廊	紙本金地着色	1984（昭和59）	151.3×101.0
33	秋野不矩	ウダヤギリⅡ	紙本着色	1992（平成 4）	135.0×240.0

みんなのミュシャ ミュシャからマンガへー線の魔術

2020年7月11日～9月6日

本リストでは、所蔵を次のように省略記号を表記 M=Mucha Foundation（ミュシャ財団所蔵）

P= Private Collection（個人蔵）、P*=オリジナルは個人蔵

本展では原画作品保護の観点から、日本のマンガ作品、グラフィック・アート作品（Nos. 157-194）は、一部複製展示とした。複製展示の作品は、作品タイトルの末尾複製）で表示。

* no. 104-bは、所蔵先の都合により展示されなかった。

No.	作家名	作品名	制作年
1. 序ーミュシャ様式へのインスピレーション Prologue - Inspirations for the Mucha Style			
1	アルフォンス・ミュシャ	磔刑図	1868年 M
2	アルフォンス・ミュシャ	ブルノ、ベトロフ教会聖歌隊の少年たち	1905年 M
3		カトリック儀式用振り香炉	19世紀 M
4		教会の説教壇用バナーーローマの高潔な殉教者、聖パラスケヴァ	19世紀 M
5		モラヴィアの伝統工芸：ガラス画「イエス・キリストと洗礼者ヨハネ」	19世紀 M
6		モラヴィアの民芸品：花柄の花瓶	20世紀初め M
7	アルフォンス・ミュシャ	花模様を施したチェコ民芸品のある静物画	1920年代 M
8	ハンス・マカルト	『マカルト・アルバム』（ウィーン、フランツ・ボンディ出版）	1880-1882年頃 M
9	フランティシェク・クプカ	ミュシャに宛てたパリのベセダ（チェコ文化フォーラム）からの任命書	1898年 M
10		『1896年10月5-9日シェルブール、パリ、シャロン：パリ市庁舎に集う群衆』（パリ、ル・タン出版／サンクトペテルブルク、ル・メーヴォー・タン出版）	1896-1897年頃 M
11		龍文七宝花瓶	19世紀後半 M
12		花鳥文七宝花瓶	19世紀後半 M
13		ヤドリギをモチーフとした浮き出し模様の真鍮製小箱	19世紀 M
14		中国製の刺繍：太鼓と雄鶏	19世紀 M
15	ジークフリート・ビング	月刊誌『芸術の日本』（パリ、シャルル・ジロー出版）	1888年
16	揚洲周延	温故東之花一旧失火際奥方御立退之図	1889年 M
17	オーウェン・ジョーンズ	仏語版『装飾の文法』図37、71	1865年 原本は、1856年 ロンドンにて刊行 M
18	ウィリアム・ホガース	《放蕩息子一代記》図7	1735年 M
2. ミュシャの手法とコミュニケーションの美学 The Art of Storytelling			
19	アルフォンス・ミュシャ	ミュシャ自画像、ミュンヘンのアトリエにて	1886年頃 M
20	アルフォンス・ミュシャ	ミュシャ自画像、パリのアトリエにて	1890年頃 M
21	アルフォンス・ミュシャ	『ファンタス』誌：表紙デザイン	1882年 M
22	アルフォンス・ミュシャ	風刺雑誌のためのページレイアウト	1880年代 M
23	アルフォンス・ミュシャ	風刺雑誌のためのページレイアウト、コマ割マンガ風	1880年代 M
24-a	アルフォンス・ミュシャ	カリカチュア	1882年 M
24-b	アルフォンス・ミュシャ	カリカチュア	1882年 M
25	アルフォンス・ミュシャ	『クロコディール』誌：タイトルロゴ	1885年 M
26	アルフォンス・ミュシャ	『クロコディール』誌：表紙デザイン	1888年 M
27	アルフォンス・ミュシャ	男性と手の動きを表す習作	1880年代後半 M
28	アルフォンス・ミュシャ	新聞売りの少年のスケッチ	1891年 M
29	アルフォンス・ミュシャ	自分の腕に頭を乗せて寄りかかる少女の習作	1890年代初め M
30	アルフォンス・ミュシャ	夜会服を着た男性の習作	1890年代初め M

No.	作家名	作品名	制作年
31	アルフォンス・ミュシャ	座る女性の習作	1890年代初め M
32	アルフォンス・ミュシャ	幻影：『ファウスト』の挿絵の習作	1888年頃 M
33	アルフォンス・ミュシャ	グザヴィエ・マルミエ（1808－1892）著『おばあちゃんのお伽話』（パリ、フェルヌ出版／ジュヴェ商会出版）	1892年 M
34	アルフォンス・ミュシャ	『おばあちゃんのお伽話』の口絵のための老婆の習作	1890－1891年頃 M
35	アルフォンス・ミュシャ	美しい宮殿：『おばあちゃんのお伽話』の挿絵の習作	1891年 M
36	アルフォンス・ミュシャ	シャルル・セニョボス（1854－1942）著『ドイツの歴史の諸場面とエピソード』（パリ、アルマン・コラン出版）	1898年 M
37	アルフォンス・ミュシャ	ヴァレンシュタインの暗殺：『ドイツの歴史の諸場面とエピソード』の挿絵の習作	1890年代半ば M
38	アルフォンス・ミュシャ	ゲーテとシラー：『ドイツの歴史の諸場面とエピソード』の挿絵の習作	1897年 M
39	アルフォンス・ミュシャ	シャルル・セニョボス著スペインの歴史の諸場面とエピソード』（未完）の挿絵の習作	1898年頃 M
40	アルフォンス・ミュシャ	エミール・ゲバール（1839 - 1908）著『クリスマスと復活祭を告げる鐘』（パリ、F. シャンプノワとH. ピアッツァ出版）	1900年 M
41-a,b,c,d	アルフォンス・ミュシャ	『クリスマスと復活祭を告げる鐘』：ルネット用の4つのスケッチ	1899 - 1900年頃 M
42-a	アルフォンス・ミュシャ	『レスタンプ・モデルヌ（現代版画）』誌・表紙（1897年11月号No.7／シャルル・マソンとH. ピアッツァ、F. シャンプノワ出版）	1897年 M
42-b	アルフォンス・ミュシャ	サロメ：『レスタンプ・モデルヌ（現代版画）』誌（1897年6月号No.2）	1897年 M
43	アルフォンス・ミュシャ	『ル・モワ（12カ月）：文芸と絵画表現』誌：1899年1「月号表紙デザイン	1898年 M
44	アルフォンス・ミュシャ	『ル・モワ（12カ月）：文芸と絵画表現』誌（1903年1月号－6月号）	1903年 M
45-a,b,c,d	アルフォンス・ミュシャ	『ル・モワ（12カ月）』誌：2月（未使用）、10月、11月、12月のデザイン	1899年 M
46	アルフォンス・ミュシャ	『イリュストラシオン』誌・表紙（1896－1897年クリスマス特別号／パリ、レダクション出版）	1896年 M
47	アルフォンス・ミュシャ	『オー・カルティエ・ラタン』誌・表紙（創刊6周年記念特別号／パリ、シュトラウス出版）	1898年 M
48	アルフォンス・ミュシャ	『オー・カルティエ・ラタン』誌・表紙（1900年クリスマス特別号／パリ、シュトラウス出版）	1900年 M
49	アルフォンス・ミュシャ	『ウィンナ・シック』誌・表紙（1905年1月号No.153／フィンケルシュタイン兄弟商会（在ウィーン、パリ、ベルリン、ロンドン）とS.ライナハ（在ニューヨーク）出版）	1904年 （表紙デザインは1902年） M
50	アルフォンス・ミュシャ	『ハースト・インターナショナル』誌・表紙（1922年1月号／ニューヨーク、ハースト・インターナショナル出版）	1921年 M
51	アルフォンス・ミュシャ	『ハースト・インターナショナル』誌・表紙（1922年5月号／ニューヨーク、ハースト・インターナショナル出版）	1922年 M

3.ミュシャ様式の「言語」 Le Style Mucha & Its Idiom

52	アルフォンス・ミュシャ	ジスモンダ	1894年 M
53	アルフォンス・ミュシャ	ロレンザッチオ	1896年 M
54	アルフォンス・ミュシャ	ハムレット	1899年 M
55	アルフォンス・ミュシャ	サラ・ベルナルを描いたランス香水「ロド」のポスター習作	1896年 M
56	アルフォンス・ミュシャ	サラ・ベルナル：立ち姿の習作	1896年頃 M
57-a	アルフォンス・ミュシャ	《ロレンザッチオ》のためのトルソー、ドレープ表現の習作	1896年 M
57-b	アルフォンス・ミュシャ	《ロレンザッチオ》のためのトルソー、腕、足の習作	1896年 M
58	アルフォンス・ミュシャ	ドレープ表現の習作	1890年代 M
59	アルフォンス・ミュシャ	ドレープ表現の習作	1890年代 M
60	アルフォンス・ミュシャ	サラ・ベルナル：彼女の崇拜者と友人からの敬意を表して	1896年 M
61	アルフォンス・ミュシャ	ロベール・ド・フレルス（1872 - 1927）著『トリボリの姫君イルゼ』プロモーション版・表紙	1897年 M

No.	作家名	作品名	制作年
62	アドルフ・アルマン・ト リュフィエ	ミュシャ作《遠国の姫君》に倣った照明器具	1900年頃 M
63	アルフォンス・ミュシャ	「遠国の姫君」に扮するサラ・ベルナール：「ルフェーヴル＝ユ ティル」ビスケット社 のためのポスター	1903年 M
64	アルフォンス・ミュシャ	ジョブ	1896年 M
65	アルフォンス・ミュシャ	サロン・デ・サン 第20回展	1896年 M
66	アルフォンス・ミュシャ	サロン・デ・サン ミュシャ展	1897年 M
67	アルフォンス・ミュシャ	リュイナール・シャンパ ン	1896年 M
68	アルフォンス・ミュシャ	トラピスティーヌ	1897年 M
69	アルフォンス・ミュシャ	「ルフェーヴル＝ユティル」ビスケット社：1897年用プロモーショ ン・カレンダー	1896年 M
70	アルフォンス・ミュシャ	黄道十二宮	1896年 M
71	アルフォンス・ミュシャ	夢想	1898年 M
72-a	アルフォンス・ミュシャ	絵画―連作〈四芸術〉より	1899年 M
72-b	アルフォンス・ミュシャ	詩―連作〈四芸術〉より	1899年 M
73	アルフォンス・ミュシャ	スラヴィア：プラハ、スラヴィア保険相互銀行のためのポスター	1907年 M
74-a	アルフォンス・ミュシャ	トパーズ―連作〈四つの宝石〉より	1900年 M
74-b	アルフォンス・ミュシャ	ルビー―連作〈四つの宝石〉より	1900年 M
74-c	アルフォンス・ミュシャ	アメジスト―連作〈四つの宝石〉より	1900年 M
74-d	アルフォンス・ミュシャ	エメラルド―連作〈四つの宝石〉より	1900年 M
75-a	アルフォンス・ミュシャ	崖に咲くヒース	1902年 M
75-b	アルフォンス・ミュシャ	浜辺のアザミ	1902年 M
76	アルフォンス・ミュシャ	カサン・フィス印刷所	1896年 M
77	アルフォンス・ミュシャ	ベネディクション	1898年 M
78	アルフォンス・ミュシャ	アーメン：『主の祈り』の最終ページ（パリ、H. ピアッツァ出版）	1899年 M
79	アルフォンス・ミュシャ	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』のためのデザイン	1900―1901年頃 M
80-a	アルフォンス・ミュシャ	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』図6（リブレリー・ サントラル・デ・ボザール出版）	1901年 M
80-b	アルフォンス・ミュシャ	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』図18（リブレリー・ サントラル・デ・ボザール出版）	1901年 M
80-c	アルフォンス・ミュシャ	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』図42（リブレリー・ サントラル・デ・ボザール出版）	1901年 M
80-d	アルフォンス・ミュシャ	『鏡によって無限に変化する装飾モチーフ』図54（リブレリー・ サントラル・デ・ボザール出版）	1901年 M
81-a	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図13（リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版）	1902年 M
81-b	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図33（リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版）	1902年 M
81-c	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図46（リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版）	1902年 M
81-d	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図47（リブレリー・サントラル・デ・ボザール出版）	1902年 M
82	アルフォンス・ミュシャ	三つの季節：春、夏、冬	1898年頃 M
83-a	アルフォンス・ミュシャ	『装飾人物集』（1905年）図3の最終習作	1904年 M
83-b	アルフォンス・ミュシャ	『装飾人物集』（1905年）図20の最終習作	1904年 M
83-c	アルフォンス・ミュシャ	『装飾人物集』（1905年）図26の最終習作	1904年 M
84	アルフォンス・ミュシャ	バレエの動きを捉えた習作	1901年頃 M
85	アルフォンス・ミュシャ	裸婦の習作	1901年頃 M

No.	作家名	作品名	制作年
86	アルフォンス・ミュシャ	走る少年の習作	1895年 M
87	アルフォンス・ミュシャ	ストレッチをする男性の習作 2 点	1895年頃 M
88	アルフォンス・ミュシャ	後ろに体を曲げる男性の習作	1910年頃 M
89	アルフォンス・ミュシャ	歩く女性の習作	1900年頃 M
90	アルフォンス・ミュシャ	冬の景色の中にいる少女	1900年頃 M
91	アルフォンス・ミュシャ	聖夜	1900年頃 M
92	アルフォンス・ミュシャ	『クリスマスと復活祭を告げる鐘』のための男性の頭部習作（カリカチュア風）	1900年 M
93	アルフォンス・ミュシャ	邪悪の寓意（スラヴ民族を襲撃する敵）〈スラヴ叙事詩〉第20番《究極のスラヴ民族》（1926年）の習作	1926年頃 M
94	アルフォンス・ミュシャ	チェコの音楽界のパンテオン：ポスター／カレンダー	1929年 M
95	アルフォンス・ミュシャ	闘志（ヤン・ジシュカ）：市長ホールのペンデンティブ画のための大型習作	1911年 M
96-a	アルフォンス・ミュシャ	正義（ヤン・フス）：市長ホールのペンデンティブ画のための習作	1911年 M
96-b	アルフォンス・ミュシャ	不屈さ（ドゥペーのロハーチ）：市長ホールのペンデンティブ画のための習作	1911年 M
96-c	アルフォンス・ミュシャ	警戒（ホドヴェー）：市長ホールのペンデンティブ画のための習作	1911年 M
96-d	アルフォンス・ミュシャ	独立（ボジェブラットのイエジ）：市長ホールのペンデンティブ画のための習作	1911年 M

4. よみがえるアール・ヌーヴォーとカウンターカルチャー Art Nouveau Revival & Counterculture

97	アルフォンス・ミュシャ	椿姫	1896年
98	アルフォンス・ミュシャ	ユリー連作〈4つの花〉より	1898年
99	アルフォンス・ミュシャ	ジョブ	1898年
100	アルフォンス・ミュシャ	舞踏—連作〈四芸術〉より	1898年
101	アルフォンス・ミュシャ	ツタ	1901年
102-a	アルフォンス・ミュシャ	『主の祈り』第7節の見出しページ	1899年
102-b	アルフォンス・ミュシャ	『主の祈り』第7節の寓意画	1899年
103-a	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図8	1902年
103-b	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図10	1902年
103-c	アルフォンス・ミュシャ	『装飾資料集』図45	1902年
104-a	アルフォンス・ミュシャ	北極星—連作〈月と星〉より	1902年
104-b	アルフォンス・ミュシャ	明けの明星—連作〈月と星〉より	1902年
105-a	ジャケット・デザイン：ハプシュ&ザ・カラード・コート	「スーパーナチュラール・フェアリィ・テイルス」（アート／アイランド・レコード）	1967年
105-b	ジャケット・デザイン：マルドウィン・トゥーティル	「ゴーン・トゥ・アース」（バークレイ・ジェイムス・ハーヴェスト／ポリドール）	1977年
105-c	ジャケット・デザイン：ボブ・マス	「ザ・コレクターズ」（ザ・コレクターズ／ワーナー・ブラザーズ = セヴン・アーツ・レコード）	1968年
105-d		「ザ・サン、ムーン & ハーブス」（ドクター・ジョン／アトコ・レコード）	1971年
105-e	ジャケット・デザイン：リック・グリフィン	「アオクソモクソア」（グレイトフル・デッド／ワーナー・ブラザーズ = セヴン・アーツ・レコード）	1969年
105-f	ジャケット・デザイン：オールトン・ケリー	ライブ盤「スカル&ローゼズ」（グレイトフル・デッド／ワーナー・ブラザーズ・レコード）	1971年
105-g	ジャケット・デザイン：ヒュー・ブラウン	「ブルース・フォー・アラー」（グレイトフル・デッド／グレイトフル・デッド・レコード）	1975年
105-h	ジャケット・デザイン：クレイグ・ブラウン	「ジプシー」（ジプシー／メトロメディア・レコード）	1970年

No.	作家名	作品名	制作年
105-i	ジャケット・デザイン： バーニー・バブルス	「スペース・リチュアル（宇宙の祭典）」（ホークウインド／ユナイ テッド・アーティストズ・レコード）	1972年
105-j	ジャケット・デザイン： ザ・フル（マライケ・ コウガー）	「ザ・ファイヴ・サウザンド・スピリッツ・オア・ザ・レイヤーズ・オブ・ ジ・オニオン」（インクレディブル・ストリング・バンド／エレクトラ）	1967年
105-k	ジャケット・デザイン： ピート（ピーター）・シ ンフィールド	「リザード」（キング・クリムゾン／アトランティック）	1970年
105-l		「ザ・ファースト・モニュメント」（モニュメント（ツィオール） ／ビーコン・レコード、1971年；ブラック・ウィドウ・レコード （限定版）、イタリア、2000年）	2000年（初版は1971年） M
105-m		「エミリー・スモールの遥かなる世界」（ピカデリー・ライン（の ちのエドワーズ・ハンド）／CBS、1967年；ライトニング・ツリー・ レコード（再発版）、イギリス、2006年）	2006年（初版は1967年） M
105-n	ジャケット・デザイン： トム・ウィルクス	「フラワーズ」（ザ・ローリング・ストーンズ／ロンドン・レコード）	1967年 M
105-o	ジャケット・デザイン：ディ ーン・トレンス／キティーホ ーク・グラフィックス	「レット・ザ・サンシャイン・イン」（ダイアナ・ロスとザ・ス プリームズ／タムラ・モータウン）	1969年 M
105-p	ジャケット・デザイン： ジム・フィッツパトリック	「ジョニー・ザ・フォックス」（シン・リジィ／ヴァーティゴ）	1976年 M
105-q		「フーターロール？」（ハワード・ウェルズ&ジェリー・ガルシ ア／ダグラス、CBS）	1971年 M
105-r	ジャケット・デザイン： ロジャー・ディーン	「イエスソングス」（イエス／アトランティック）	1973年 M
106	バーニー・バブルズ	ホークウインド「ラブ&ピース」（ユナイテッド・アーティスト・ レコード）（ホークウインドのための宣伝用ポスター）	1974年（初版） M
107	デヴィッド・エドワード・バード	ザ・ローリング・ストーンズ コンサート（1969年のツアーのためのポスター）	1969年（初版） M
108	デヴィッド・エドワード・バード	ジーザス・クライスト・スーパースター	1971年（初版） M
109	デヴィッド・エドワード・バード	ニューヨーク、トリトン・ギャラリーでの個展 —ダンディーとし てのセルフポートレート バード（個展のための宣伝用ポスター）	1971年（初版） M
110	マライケ・コウガー	ラヴ・ライフ	1966年 M
111	ザ・フルとマライケ・コウガー	ブック・ア・トリップ	1967年（第2刷） M
112	ハプシャシュ&ザ・カラード・コ ート（マイケル・イングリッシュ& ナイジェル・ウェイマス）	ジミ・ヘンドリックス・エクスペリエンス コンサート（1967年6 月20-26日、フィルモア・オーディトリウム）	1967年 M
113	ハプシャシュ&ザ・カラード・コ ート（マイケル・イングリッシュ& ナイジェル・ウェイマス）	ピンク・フロイド コンサート（1967年7月28日、CIA-UFO クラブ）	1967年 M
114	ハプシャシュ&ザ・カラード・コ ート（マイケル・イングリッシュ& ナイジェル・ウェイマス）	ピンク・フロイド、ジミ・ヘンドリックス コンサート（1967年10 月1日&8日、サヴィル・シアター）	1967年 M
115	ボブ・マス	ドアーズ コンサート（1967年7月20-22日、ヴィクトリア・アリー ナ、ヴィクトリア／ダンテズ・インフェルノ、ヴァンクーヴァー、 ブリティッシュ・コロンビア州）	1967年 M
116	ボブ・マス	フィッシャーウーマン	1967年 M
117	ボブ・マス	キャンド・ヒート：2005年ワールド・ブギ・ツアー	2005年（初版） M
118	スタンレー・マウス&オー ルトン・ケリー	ジェファーソン・エアブレイン コンサート（1966年11月6日、フィ ルモア・オーディトリウム）	1980年代 （第2刷／初版は1966年） M
119	スタンレー・マウス&オー ルトン・ケリー	ジム・クウェスキンのジャグ・バンド コンサート（1966年10月7- 8日、アヴァロン・ボールルーム）／サンフランシスコ、バインド ウィード・プレスによるオリジナル版	1966年頃（第3刷） M
120	スタンレー・マウス&オー ルトン・ケリー	グレイトフル・デッド コンサート（1967年1月27-28日、アヴァ ロン・ボールルーム）	1967年（第2刷） M
121	ウェス・ウィルソン	ザ・サウンド：ジェファーソン・エアブレイン／マディ・ウォーター ズ、1966年9月23、24、30日&10月1日、ウィンターランド／バタ ーフィールド・ブルース・バンド、1966年9月25日&10月2日、フィ ルモア・オーディトリウム	1966年（第3刷） M

No.	作家名	作品名	制作年
122	ハプシュ&ザ・カラード・コート (マイケル・イングリッシュ& ナイジェル・ウェイマス)	『オズ』誌 No. 4 (1967年6月) 折込ポスター	1967年 M
123	マーティン・シャープ	『オズ』誌 No. 7 (1967年10月) 表紙 (ボブ・ディラン特集)	1967年 M
124	クリス・バチャロ	『ニュー・アベンジャーズ』(Vol. 11, No.52A/マーベル・コミックス)	2005年 M
125	ジョン・タイラー・クリ ストファー	『ノヴァ』(No.36B/マーベル・コミックス)	2007年 M
126	アレー・ガルザ	『デジャー・ソリス&火星の白い猿』(No. 1 / ダイナマイト・エ ンターテイメント)	2012年 M
127	表紙デザイン:マイケル・ ウィリアム・カルータ	『ザ・グランド・アドベンチャー:SFの名作』(パークレー・ブックス) 表紙	1984年 M
128-a,b	表紙デザインと挿絵:マイケ ル・ウィリアム・カルータ	『マイ・ネーム・イズ・パリス』(ミステリーシリーズ4巻本のう ち2冊/ランダムハウス)	1987年 M
129	マイケル・ウィリアム・ カルータ	『ヘッジ・ナイト』(No.1B / イメージ・コミックス)	2003年 M
130	表紙デザイン:マイケル・ ウィリアム・カルータ	『バーム・イン・ギリアド』(グースツリー・プレス、マインドワーム・プレス)	2007年 M
131	テリー・ムーア	『ストレンジャーズ・イン・パラダイス』(Vol. 3, No. 52/アブ ストラクト・ステュディオ)	1996年 M
132	テリー・ムーア	『ストレンジャーズ・イン・パラダイス』(Vol. 3, No. 53/アブ ストラクト・ステュディオ)	1996年 M
133	リチャード・オルティス	『レディ・デス』(No.21、オースティン VIP エディション/ア バタープレス)	2014年 M
134	ジョー・ケサダ	『ニンジャック』(Vol. 1, No. 3/ヴァリエント・コミックス)	1994年 M
135	ジョー・ケサダ	『デアデビル』(No. 5/マーベル・コミックス)	1998年 M
136	ジョー・ケサダ	『ウルヴァリン:オリジンズ』(No. 5A / マーベル・コミックス)	2006年 M
137-a	バリー・ウィンザー = スミス	ガイア:『シビュラ』図版1	1979年 M
137-b	バリー・ウィンザー = スミス	ファイヤー:『シビュラ』図版3	1979年 M
5.マンガの新たな流れと美の探究 The Manga Style - the line of beauty			
138	アルフォンス・ミュシャ	トスカ	1899年 M
139	アルフォンス・ミュシャ	アカデミー・コラロッシ「ミュシャ講座」	1900年 M
140	アルフォンス・ミュシャ	『ラ・プリュム』誌 (No.197、1897年7月1日発行) -ミュシャ特集号	1897年 M
141	表紙デザイン:藤島武二	『みだれ髪』(与謝野晶子)	復刻版(日本近代文学館、 1968年) M
142-a	表紙デザイン:一條成美	『明星』(明治33年第7号)	1900年 P
142-b	表紙デザイン:藤島武二	『明星』(明治34年第11号)	1901年 P
142-c	表紙デザイン:藤島武二	『明星』(明治35年第7号)	1902年 P
142-d	表紙デザイン:藤島武二	『明星』(明治35年第7号)	1902年 P
143-a	表紙デザイン:一條成美	『新声』(明治35年第7編第1号)	1902年 P
143-b	表紙デザイン:本田穆堂	『新声』(明治35年第14編第2号)	1902年 P
144-a	表紙デザイン:石川寅治	『新古文林』(明治38年第1巻第3号)	1905年 P
144-b	表紙デザイン:山下繁雄	『新古談叢』(明治38年『新古文林』臨時増刊第1巻第4号)	1905年 P
145	表紙デザイン:織田東禹	『文章世界』(明治39年第1巻第1号)	1906年 P
145-b	表紙デザイン:橋本邦助	『文章世界』(明治40年第2巻第7号)	1907年 P
146	アルフォンス・ミュシャ	民衆美術協会	1897年 M
147	アルフォンス・ミュシャ	メディア	1898年 M
148	アルフォンス・ミュシャ	モナコ・モンテカルロ	1897年 M

No.	作家名	作品名	制作年
149	アルフォンス・ミュシャ	《モナコ・モンテカルロ》：構図のための習作	1897年 M
150	アルフォンス・ミュシャ	《詩ー連作〈四芸術〉より》：輪郭習作	1898年 M
151	アルフォンス・ミュシャ	《遠国の姫君に扮するサラ・ベルナル》：サラ・ベルナル劇場を飾る装飾パネル（1899年）、『装飾と芸術ー現代芸術の月刊誌』（7号、1900年）の掲載図版	1899年頃 M
152	アルフォンス・ミュシャ	《花》：習作	1897年 M
153	アルフォンス・ミュシャ	《睡蓮》：装飾パネルのための習作	1898年 M
154	アルフォンス・ミュシャ	《パリ・フランス》：債券デザイン	1900年頃 M
155	アルフォンス・ミュシャ	『装飾人物集』（1905年）図36の最終習作	1904年 M
156	アルフォンス・ミュシャ	ヒヤシンス姫	1911年 M
157-a,b,c	水野英子	「ファイヤー!」（『週刊セブンティーン』1969年1号ー1971年28号連載・雇用イラスト／集英社）（複製）	オリジナル：1969年1月ー1971年 P
158	水野英子	「トリスタンとイゾルデ」（『月刊セブンティーン』1975年1月号絵物語／集英社）（複製）	オリジナル：1975年 P
159	水野英子	「オンディース」（音楽劇LPレコード『星のオンディース』折込ポスター用イラスト）	1981年 P
160	水野英子	「エリザベート」（月刊『CREA』1993年11月号ー1996年2月号連載・雇用イラスト／文藝春秋）（複製）	オリジナル：1993年11月ー1996年2月 P
161	水野英子	《シェヘラザード》（ロシアのパレエダンサー、ファルフ・ルジマトフのイメージ）（複製）	オリジナル：2003年 P
162	山岸凉子	「ティンカー・ベル（『デラックスマーガレット』1973年8月号の号雇用イラスト／集英社）（複製）	オリジナル：1973年 P*
163	山岸凉子	《真夏の夜の夢》「アラベスク」（『花とゆめ』1975年4月9号付録ポスター用イラスト／白泉社）（複製）	オリジナル：1975年 P
164	山岸凉子	「黒のヘレネー」（『花とゆめ』1979年9月11号雇用イラスト／白泉社）	1979年 P*
165	山岸凉子	《迦陵頻伽》『日出処の天子』（『LaLa』1980年11月号雇用イラスト／白泉社）（複製）	オリジナル：1980年 P*
166	山岸凉子	《孔雀に乗った王子》『日出処の天子』（『LaLa』1984年6月号雇用イラスト／白泉社）（複製）	オリジナル：1984年 P*
167	山岸凉子	《ドン・キホーテ》『テレブシコーラ／舞姫』6巻表紙用イラスト／メディアファクトリー KADOKAWA）（複製）	オリジナル：2004年 P*
168	花郁悠紀子	「夢ゆり育て」雇用イラスト（『ビバプリンセス』1977年秋の号／秋田書店）（複製）	オリジナル：1977年 P*
169	花郁悠紀子	「不死の花」（『プリンセス』1979年8月号／秋田書店）（複製）	オリジナル：1979年P
170	花郁悠紀子	木花佐久也（複製）	オリジナル：1979年P*
171	花郁悠紀子	『夢ゆり育て』（秋田書店・プリンセスコミックス）カバーイラスト	1980年
172	松苗あけみ	《ピンクフレグランス》（『月刊ぶ〜け』懸賞カレンダー用イラスト／集英社）	1980年代初め
173	松苗あけみ	《星座の少女》（『月刊ぶ〜け』1989年9月号表紙用イラスト／集英社）（複製）	オリジナル：1989年P
174	松苗あけみ	《黒と菊の扇子》（『月刊ぶ〜け』1991年2月号表紙用イラスト／集英社）（複製）	オリジナル：1990年 P*
175	松苗あけみ	《青空とチュリップロマンスの王国》（『月刊ぶ〜け』1991年4月号表紙用イラスト／集英社）（複製）	オリジナル：1991年 P*
176	松苗あけみ	《小さな玉座の百合》（『月刊ぶ〜け』ロ絵用イラスト／集英社）（複製）	オリジナル：1996年 P*
177	松苗あけみ	《フラワーマジシャン》『松苗あけみぬり絵漫画家生活30周年記念』表紙用イラスト／宙出版）（複製）	オリジナル： 2007年 P*
178	波津彬子	「牡丹灯籠」雇用イラスト（『メヌエット』1989年3号／大陸書房）（複製）	オリジナル： 1989年 P*
179	波津彬子	「秋霖の忌」雇用イラスト（『Mystery I』1991年Vol.16／宙出版）	1991年 P*
180	波津彬子	『夜のやさしい手』（白泉社・ジェットコミックス）カバーイラスト（複製）	オリジナル： 1999年 P*
181-a,b,c	波津彬子	『星のファンタジー1・2・3』（幻冬舎コミックス）カバーイラスト（複製）	オリジナル： 2005年 P*

No.	作家名	作品名	制作年
182	波津彬子	「海神別荘」(「鏡花幻想波津彬子原画展」ポスター用イラスト／泉鏡花記念館)(複製)	オリジナル： 2007年P
183	天野喜孝	幻夢宮	1986年 P*
184	天野喜孝	キルケ (複製)	オリジナル： 1986年 P*
185	天野喜孝	黎明ー白虹 (複製)	オリジナル： 1987年 P*
186	天野喜孝	騎神来たりぬ (複製)	オリジナル： 1987年 P*
187	天野喜孝	『アルスラーン戦記2 王子二人』(田中芳樹著／角川書店) のためのイラスト (複製)	オリジナル： 1987年 P*
188	天野喜孝	ファイナルファンタジーXIV嵐神と冒険者 (複製)	オリジナル： 2010年 P
189	出渕裕	《聖戦》「ロードス島戦記」(月刊『ニュータイプ』1990年11月号付録ポスター用イラスト／角川書店 (複製))	オリジナル： 1990年 P
190	出渕裕	《睡り》ロードス島戦記」(アニメ「ロードス島戦記」レーザーディスクvol. 2ジャケット画) (複製)	オリジナル： 1991年 P*
191ーa,b,c	出渕裕	《森の乙女ディードリット》「ロードス島戦記」(アニメカタログ誌・綴込付録ポスター用イラスト) a：原画 b：影指定原画 c：セル画 (複製)	オリジナル： 1992年 P*
192	出渕裕	《吟遊詩人の記憶》「ロードス島戦記」(ロードス島戦記スペシャルCDパッケージ用カバーイラスト／角川書店)	1992年 P*
193	出渕裕	《ディードリット》「ロードス島戦記」(1995年「出渕裕ロードス島戦記」カレンダー用イラスト／角川書店) (複製)	オリジナル： 1994年 P*
194	出渕裕	『ANAMロードス島戦記』(出渕裕ロードス島戦記画集表紙用イラスト／角川書店) (複製)	オリジナル： 1999年 P*

パラレル・ヒストリーズ 現代アートの諸潮流

2020年11月21日～2021年 1 月11日

※テーマごとに、作者名を五十音順、アルファベット順に記載

* 印のあるものは個人蔵、その他は静岡県立美術館蔵

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1 絵画という難問				
石田徹也	クラゲの夢	1997	板、アクリル	103.0×145.6
磯辺行久	WORK62-46	1962	ミクスト・メディア	181.5×136.0
草間彌生	無題 (No.White A.Z.)	1959	キャンヴァス、油彩	232.5×359.0
斎藤義重	作品 2	1960	合板、油彩 (ドリルを使用)	169.0×109.0
辰野登恵子	Black-85M-1	1985	紙、木炭	113.0×130.0
吉原治良	work	1959	キャンヴァス、油彩	162.0×130.0
依田寿久	無題 No.3	1980	キャンヴァス、油彩	153.0×367.0
李禹煥	線より	1979	キャンヴァス、岩絵具、にかわ	182.0×227.0
アンゼルム・キーファー	極光	1978-88	写真、灰・焦げ跡のついた鉛、上塗りした鉄のフレーム	241.4×101.4
ジョアン・ミッチェル	湖	1955頃	キャンヴァス、油彩	203.2×254.5
* ジュリアン・オピー	Tartan skirt swing left	2007	ビニール、木枠	229.0×122.6×4.0
2 空間とのかかわり				
磯辺行久	パラシュート・キャノピー	1969	紙、シルクスクリーン	92.0×186.0
川俣正	袋井駅前プロジェクト1988	1988	ベニヤ板、バルサ材、アクリル絵の具、鉛筆、紙、ビニール、ゼラチン・シルヴァー・プリントなど	122.0×190.0×57.0ほか
白井嘉尚	シャーベットのよう	1987	パルプ、黄ボール紙、塩化ビニール板、ポスターカラー、油性ペイント	129.7×109.7×10.4
関根伸夫	位相ー大地 1	1986	紙、シルクスクリーン	99.0×200.0
宮脇愛子	作品	1986	真鍮	119.0×115.0×17.5
3 地面と重力				
* 大庭大介	ONE	2017	アクリル、ガチョウの殻、綿布、パネル	120.0×120.0×4.5
小池一誠	石	1970	石	展示した状態で 40.0×190.0×39.0
白髪一雄	屋島	1965	キャンヴァス、油彩	182.0×227.0
関根伸夫	石をつる	1975	紙、シルクスクリーン	63.3×45.5
関根伸夫	円いひも	1975	紙、シルクスクリーン	63.0×45.5
関根伸夫	プロジェクト クレムリン	1977	紙、エッチング	66.0×50.0
関根伸夫	プロジェクト 立ち木	1977	紙、エッチング	66.0×50.0
関根伸夫	プロジェクト ローマ	1977	紙、エッチング	66.0×50.0
関根伸夫	石のベクトル	1982	紙、リトグラフ	90.0×63.0
名和晃平	Direction #23	2012	キャンヴァス、ペンキ	250.0×200.0×6.0
元永定正	作品	1963	キャンヴァス、油彩、水性樹脂絵具	125.7×183.1
カール・アンドレ	鉛と亜鉛のスクエア	1969	鉛、亜鉛	各0.8×20.0×20.0 (0.8×200.0×200.0)
モーリス・ルイス	ベス・アイン	1958	キャンヴァス、アクリル	232.0×333.0

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
4 アートの断捨離				
河原温	JAN.24, 1982. "Sunday." "TODAY" Series No.6, 1982.	1982	キャンヴァス、アクリル	20.3×25.4
清川泰次	Painting No.427980	1979-80	キャンヴァス、アクリル	193.9×259.1
桑山忠明	無題 (黒)	1961	キャンヴァス、アクリル	173.0×344.5
高松次郎	These Three Words	1970頃	紙、シルクスクリーン	78.5×54.4
中里斉	Coe-Arezzo71	1985	キャンヴァス、アクリル	214.0×346.0
ジョゼフ・アルバース	正方形頌	1957-60	メゾナイト、油彩	56.0×56.0
ドナルド・ジャッド	無題	1961-69	和紙、木版	54.0×42.0
ドナルド・ジャッド	無題	1990	黒のアノダイズド・アルミニウム、ブロンズ色のプレキシグラス (10ユニット)	各15.2×68.5×61.0
ジョゼフ・コスース	タイトルド, 雨	1967	アルミニウム、ゼラチン・シルヴァー・プリント	120.0×120.0
リチャード・セラ	Du Conmo	1972	紙、リトグラフ	130.0×103.0
フランク・ステラ	旗を高く! (「ブラック・シリーズ I」より)	1967	紙、リトグラフ	38.9×55.6
フランク・ステラ	道理と無秩序の結婚 (「ブラック・シリーズ I」より)	1967	紙、リトグラフ	38.2×55.6
フランク・ステラ	ゲッティ廟 (「ブラック・シリーズ I」より)	1967	紙、リトグラフ	39.0×55.6
5 見ることの不思議				
飯田昭二	Half and Half	1968	鳥籠、靴、鏡	48.4×50.0×50.1
飯田昭二	Half and Half	1969	鳥かご、ピンポン球、鏡	19.3×20.0×20.1
遠藤享	SPACE AND SPACE<BOTTLE>	1979	紙、オフセット、リトグラフ	45.0×45.0
遠藤享	SPACE AND SPACE<GRAPEⅢ>	1986	紙、オフセット、リトグラフ	45.0×45.0
* 大庭大介	THE BATTLE STAGE	2016	アクリル、綿布、パネル	180.0×180.0×4.5
* 大庭大介	RING	2016	アクリル、綿布、パネル	180.0×180.0×4.5
斎藤智	Untitled A	1976	紙、シルクスクリーン	63.5×74.5
斎藤智	Untitled B	1976	紙、シルクスクリーン	60.0×74.0
斎藤智	Untitled C	1976	紙、シルクスクリーン	60.8×74.3
嵯峨篤	Repose/009-017	2008	MDF、ウレタンコート (9枚組)	各41.5×41.5×3.3-4.7
嵯峨篤	Inside/004 (4 (松風))	2016	フィンランドバーチ合板、ウレタン塗装	91.0×91.0×7.0
嵯峨篤	Inside/006 (6 (夕顔))	2016	フィンランドバーチ合板、ウレタン塗装	91.0×91.0×7.0
鈴木慶則	〈内乱のきざし〉の相貌をおびた 非在のタブロー	1967	木、キャンヴァス、油彩	130.6×130.6
鈴木慶則	非在のタブロー 梱包されたオダリスク	1968	ミクスト・メディア (キャンヴァス、油彩ほか)	125.3×189.5×21.5
高松次郎	布の弛み	1969	帆布	360.0×360.0
前田守一	遠近のものさし	1967	木、塗装	90.0×166.0
前田守一	遠近のものさし	1967	木、塗装	91.9×178.5
前田守一	遠近のものさし (折り尺)	1967	プラスチック、塗料	65.7×493.0×3.8 (広げた状態)
* アニシュ・カプーア	Monochrome (Garnet)	2015	FRP、塗料	188.0×188.0×39.0
* ヴィクトル・ヴァザルリ	Penta-dell	1973/1976	キャンヴァス、油彩	200.0×200.0
* ヴィクトル・ヴァザルリ	Boreal-F	1974/1976	キャンヴァス、油彩	194.0×194.0

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
6 テクノロジー				
郭徳俊	フォードと郭	1974	紙、リトグラフ	47.2×34.2
郭徳俊	ブッシュ2001と郭	2002	紙、シルクスクリーン	54.0×36.3
郭徳俊	オバマと郭	2009	紙、シルクスクリーン	51.6×36.8
中村宏	早来迎機・1	1988	キャンヴァス、アクリル、マジックペン	112.0×162.0
中村宏	早来迎機・2	1988	キャンヴァス、アクリル、マジックペン	112.0×162.0
中村宏	早来迎機・3	1988	キャンヴァス、アクリル、マジックペン	112.0×162.0
中村宏	総銅製機甲本イカルス	1973	銅版、銅凸版	30.0×21.0×8.5
* 名和晃平	PixCell-Deer#47	2016	ミクストメディア	136.1×69.5×58.5
宮島達男	LIFE (complex system) - no.1	2017	LED、IC、イケガミプログラムのマイコン、電気ワイヤ、赤外線センサー、アクリル板、アルミニウムハニカムパネル、ステンレススチールフレーム	200.2×320.4×13.3
森万里子	Cycloid IV	2015	アルミニウム、塗料、ラッカー	195.5×120.7×137.0
吉仲太造	赤い電話	1968	キャンヴァス、油彩	98.0×111.5
吉仲太造	遺産	1966	パネル、新聞紙、鉛筆、銀粉	168.0×122.0
* グレン・アーモンド	LIKE LOVE WE SELDOM KEEP	2015	ブロンズ、塗料	20.0×165.0×3.0
ジェームズ・ローゼンクイスト	F-111 (南,西,北,東)	1974	紙、リトグラフ、シルクスクリーン	91.0×738.0

収蔵品展

■は個人蔵、他はすべて当館所蔵品

新収蔵品展

4月7日(火)～5月31日(日)

No.	作者名	作品名
1	狩野養信	竹雀図屏風
2	狩野雅信	伊豆浦黒船来港図
3	狩野養信	東方朔・山水図
4	狩野雅信	花鳥図 ★
5	伊藤隆史	壁ノ鳥 ★
6	伊藤隆史	生き物
7	伊藤隆史	現代人A
8	伊藤隆史	現代人
9	伊藤隆史	生き物
10	横尾忠則	CLEAR LIGHT MAY (東京プランニング) ★
11	中村宏	総銅製機甲本イカルス ★
12	中村宏	早来迎機・1
13	中村宏	早来迎機・2 ★
14	中村宏	早来迎機・3 ★
15	白井嘉尚	シャーベットのよう に ★
16	白井嘉尚	Drawing by Printing (1991,10・4) ★
17	白井嘉尚	Drawing by Printing (1992,4・16) ★
18	白井嘉尚	Drawing by Printing (1993,5・26) ★
19	白井嘉尚	Drawing by Printing (1993,5・31) ★
20	白井嘉尚	Drawing by Printing (1993,11・12) ★
21	白井嘉尚	Drawing by Printing (1993,11・23) ★
22	白井嘉尚	Drawing by Printing (1994,10・7) ★
23	白井嘉尚	Drawing by Printing (1995,4・4) ★
24	白井嘉尚	Drawing by Printing (1997,4・29) ★
25	白井嘉尚	Drawing by Printing (1997,5・3) ★
26	イ・ブル	メカメランコリア (Diluvium No.8) ★
27	イ・ブル	メカメランコリア (Diluvium No.12) ★

★は新収蔵品

東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 日本画特集展示 第1期
きらめく日本画

6月30日(火)～7月12日(日)

No.	作者名	作品名
1	伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風

2	伊藤若冲	白象群獣図 ■
3	円山応挙	木賊兔図
4	長澤蘆雪	牡丹孔雀図
5	中林竹洞・山本梅逸 浦上春琴・小田海僊	鴨水十五景詩画冊 ■
6	呉春	柳陰婦漁図屏風
7	横山華山	清見潟富士図
8	大久保一丘	富嶽明暁図
9	谷文晁	富士山図屏風
10	横山大観	群青富士
11	横山大観	春園の月
12	近藤浩一路	東山栗田口
13	松岡映丘	今昔ものがたり伊勢図
14	中村岳陵	婉賦水韻
15	鏑木清方	朝顔日記
16	秋野不矩	廻廊
17	秋野不矩	ウダヤギリ II

東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 日本画特集展示 第2期
富士山をめぐる

7月14日(火)～8月16日(日)

No.	作者名	作品名
1	作者不詳	富士曼荼羅図
2	墨江武禪	芙蓉峯細見之図
3	上田耕夫	富士山中図巻■
4	歌川貞秀	大日本富士山絶頂図
5	歌川芳幾	富士山北口女人登山図
6	岡田半江	洋人富士山遠望図屏風■
7	式部輝忠	富士八景図
8	作者不詳	富士三保松原図屏風
9	作者不詳	曾我物語 富士巻狩・仇討図屏風
10	狩野派	伊豆三津長浜より富嶽を望む図
11	中山高陽	八州勝地図■
12	大岡雲峰	日金山富嶽眺望図
13	原在正	富士山図巻(第2巻、第3巻) ■

14	堀田正民	行囊詩画■
15	歌川広重	不二三十六景より 伊豆の海浜
16	歌川広重	不二三十六景より 箱根山中湖水
17	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）より 箱根 湖水図

東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念 日本画特集展示 第3期
激突！東西の狩野派

8月18日(火) ～ 9月13日(日)

No.	作者名	作品名
1	狩野探幽	富士山図
2	狩野探幽	白鷗図
3	狩野探幽	富嶽図巻■
4	狩野山雪	富士三保松原図屏風■
5	狩野常信	波涛・花鳥図屏風
6	狩野永納	蘭亭曲水図屏風
7	狩野典信	山水図（以古図）
8	狩野惟信	山水図押絵貼屏風
9	狩野永良	親子犬図
10	狩野永良	翁・三番叟・千歳図■
11	狩野探信守道	大堰川図屏風
12	狩野永岳	三十六歌仙歌意図屏風（右隻）
13	狩野永岳	富士山登龍図

曾宮一念とその時代

9月15日(火) ～11月15日(日)

No.	作者名	作品名
1	曾宮一念	工部大学
2	曾宮一念	芝浦埋立地
3	曾宮一念	自画像
4	曾宮一念	梨畑道
5	曾宮一念	風景
6	曾宮一念	種子静物
7	曾宮一念	八つ残雪
8	曾宮一念	麦秋
9	曾宮一念	スペインの野
10	曾宮一念	毛無連峯
11	曾宮一念	根古岳
12	黒田清輝	富士之図（6点組）
13	小出楯重	静物

14	和田英作	富士
15	鶴田吾郎	余の見たる曾宮君
16	清水登之	セーヌ河畔
17	佐伯祐三	ラ・クロッシュ
18	里見勝蔵	静物
19	川口軌外	白い花
20	三岸好太郎	海 ■
21	児島善三郎	箱根
22	須田国太郎	筆石村
23	青木達弥	薄
24	海老原喜之助	かぜ
25	鳥海青児	壁の修理
26	熊谷守一	はたるぶくろ
27	高島達四郎	エトルタ
28	小林和作	秋山

耳をすませて一音と楽器のある風景

11月17日(火) ～2021年 1月24日(日)

No.	作者名	作品名
1	狩野宗眼重信	帝鑑図・咸陽宮図屏風 ※11月17日～12月20日展示
2	木村武山	羽衣 ※12月22日～1月24日展示
3	鏑木清方	『朝顔日記』より「第七段 露の干ぬ間」 ※11月17日～12月20日展示
4	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
5	クロード・ロラン	農民の踊り（小）
6	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエボロ	『エジプトへの逃避』より 「天使に称揚される紋章」
7	マックス・ベックマン	『顔』より 「カフェの音楽」
8	ワシリー・カンディンスキー	《冷たいかたちのある即興》のための習作
9	ジャン＝バティスト＝カミュー・コロ	『40のガラス版画』より「ガリア人の輪舞曲」
10	赤城泰舒	ギターを弾く少年
11	中川雄太郎	（ギターをひく人物）
12	中川雄太郎	ヴァイオリンのある静物
13	青木達弥	人物
14	駒井哲郎	残雪譜
15	駒井哲郎	枝おろし
16	二見彰一	海のうた
17	二見彰一	ソナチネ
18	二見彰一	宇宙へのプレリュード
19	二見彰一	五月の歌

20	二見彰一	バルトークの部屋
21	二見彰一	クレーの扉
22	二見彰一	朝のコラール
23	二見彰一	とぎれたフーガ
24	二見彰一	風の中のオルフェウス
25	二見彰一	ノクチュルヌ
26	二見彰一	リストとともに
27	二見彰一	花のコラール
28	二見彰一	青いメヌエット
29	二見彰一	バッハを聞いた後で
30	二見彰一	青いホルン、夜
31	二見彰一	浮かぶ花 (1)
32	二見彰一	アンダンテ・カンタビレ
33	二見彰一	透る音 (1)
34	二見彰一	夜への扉
35	二見彰一	舞う音 (1)
36	二見彰一	もう一度バッハを
37	二見彰一	エメラルドの夜 (2)
38	二見彰一	舞う音 (2)
39	二見彰一	風のかたみ
40	二見彰一	風の対話
41	二見彰一	海のホルン
42	二見彰一	コンサートへの招待 (1)
43	二見彰一	ホルンのユモレスク
44	二見彰一	サウンド・コンビネーション
45	二見彰一	バッハとジャズと
46	二見彰一	版画集『海から』より「海の音」
47	二見彰一	版画集『海から』より「海のヴァイオリン」
48	二見彰一	版画集『海から』より「海の胎生」
49	二見彰一	青のトリオ
50	二見彰一	ハーブのために
51	二見彰一	弦のアリア
52	二見彰一	はばたくロンド
53	二見彰一	カデンツァ・メランコリー
54	二見彰一	プラネットから(2)
55	二見彰一	ふたつのホルンのために (1)
56	二見彰一	流れのバラード

57	二見彰一	水辺のバラード
58	二見彰一	波のフーガ (1)

日本戦後美術の挑戦

1月26日(火) ～ 4月4日(日)

No.	作者名	作品名
1	岡田謙三	作品
2	清川泰次	天と地と-56
3	嶋本昭三	1961-3
4	向井修二	作品
5	田中敦子	1985A
6	山口長男	脈
7	難波田龍起	ミクロの世界
8	宮崎万平	作品62
9	磯辺行久	WORK62-64
10	宮脇愛子	作品12
11	吉仲太造	現代美術
12	前田守一	作品CB-2「木偶」
13	伊藤隆史	現代人
14	伊藤隆史	壁ノ鳥
15	野田好子	海辺
16	菅井汲	オンナ
17	菅井汲	悪魔の鎖
18	菅井汲	赤
19	菅井汲	春
20	菅井汲	偶然3

名品コーナー

No.	作者名	作品名
4月7日(火) - 5月31日(日)		
村上華岳	春峰晴煙図	
金山平三	千曲川 (信濃路の春)	
リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む	
6月13日(土) ～ 8月16日(日)		
斎藤義重	作品 2	
佐伯祐三	ラ・クロッシュ	
パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景	

8月18日(火)～10月18日(日)	
伊藤小坡	牡丹花 さかり図■ ※8月18日～9月13日展示
菊池契月	観菊図 ■ ※9月15日～10月18日展示
ヨーハン＝バルトールト・ ヨンキント	オンフルール近郊の街道
李禹煥	点より■
※10月20日～11月8日は「めぐりアート静岡2021」出品作品を展示	
11月10日(火)～2021年1月24日(日)	
平井顕斎	望嶽図 ※11月10日～12月13日展示
建部綾足	魚図(海鰐図) ※12月15日～1月24日展示
徳川慶喜	風景
鈴木慶則	非在のタブロー 一空
1月26日(火)～4月4日(日)	
新海竹太郎	農夫
柳原義達	道標・鳩
淀井敏夫	野の兎

移動美術展

広重・大観・ロダンが沼津にやってくる（会場：沼津市民文化センター 会期：10月22日～11月 3 日）

No.	作者名	作者生没年	作品名	材質	制作年代(西暦)	制作年代(和暦)	形状	寸法
第1章 静岡県立美術館へようこそ								
1	伊藤若冲	1716－1800（正徳 6－寛政12）	樹花鳥獣図屏風（複製）	印刷	21世紀	現代	六曲一双屏風	右 137.5×355.6 左 137.5×366.2
2	オーギュスト・ロダン	1840-1917	考える人	ブロンズ	1880	1880 (鑄造1920年以前)	立体	h37.2×28.6×23.6
3	横山大観	1868－1958（明治 1－昭和33）	富士山	絹本着色	1950－1955頃	昭和25－30頃	額装	58.7×73.7
4	東山魁夷	1908－1999（明治41－平成11）	秋富士	絹本着色	1955	昭和30	額装	66.6×88.1
5	小野竹喬	1889－1979（明治22－昭和54）	はつ夏	紙本着色	1955－64	昭和30年代	額装	46.7×57.7
6	杉山寧	1909－1993（明治42－平成5）	ペルシャ三彩皿・蜜柑	紙本着色			額装	49.7×32.8
7	山本丘人	1900－1986（明治33－昭和61）	山野待春	紙本淡彩			額装	35.0×42.2
第2章 沼津とその周辺の風景と画家								
8	平木政次	1859－1943（安政 6－昭和18）	富士	キャンヴァス、油彩	1897	明治30	額装	44.0×67.0
9	梅原龍三郎	1888－1986（明治21－昭和61）	暁天（富士山・大仁）	紙本着色	1944－56頃	昭和19－31頃	額装	46.3×33.0
10	梅原龍三郎	1888－1986（明治21－昭和61）	富士山内浦	紙本墨画	1949	昭和24	額装	36.5×20.3
11	平塚運一	1895－1997（明治28－平成 9）	伊豆梅林	キャンヴァス、油彩	1933	昭和8	額装	50.0×60.5
12	高島達四郎	1895－1976（明治28－昭和51）	伊豆下田港	キャンヴァス、油彩	1976	昭和51	額装	53.0×65.3
13	栗原忠二	1886－1936（明治19－昭和11）	セントポール	キャンヴァス、油彩	1916頃	大正 5 頃	額装	80.0×100.0
14	栗原忠二	1886－1936（明治19－昭和11）	ロンドン郊外	キャンヴァス、油彩			額装	50.0×60.7
15	栗原忠二	1886－1936（明治19－昭和11）	緑陰水浴	キャンヴァス、油彩			額装	45.3×60.8
16	栗原忠二	1886－1936（明治19－昭和11）	奈良浅茅ヶ原	キャンヴァス、油彩			額装	50.0×60.7
17	柏木俊一	1894－1971（明治27－昭和46）	道	キャンヴァス、油彩		大正時代	額装	37.5×45.5
18	柏木俊一	1894－1971（明治27－昭和46）	海と畑と森	キャンヴァス、油彩	1934	昭和 9 年	額装	73.0×100.0
第3章 沼津ゆかりの版画								
19	歌川広重	1797－1858（寛政 9－安政 5）	東海道五拾三次（保永堂版） ／沼津 黄昏図	紙、木版、色摺	1833頃	天保 4 頃	大判錦絵	25.7×38.6
20	歌川広重	1797－1858（寛政 9－安政 5）	東海道五拾三次（保永堂版） ／原 朝之富士	紙、木版、色摺	1833頃	天保 4 頃	大判錦絵	25.5×38.7
21	歌川広重	1797－1858（寛政 9－安政 5）	東海道五拾三次（隸書）／三島	紙、木版、色摺	1849頃	嘉永 2 頃	大判錦絵	24.0×36.5
22	歌川広重	1797－1858（寛政 9－安政 5）	東海道五拾三次（隸書）／沼津	紙、木版、色摺	1849頃	嘉永 2 頃	大判錦絵	24.0×36.0
23	歌川広重	1797－1858（寛政 9－安政 5）	東海道五拾三次（隸書）／原	紙、木版、色摺	1849頃	嘉永 2 頃	大判錦絵	24.2×36.5
24	山口源	1896－1976（明治29－昭和51）	ざくろ	紙、多色木版	1943	昭和18		33.0×45.0 [36.5×47.7]
25	山口源	1896－1976（明治29－昭和51）	春来る丘	紙、多色木版	1942	昭和17		33.0×44.5 [37.5×47.5]
26	山口源	1896－1976（明治29－昭和51）	失題 [いちょう]	紙、物体版画	1951	昭和26		36.5×27.0 [39.5×29.7]
27	山口源	1896－1976（明治29－昭和51）	失題 [裸婦と手]	紙、木版	1950頃	昭和25頃		40.5×34.5 [42.0×35.5]
28	山口源	1896－1976（明治29－昭和51）	能役者	紙、木版	1958	昭和33		86.5×47.0
29	山口源	1896－1976（明治29－昭和51）	効能	紙、多色木版	1959	昭和34		61.2×42.3 [65.5×48.1]
30	山口源	1896－1976（明治29－昭和51）	同棲	紙、多色木版	1962	昭和37		84.2×45.6 [92.6×52.0]

移動美術展

石田徹也を中心に

(会場：焼津文化会館、会期：11月10日～11月25日)

No.	作者名	作者生没年	作品名	材質	制作年代(西暦)	制作年代(和暦)	形状	寸法
第1章 特集 石田徹也の世界								
1	石田徹也	1973－2005（昭和48－平成17）	居酒屋発	紙、アクリル	1995	平成7	額装	51.0×78.5
2	石田徹也	1973－2005（昭和48－平成17）	（無題2）	板、アクリル	1997頃	平成9頃	額装	103.0×145.6
3	石田徹也	1973－2005（昭和48－平成17）	（無題3）	キャンヴァス、アクリル	2000頃	平成12	額装	194.0×162.0
4	石田徹也	1973－2005（昭和48－平成17）	（無題4）	キャンヴァス、アクリル	2000頃	平成12	額装	194.0×162.0
5	石田徹也	1973－2005（昭和48－平成17）	（無題5）	キャンヴァス、アクリル	2001	平成13	額装	45.5×53.0
6	石田徹也	1973－2005（昭和48－平成17）	（無題6）	キャンヴァス、アクリル	2001頃	平成13頃	額装	130.0×162.0
第2章 静岡県立美術館コレクション選								
7	伊藤若冲	1716－1800（正徳6－寛政12）	樹花鳥獣図屏風（複製）	印刷	21世紀	現代	六曲一双屏風	右 137.5×355.6 左 137.5×366.2
8	横山大観	1868－1958（明治1－昭和33）	富士山	絹本着色	1950－1955頃	昭和25－30頃	額装	58.7×73.7
9	小野竹喬	1889－1979（明治22－昭和54）	はつ夏	紙本着色	1955-64	昭和30年代	額装	46.7×57.7
10	杉山寧	1885－1977（明治18－昭和52）	ペルシャ三彩皿・蜜柑	紙本着色			掛幅装	37.2×53.8
11	山本丘人	1900－1986（明治33－昭和61）	山野待春	紙本淡彩			額装	35.0×42.2
12	東山魁夷	1908－1999（明治41－平成11）	秋富士	絹本着色	1955	昭和30	額装	66.6×88.1
13	梅原龍三郎	1888－1986（明治21－昭和61）	暁天（富士山・大仁）	紙本着色	1944－56頃	昭和19－31頃	額装	46.3×33.0
14	梅原龍三郎	1888－1986（明治21－昭和61）	富士山内浦	紙本墨画	1949	昭和24	額装	36.5×20.3
15	オーギュスト・ロダン	1840－1917	考える人	ブロンズ	1880	1880 (鑄造1920年以前)	立体	h37.2×28.6×23.6
16	北川民次	1894－1989（明治27－平成1）	タスコの祭	油彩	1937	昭和12	額装	178.1×267.0
17	北川民次	1894－1989（明治27－平成1）	雑草の如くⅢ（裸婦）	油彩	1949	昭和24	額装	130.3×162.0
18	北川民次	1894－1989（明治27－平成元）	山村初春（高草山風景）	油彩	1941	昭和16	額装	60.5×72.5

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号

平成3年3月19日条例第2号

平成4年3月25日条例第14号

平成8年3月28日条例第11号

平成11年3月19日条例第16号

平成13年7月24日条例第45号

平成15年3月12日条例第2号

平成17年7月15日条例第49号

平成22年3月26日条例第23号

平成24年3月23日条例第1号

平成26年3月28日条例第29号

平成31年3月26日条例第18号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認

を受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。

(2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。

(3) その他その使用を不相当と認めるとき。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

(1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。

(2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

(3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあつても、県はその賠償の責めを負わない。

(一部改正〔平成3年条例2号〕)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。

(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員の任命の基準)

第13条の2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

(追加〔平成24年条例第1号〕)

(協議会の委員)

第14条 委員の定数は、15人以内とする。

2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(一部改正〔平成24年条例第1号〕)

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(一部改正〔平成3年条例2号・17年49号〕)

附 則

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則（平成元年3月29日条例第43号）

1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成3年3月19日条例第2号）

1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則（平成4年3月25日条例第14号）

1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成8年3月28日条例第11号）

(平成24年3月23日条例第1号)

1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成11年3月19日条例第16号）

1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成13年7月24日条例第45号）

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成15年3月12日条例第2号）

この条例は、平成15年4月1日より施行する。

附 則（平成17年7月15日条例第49号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成22年3月26日条例第23号）

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月23日条例第1号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月23日条例第29号）

1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成31年3月26日条例第18号）

1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。

2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1（第3条関係）

(一部改正〔平成22年条例第23号〕)

(1) 常設展示

利 用 区 分	観 覧 料
個 人	300円
団 体	1人につき 200円

備考 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。

2 団体とは、20人以上をいう。

3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第2（第5条関係）

利 用 区 分	特別観覧料
模 写	1点1日につき 2,000円
模 造	1点1日につき 2,000円
撮 影	1点1回につき 4,000円
熟 覧	1点1日につき 1,000円
原 板 使 用	1点1回につき 3,000円

別表第 3（第 9 条関係）
（一部改正〔平成元年条例43号・4 年14号・8 年11号・
11年16号・13年45号・15年 2 号・31年18号〕）
(1) 県民ギャラリー

利用区分		使用料
		10時から17時30分まで
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,350円
	県民ギャラリーB	13,050円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,550円
	県民ギャラリーB	8,700円

(2) 講堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,750円	14,050円	21,800円

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例
施行規則

（平成 3 年 3 月26日静岡県規則第24号）
改正 平成 5 年 3 月25日規則第13号
平成 6 年 3 月10日規則第 5 号
平成 9 年 3 月28日規則第51号
平成12年 3 月31日規則第17号
平成13年 7 月24日規則第59号
平成20年 3 月31日規則第19号
令和元年 7 月 1 日規則第 4 号
令和 3 年 3 月26日規則第 5 号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例
施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施
行規則
（趣旨）

第 1 条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び
使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以
下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定め
るものとする。

（開館時間及び休館日）

第 2 条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の
開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、
美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認
める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館
し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

- (1) 開館時間 午前10時から午後 5 時30分まで。ただ
し、入館時間は、午後 5 時までとする。
- (2) 休館日
ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和
23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、

その翌日以降の最初の休日でない日）
イ 12月27日から翌年の 1 月 3 日までの日
（一部改正〔平成 9 年規則51号・13年59号〕）
（観覧手続）

第 3 条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、
条例第 3 条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付
を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体
については、観覧後に観覧料を納めることができる。
（特別観覧手続）

第 4 条 条例第 4 条第 1 項に規定する特別観覧をしよう
とする者は、あらかじめ、様式第 1 号による特別観覧
承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認
書を当該申請をした者に交付するものとする。
（県民ギャラリー等の使用手続）

第 5 条 条例第 6 条第 1 項に規定する県民ギャラリー等
を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第 2 号に
よる県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出し
なければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、
県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交
付するものとする。
（使用の制限）

第 6 条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対
して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷
するおそれのある者
- (2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があ
ると認められる者
- (3) その他館長の指示等に違反した者
（譲渡等の禁止）

第 7 条 第 4 条第 2 項又は第 5 条第 2 項の規定による承
認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、そ
の権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。
（原状回復）

第 8 条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速
やかに、県民ギャラリー等を原状に復しなければなら
ない。条例第 8 条第 1 項の規定により使用の承認の取
消し等の処分を受けたときも、同様とする。
（損害賠償）

第 9 条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由
により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美
術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害
を賠償しなければならない。
（観覧料等の減免）

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次
の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、そ
の減免する額は、当該各号に定める額とする。

- (1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福
祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展

示を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料（団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料（小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。）をいう。）の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）

(5) 幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(7) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕）

（観覧料等の還付）

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

(2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料（使用料）還付申請書を

館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

（委任）

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成5年3月25日規則第13号）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月10日規則第5号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月28日規則第51号）

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日規則第17号）

1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式（以下「旧様式」という。）により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（平成13年7月24日規則第59号）

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日規則第19号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日規則第19号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（令和元年7月1日規則第4号）

1 この規則は、不正競争防止法等の一部を改正する法律（平成30年法律第33号）の施行の日（令和元年7月1日）から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する様式により提出された申請書等とみなす。

3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（令和3年3月26日規則第5号）

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の規定及び様式により提出されている申請書等は、改正後のそれぞれの規則の相当する規定及び様式により提出されたものとみなす。

3 この規則の施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

様式第 1 号（第 4 条関係）
（用紙 日本産業規格A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・12 年17号・令和元年 4 号〕）
特別観覧承認申請書
年 月 日
静岡県立美術館長 様
住所
氏名 印
電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名				点数
特別観覧 の 目 的						
区分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用	
日時	年	月	日	時から	時まで	
内 訳	模写	点	日	円	合 計	円
	模造	点	日	円		
	撮影	点	回	円		
	熟覧	点	日	円		
	原板使用	点	回	円		
備考						

様式第 2 号（第 5 条関係）
（用紙 日本産業規格A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・12 年17号・令和元年 4 号〕）
県民ギャラリー等使用承認申請書
年 月 日
静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称					
展覧会、講演等の内容					
使 用 区 分	県民ギャラリー（Ａ・Ｂ）				講堂
使 用 期 間	年	月	日（ ）	時	分から
	年	月	日（ ）	時	分まで
				日間	
入場料等の徴収の有無	有・無				円
主 催 者 名					
連絡責任者及び電話					
後 援 者 名					

（注）展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第 3 号（第10条関係）
（用紙 日本産業規格A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・令和元年 4 号〕）
観覧料等減免申請書
年 月 日
静岡県立美術館長 様
住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減 免 申 請 の 区 分	観覧料	特別観覧料	使用料
申 請 の 理 由			
日 時	年 月 日（ ） 時 分から	年 月 日（ ） 時 分まで	
観 覧 人 員	人		
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員	人		
責 任 者 氏 名			
責 任 者 電 話 番 号			
観 覧 料 等	円		
減 免 申 請 額	円		

様式第 4 号（第11条関係）
（用紙 日本産業規格A 4 縦型）
（一部改正〔平成 6 年規則 5 号・令和元年 4 号〕）
特別観覧料 還付申請書
使用料
年 月 日
静岡県立美術館長 様

住所 〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕
氏名 〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕

次のとおり特別観覧料の還付を受けたいので、申請します。
使 用 料

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

附 則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申込とする。

2 優先予約を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

（申込方法）

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。（設備取り付け等）

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

（物品等の販売）

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

（展示品等の管理）

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持つて行うものとする。

（現状回復義務）

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。

（職員の立ち入り）

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、令和元年12月25日から施行する。

■静岡県立美術館講堂利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12

条に基づき、講堂の管理を適正に行うため、次のとおりこの規定を定める。

(利用範囲)

第2条 講堂は、芸術文化の発表と普及の目的以外での使用は認めない。

2 芸術文化の発表の目的で使用する場合であっても、入場料を徴収する場合は利用できない。

(使用期間)

第3条 使用期間は、1日もしくは半日とする。

2 使用時間は、1日の場合は午前10時から17時30分までとし、半日の場合、午前は、10時から12時30分まで、午後は、13時から17時30分までとする。

(申込期間)

第4条 申込期間は、使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。

2 県民ギャラリーにおいて優先予約を申請する場合のみ、講堂の優先予約を認めるものとする。なお、優先予約の申込期間は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

(備品の管理)

第8条 使用中の備品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

(原状回復義務)

第9条 退出時には施設等を原状に復し、美術館の点検を受けなければならない。残留された物品に関しては、美術館は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

(1) 美術品の選定に関する事。

(2) その他美術に関する専門的事項に関する事。

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の委員)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

2 委員の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任することができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長

及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が召集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。

2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例(昭和60年12月23日条例第38号)第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。

3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

附 則

1 この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。

3 委員会に会長及び副会長を置く。

4 会長にはスポーツ・文化観光部長、副会長には、部長代理をもってこれに充てる。

5 会長は、会務を総理する。

6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が召集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。

3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。

4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。

5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。

6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この改正は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和2年4月1日から施行する。

別表

スポーツ・文化観光部長 部長代理 文化局長 文化政策課長 美術館副館長
--

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

(1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。

(2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

(1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。

(2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。

(3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。

(4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

(1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。

(2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

■静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

2 委員の人数は、10名以内とする。

3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

2 委員長は、知事が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。

4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。

2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 令和2年9月30日)

■静岡県立美術館第三者評価委員会運営要領

(趣旨)

第1 この要領は、「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）の運営に関し、静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱（以下「要綱」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。（報償費及び旅費）

第2 委員会及び要綱第5条の委員会及び分科会へ出席した委員には、次のとおり報償費及び旅費を支給する。

(1) 報償費

委員長 12,000円

その他の委員 11,100円

要綱第5条第4項の規定に基づき

会議に出席した者 11,100円

(2) 旅費

県の旅費計算方法に準じて計算した額

2 前項に規定するもののほか、委員会及び分科会における検討に必要な作業、打合せ等を行った委員には、別に定める報償費及び旅費を支給することができる。（文書等の記号及び番号）

第3 施行する文書等には、次に定めるところにより、記号及び番号を付するものとする。

(1) 記号は「三評」とする。

(2) 番号は、別紙文書収発簿により付するものとする。ただし、軽易な文書等については番号を省略し、号外で処理することができる。

(雑則)

第4 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要領は、平成18年9月21日から施行する。

(最終改正 平成24年5月31日)

組織・名簿

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常 勤		1人	10人	10人	21人
非 常 勤	1人			4人	5人

■美術館協議会委員

鈴木 壽美子	静岡県文化協会会長
立 田 洋 司	静岡県立大学名誉教授
曾 根 正 弘	静岡県立美術館友の会会長
宮 本 宗 明	高等学校美術・工芸教育研究会会長 (県立浜松江之島高等学校校長)
川 崎 敦 子	静岡市立小中学校校長会代表 (静岡市立安東小学校校長)
漁 田 俊 子	静岡産業大学経営学部教授
望 月 宏 明	(社)静岡県観光協会 専務理事
富 澤 か な	静岡県立大学国際関係学部准教授
日比野 秀 男	掛川市ステンドグラス美術館館長
堀 切 正 人	常葉美術館館長、 常葉大学教育学部准教授
大須賀 紳 晃	地元報道機関代表 (㈱静岡新聞社・静岡放送㈱ 常務取締役)
木 村 功 二	全国報道機関代表 (NHK静岡放送局長)
石 塚 正 孝	グランシップ館長

■専門委員

木 村 重 圭	前甲南女子大学教授
栗 田 秀 法	名古屋大学大学院人文学研究科教授
榊 原 悟	岡崎市美術博物館館長・ おかざき世界子ども美術博物館特任館長
潮 江 宏 三	京都市立大学名誉教授
建 昌 哲	埼玉県立近代美術館館長 多摩美術大学学長
山 梨 絵美子	東京文化財研究所副所長

■資料評価委員

植 田 基 靖	静岡県スポーツ・文化観光部長
京 極 仁 志	静岡県スポーツ・文化観光部長代理
紅 野 聖 二	静岡県スポーツ・文化観光部文化局長
室 伏 学	静岡県文化政策課長
櫻 井 昌 明	静岡県立美術館副館長

■職 員

館 長	木 下 直 之
副 館 長	櫻 井 昌 明
総 務 課 長	堀 水 里 和
総 務 班 長	小 田 文 宏
主 査	金 原 功
主 査	小 澤 宏 明
主 任	加 藤 小百合
主 事	高 柳 智 穂
管 理 班 長	伊 藤 與 紀
主 査	三 輪 桂
主 任	村 上 能 久
主 任	大 橋 倫 代
学 芸 課 長	三 谷 理 華
上 席 学 芸 員	南 美 幸
上 席 学 芸 員	新 田 建 史
上 席 学 芸 員	村 上 敬
上 席 学 芸 員	川 谷 承 子
上 席 学 芸 員	泰 井 良
上 席 学 芸 員	石 上 充 代
上 席 学 芸 員	野 田 麻 美
上 席 学 芸 員	植 松 篤
主任学芸員	浦 澤 倫太郎
主 査	西 島 幸 代

■会計年度任用職員

新 間 教 子
中 島 友 絵
馬 場 夢 乃
西 畑 春 佳

歳入・歳出決算

■歳入決算単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	33,298
共催展収入	41,535
県民ギャラリー等使用料	4,166
財産売払・貸付・運用収入	4,501
助成金等	0
その他	11,905
計	95,405

■歳出決算単位：千円

項 目	金 額
人件費	191,368
管理費	276,257
運営費	49,726
施設管理費	226,531
事業費	91,464
企画展事業費	65,780
常設展事業費	7,544
資料・普及事業費	18,140
館蔵品取得費	9,955
施設整備費	183,787
基金積立	87
計	752,918

建築・設備概要

■建築概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
所 在 地 敷 地 構 造 ・ 規 模	静岡市駿河区谷田53番2号 県文化センター内（約130,000㎡） 鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	同左 同左 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、2階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕 上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、 長尺塩化ビニールシート貼、フローリング 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、 タイル打込PC板、吹付タイル 屋根：カラーステンレス葺、トップライト（アル ミ、複層ガラス） 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工 期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■設備概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
電 気 設 備	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器1φ 300KVA、3φ400KVAモールド型 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、 1,800rpm出力300KVA3φ3W6,600V 太陽光発電設備 10KW×2台 蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、 充電サイリスタ全自動整流器 弱 電 設 備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入 館者表示、映像資料（ビデオ）、電 話、放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤（自火 報、防排煙）、防犯非常錠制御盤、 防災アンプ（360W）、ITV監視装置、 地図式表示版	受変電設備 受電電圧6,600V60Hz 変圧器1φ280K VA、3φ350KVA 契約電力700KW 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、 1,800rpm出力200KVA3φ3W220V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置 弱 電 設 備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、 電話、放送、トイレ呼出表示、調光、 テレビ共聴 防災、防犯設備 同 左
空 気 調 和 設 備	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（150USRT、 40USRT）、温水焚吸収冷温水機（30 USRT）、空気熱源回収型スクリュ ー式ヒートポンプ冷凍機（100USRT）、 プレート式熱交換機（396,300Kcal/h） 蓄 熱 層 冷温水槽550㎡・55㎡、ソーラー用 20㎡ ソーラーパネル 平板型672枚 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民 ギャラリー1系統、その他4系統及 びパッケージ型1台、ファンコイルユ ニット46台、他空冷ヒートポンプパッ ッケージエアコン、ルームエアコン	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（80USRT） 2基、蒸気ボイラー（250Kg/h）2 基、空冷チラーユニット（3.77USRT） プレート式熱交換機（86,000Kcal/h） 冷温水クッションタンク 5㎡ 冷水クッションタンク 0.75㎡ 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱 交換機（3台）
衛 生 設 備	排 煙 機 ロビー系統他3系統3台 給 水 設 備 受水槽30㎡（二槽式）、高架水槽12 ㎡（二槽式） 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋内消火栓	排 煙 機 メイン展示室他2系統4台 給 水 設 備 空調用自動給水装置受水槽 5㎡ 排 水 設 備 公共下水道に放流 消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備そ の他屋外消火栓
昇 降 機 設 備	身 障 者 用 油圧式11人乗750kg 荷 物 用 油圧式3,000kg	身 障 者 用 油圧式23人乗1,500kg

■建設工事費

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
建 築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外 構	397,162	—
プロムナード	173,300	—
周辺環境整備	—	268,509
合 計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

・本館

実技室（114㎡）

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室（約20席）

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

レストラン（70席 198㎡）・休憩スペース（39席 92.3㎡）

レストラン「Rodin TERRACE」は、(株)なすびが運営している。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室（7室 1,777㎡）

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部にLED照明があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるよう

になっている。

県民ギャラリー（2室 490㎡）

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂（262席 305㎡）

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室（約30席 71㎡）

美術に関する講座を行う。常設展では展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室（15.21㎡）

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 日曜、祝日

10：30～15：30（2時間を限度）

授乳室 開館日全て

10：00～17：30（夜間開館日は20時まで）

・ロダン館

ロダンフロア（1,461㎡）

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室（149㎡）

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールに設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

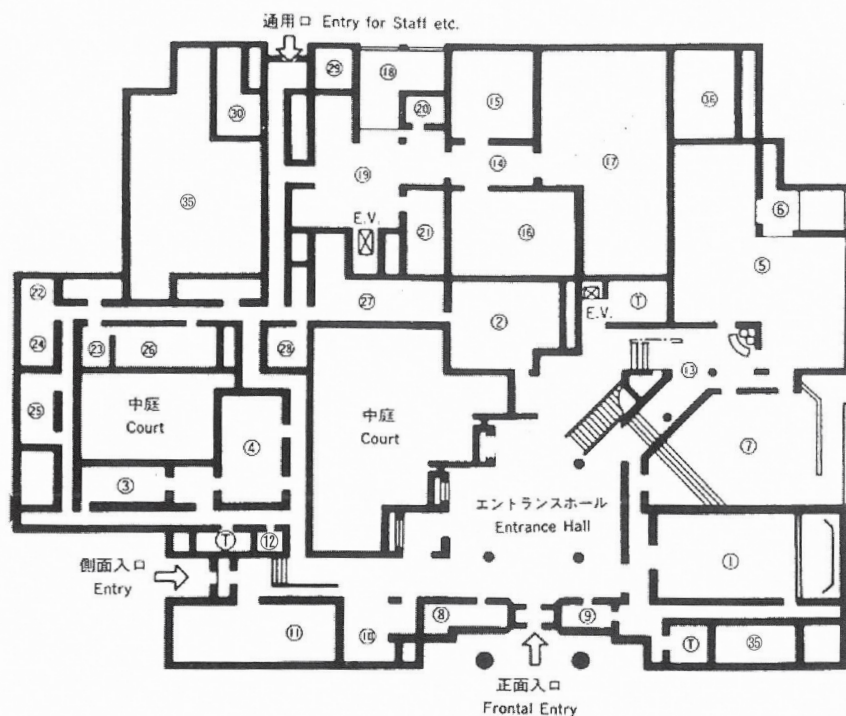
ブリッジ・ギャラリー（276㎡）

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図

■本館

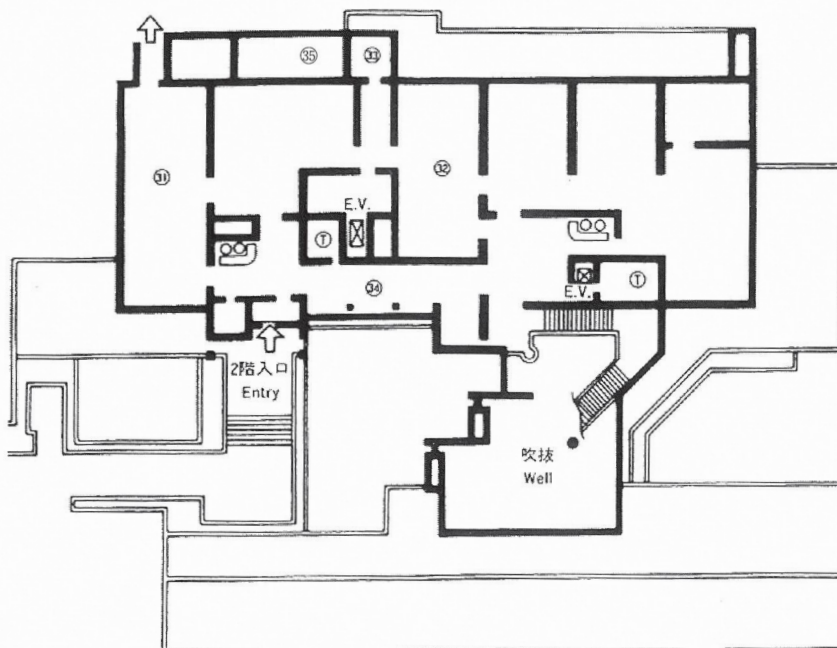
1階 First Floor



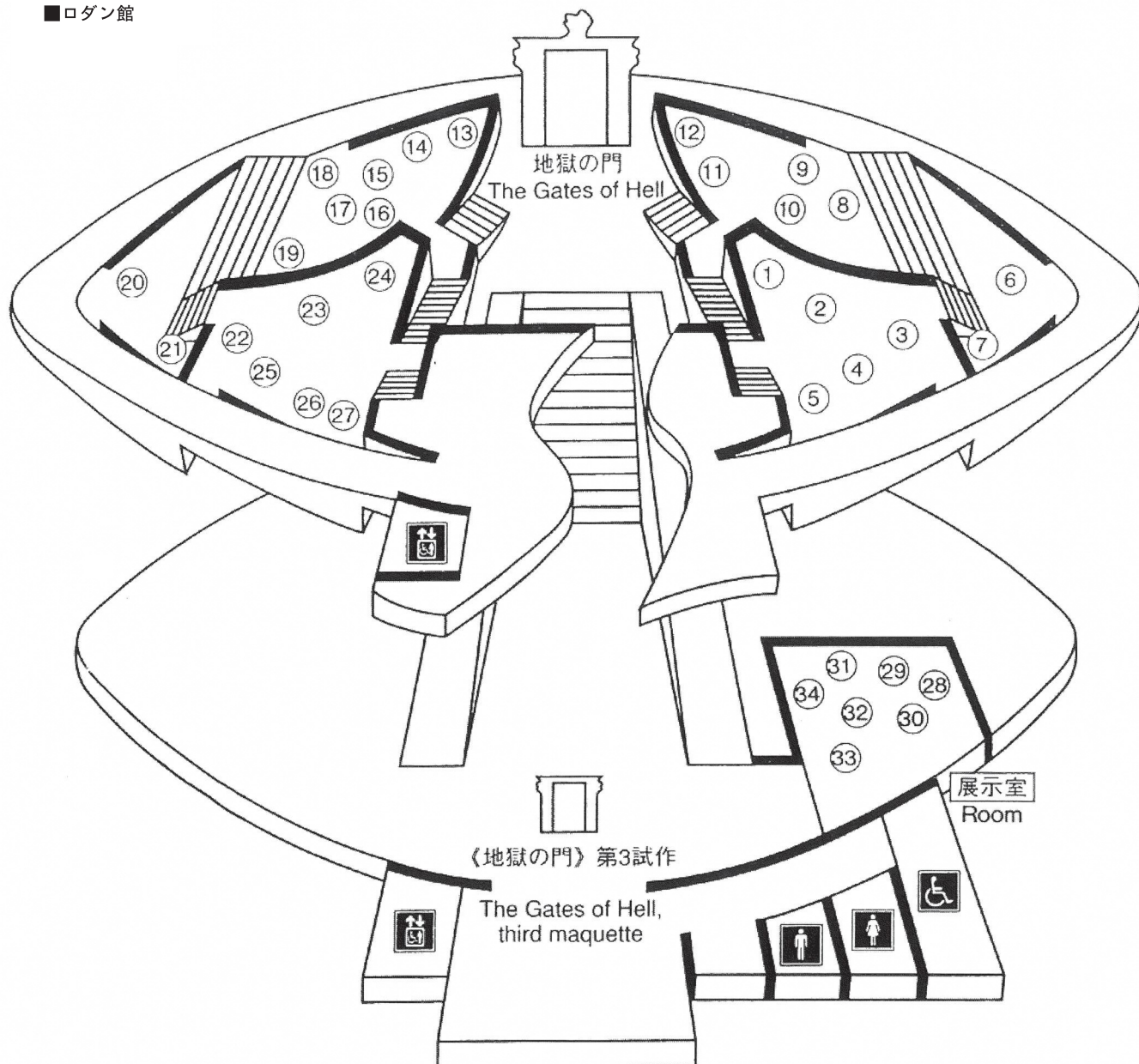
- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカーールーム Cloak Room
- ⑩ 休憩スペース Rest Space

36 (次頁へ)

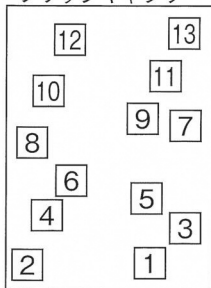
2階 Second Floor



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 託児・授乳室 Nursery
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫 1 Storage (1)
- ⑯ 収蔵庫 2 Storage (2)
- ⑰ 収蔵庫 3 Storage (3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ミュージアムショップ Museum Shop
- ㉟ 機械室 Machinery Room
- ㊱ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊲ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator



ブリッジギャラリー



ロダン, A

- ① 《カレーの市民》ジャン・デール
- ② 《カレーの市民》ジャン・ド・フィエンス
- ③ 《カレーの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレーの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレーの市民》アンドリュ・ダンドル
- ⑥ 《カレーの市民》ユスターシュ・ド・サン＝ピエール
- ⑦ 《カレーの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ パオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアン＝ルバージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレーの頭部
- ㉗ 花子のマスク

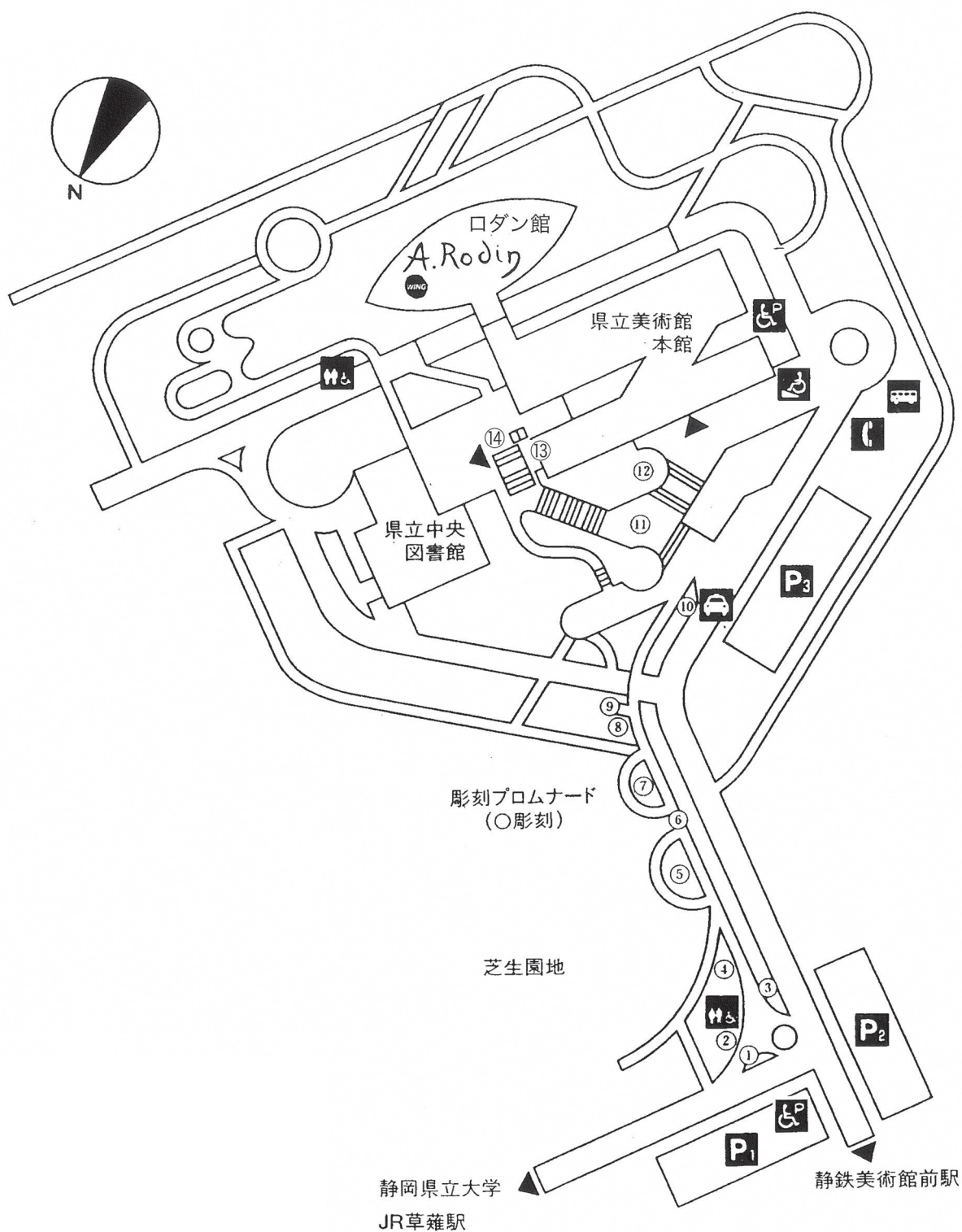
展示室

- ㉘ カルポー, J.B. / ナポリの漁師の少年

- ㉙ カリエ＝ベルーズ, A.E. /
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A. / バラの髪飾りの少女
- ㉛ カルポー, J.B. / 悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J. / 乳を与えるパリの女
- ㉝ フレミエ, E. / 蛇使い
- ㉞ パリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P. / オヴィリ
- ② バルラッハ, E. / 読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H. / 横たわる人体
- ④ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A. / 《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C. / ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシッツ, J. / 母と子
- ⑨ ロッソ, M. / 病める男
- ⑩ ブールデル, E.A. / アポロンの首
- ⑪ ブールデル, E.A. / ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A. / 《イル・ド・フランス》
のトルソ
- ⑬ クローデル, C. / 波



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークII》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式Vー相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線ー菱形II》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

- 開館時間 午前10時～午後 5 時30分
(展示室への入室は午後 5 時まで)
- [夜間開館] 8 月 8 日 (土)、15 日 (土)、22 日 (土)、
29 日 (土) は午後 7 時まで開館 (入室は午後 6 時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日 (但し、月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館)、年末・年始、その他展示替等のための休館日

- 収蔵品展観覧料
一般300円 (団体200円)
大学生以下・70歳以上の方は無料

■企画展観覧料

展覧会名	一般	70歳以上	高校・大学生
開校100年 きたれ、 バウハウス — 造形教育の基礎 —	1,000円 <800円>	500円 <400円>	無料
東京2020オリンピック・ パラリンピック開催記念 美の競演—静岡県美名品展	300円 <200円>	無料	無料
みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ— 線の魔術	1,400円 <1,200円>	700円 <600円>	700円 <600円>
富野由悠季の世界	1,200円 <1,000円>	600円 <500円>	無料
パラレル・ヒストリーズ 現代アートの諸潮流	800円 <600円>	400円 <300円>	無料
ムーミン展 THE ART AND THE STORY	1,300円 <1,100円>	700円 <600円>	700円 <600円>

- * < > 内は前売及び20名以上の団体料金
- * 中学生以下及び、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。

- 施設利用料
- (1) 県民ギャラリー

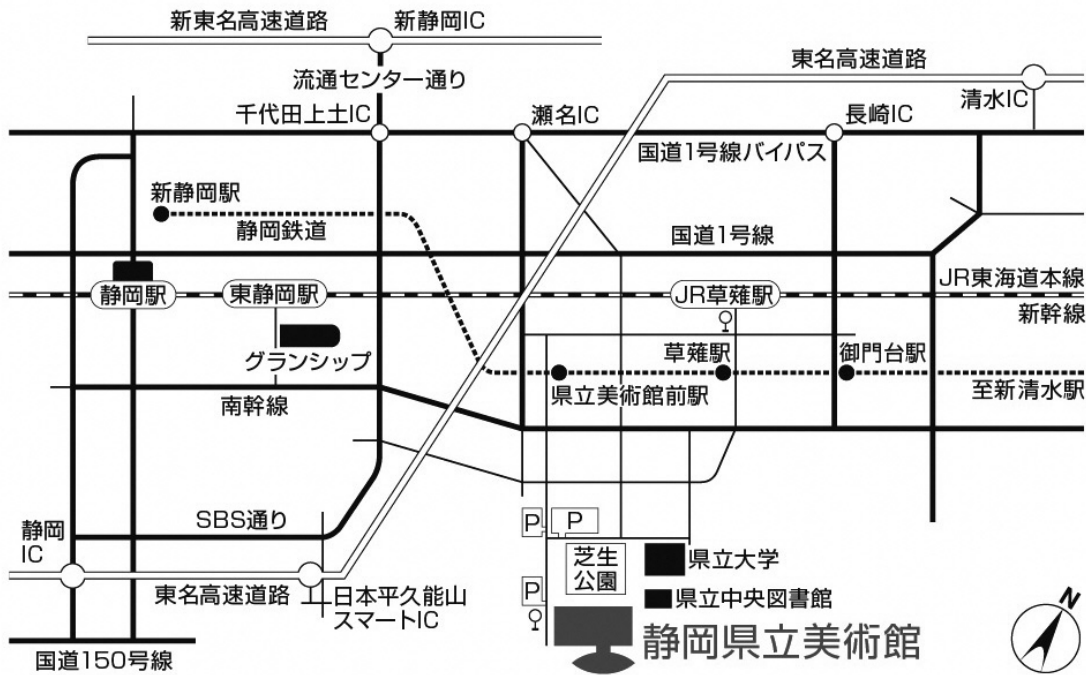
利用区分		使用料
		10時～17時30分
入場料を徴収する場合	県民ギャラリー A	17,350円
	県民ギャラリー B	13,050円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリー A	11,550円
	県民ギャラリー B	8,700円

- (2) 講堂

使用料		
午前	午後	全日
10時～12時30分	13時～17時30分	10時～17時30分
7,750円	14,050円	21,800円

交通案内 JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約 6 分
静鉄「県立美術館前駅」から徒歩で約15分または静鉄バスで約 3 分
JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分または北口から静鉄バスで約30分
東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約 25 分、日本平久能山スマートICから車で15 分、新東名高速道路・新静岡ICから車で約 25 分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
電話番号 総務課 TEL 054 - 263 - 5755
FAX 054 - 263 - 5767
学芸課 TEL 054 - 263 - 5857
FAX 054 - 263 - 5742
美術館友の会事務局 054 - 264 - 0897
ミュージアムショップ 054 - 264 - 8926



令和 2 年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：©静岡県立美術館

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755

印刷：池田屋印刷株式会社

〒422-8058 静岡県静岡市駿河区中原746-1

Annual Report of Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2020

Edited and Published by ©Shizuoka Prefectural Museum of Art

Printed by IKEDAYA Printing Co.,Ltd.,Shizuoka

Printed in Japan 2021

